GA-EP45-UD3P

LGA775ソケットマザーボード (Intel® Core™ プロセッサファミリー/
Intel® Pentium® プロセッサファミリー/Intel® Celeron® プロセッサファミリー用

ユーザー ズ マニュアル

改版 1001

12MJ-EP45UD3P-1001R

Declaration of Conformity

We, Manufacturer/Importer
(full address)

G.B.T. Technology Trading GMbH
Bullenkoppel 16, 22047 Hamburg, Germany

declare that the product
(description of the apparatus, system, installation to which it refers)

Motherboard

GA-EP45-UD3P

is in conformity with
(reference to the specification under which conformity is declared)
in accordance with 89/336 EEC-EMC Directive

☐ **EN 55011**	Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of industrial, scientific and medical (ISM) high frequency equipment	☒ **EN 61000-3-2**	Disturbances in supply systems caused
		☒ **EN 61000-3-3**	Disturbances in supply systems caused by household appliances and similar electrical equipment "Voltage fluctuations"
☐ **EN 55013**	Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of broadcast receivers and associated equipment	☒ **EN 55024**	Information Technology equipment-Immunity characteristics-Limits and methods of measurement
☐ **EN 55014-1**	Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of household electrical appliances, portable tools and similar electrical apparatus	☐ **EN 50082-1**	Generic immunity standard Part 1: Residual, commercial and light industry
		☐ **EN 50082-2**	Generic immunity standard Part 2: Industrial environment
☐ **EN 55015**	Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of fluorescent lamps and luminaries	☐ **EN 55014-2**	Immunity requirements for household appliances tools and similar apparatus
☐ **EN 55020**	Immunity from radio interference of broadcast receivers and associated equipment	☐ **EN 50091- 2**	EMC requirements for uninterruptible power systems (UPS)
☒ **EN 55022**	Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of information technology equipment		
☐ **DIN VDE 0855** ☐ **part 10** ☐ **part 12**	Cabled distribution systems; Equipment for receiving and/or distribution from sound and television signals		
☒ **CE marking**			(EC conformity marking)

The manufacturer also declares the conformity of above mentioned product with the actual required safety standards in accordance with LVD 2006/95/EC

☐ **EN 60065**	Safety requirements for mains operated electronic and related apparatus for household and similar general use	☒ **EN 60950**	Safety for information technology equipment including electrical business equipment
☐ **EN 60335**	Safety of household and similar electrical appliances	☐ **EN 50091-1**	General and Safety requirements for uninterruptible power systems (UPS)

Manufacturer/Importer

Signature : Timmy Huang

(Stamp) Date : Sept. 15, 2008 Name : Timmy Huang

DECLARATION OF CONFORMITY

Per FCC Part 2 Section 2.1077(a)

Responsible Party Name: G.B.T. INC. (U.S.A.)

Address: 17358 Railroad Street
City of Industry, CA 91748

Phone/Fax No: (818) 854-9338/ (818) 854-9339

hereby declares that the product

Product Name: Motherboard

Model Number: GA-EP45-UD3P

Conforms to the following specifications:

FCC Part 15, Subpart B, Section 15.107(a) and Section 15.109 (a),Class B Digital Device

Supplementary Information:

This device complies with part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) This device may not cause harmful and (2) this device must accept any inference received, including that may cause undesired operation.

Representative Person's Name: ERIC LU

Signature: Eric Lu

Date: Sept. 15, 2008

著作権

免責条項

このマニュアルの情報は著作権法で保護されており、GIGABYTE に帰属します。
このマニュアルの仕様と内容は、GIGABYTE により事前の通知なしに変更されることがあります。
本マニュアルのいかなる部分も、GIGABYTE の書面による事前の承諾を受けることなしには、いかなる手段によっても複製、コピー、翻訳、送信または出版することは禁じられています。

ドキュメンテーションの分類

本製品を最大限に活用できるように、GIGABYTE では次のタイプのドキュメンテーションを用意しています：

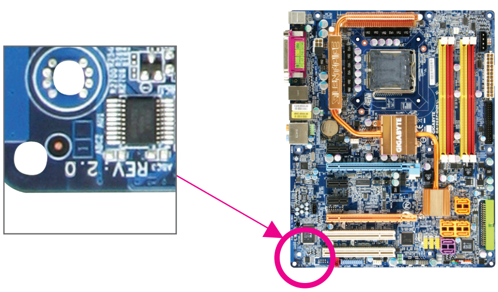
- 製品を素早くセットアップできるように、製品に付属するクイックインストールガイドをお読みください。
- 詳細な製品情報については、ユーザーマニュアルをよくお読みください。
- GIGABYTE に固有な機能の使用法については、当社Webサイトの Support\Motherboard\Technology ガイドの情報をお読みになるかダウンロードしてください。

製品関連の情報は、以下のWebサイトを確認してください：
http://www.gigabyte.com.tw

マザーボードリビジョンの確認

マザーボードのリビジョン番号は「REV: X.X 」のように表示されます。例えば、「REV: 1.0」はマザーボードのリビジョンが 1.0 であることを意味します。マザーボード BIOS、ドライバを更新する前に、または技術情報を探しているときは、マザーボードのリビジョンをチェックしてください。

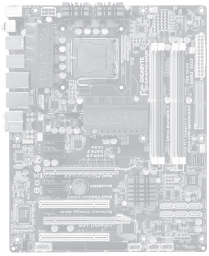
例：



目次

(注) この機能は、地域によりポリシーが異なるためオプションです。

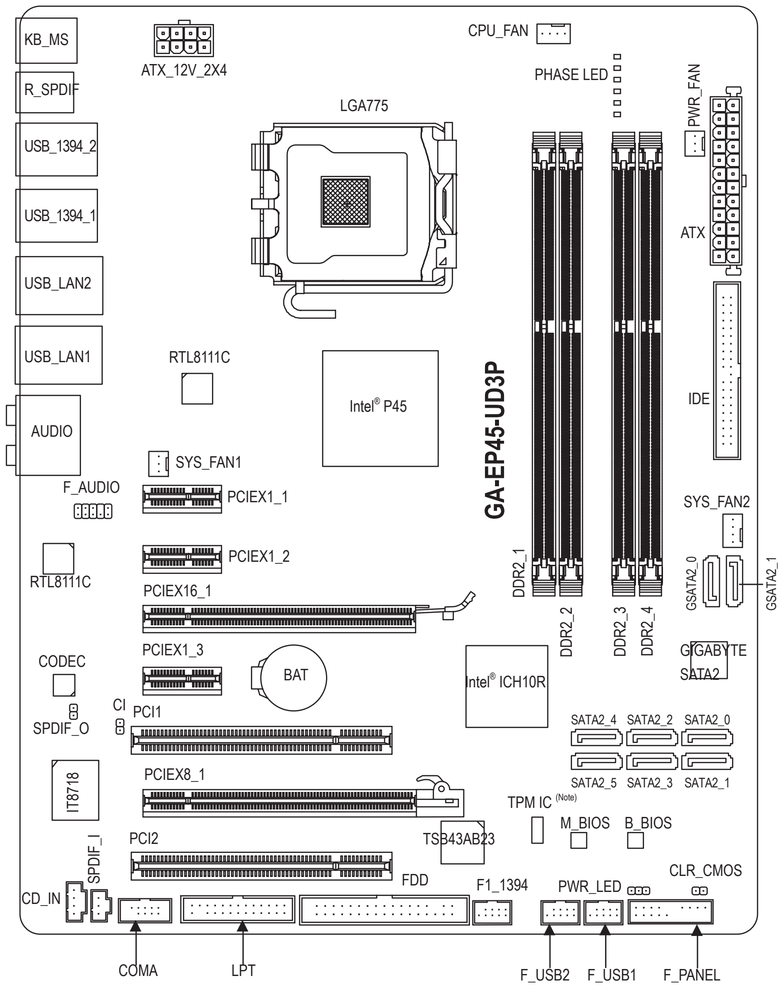
ボックスの内容



- ☑ GA-EP45-UD3P マザーボード
- ☑ マザーボードドライバディスク
- ☑ ユーザーマニュアル
- ☑ クイックインストールガイド
- ☑ IDE ケーブル (x1) およびフロッピーディスクドライブケーブル (x1)
- ☑ SATA 3Gb/s ケーブル
- ☑ SATA ブラケット
- ☑ I/O シールド

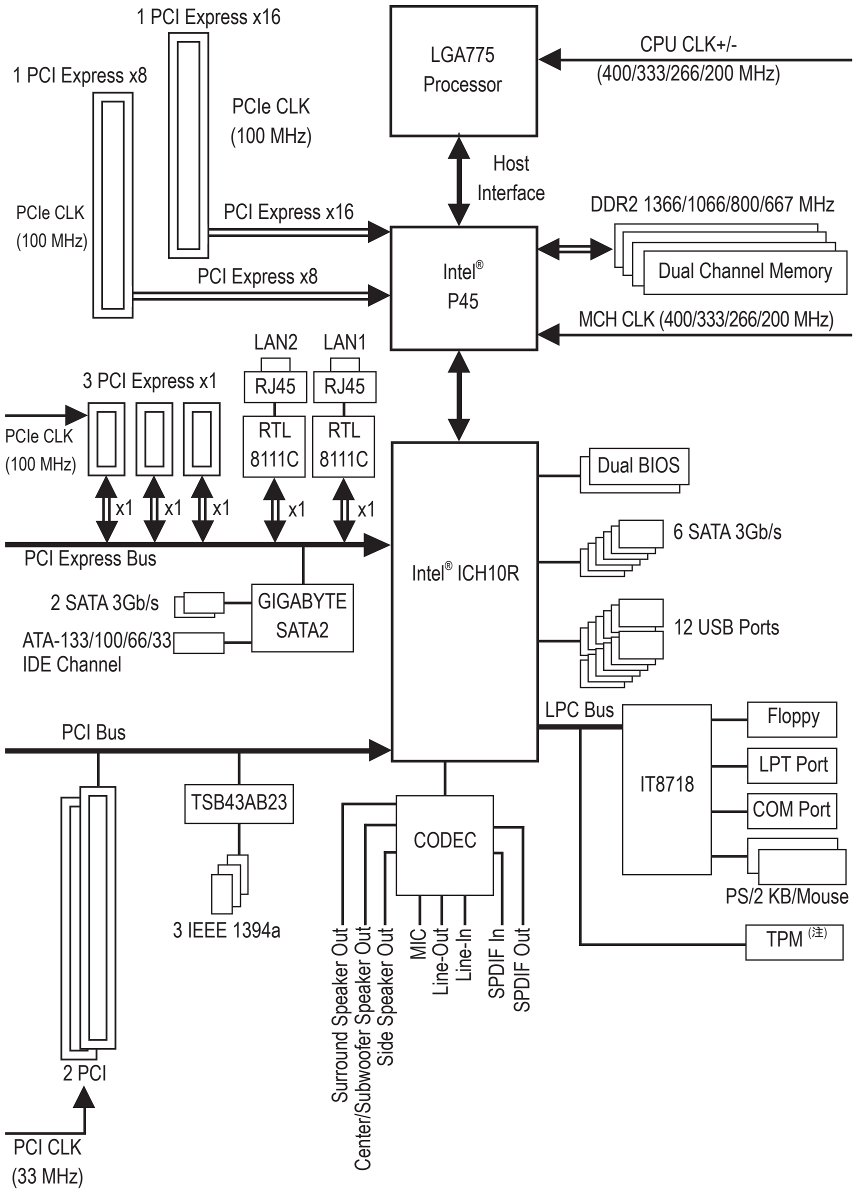
- 上のボックスの内容は参照専用であり、実際のアイテムはお求めになった製品パッケージにより異なります。ボックスの内容は、事前の通知なしに変更することがあります。
- マザーボードの画像は参照専用です。

GA-EP45-UD3P マザーボードのレイアウト



(注) この機能は、地域によりポリシーが異なるためオプションです。

ブロック図



(注) この機能は、地域によりポリシーが異なるためオプションです。

第 1 章　　ハードウェアの取り付け

1-1　取り付け手順

マザーボードには、静電放電 (ESD) の結果損傷する可能性のある精巧な電子回路やコンポーネントが数多く含まれています。取り付ける前に、ユーザーマニュアルをよくお読みになり、以下の手順に従ってください。

- 取り付ける前に、マザーボードの S/N (シリアル番号) スティッカまたはディーラーが提供する保証スティッカを取り外したり、はがしたりしないでください。これらのシリアルステッカーは保証の確認に必要です。
- マザーボードまたはその他のハードウェアコンポーネントを取り付けたり取り外したりする前に、常にコンセントからコードを抜いて AC 電力を切ってください。
- ハードウェアコンポーネントをマザーボードの内部コネクタに接続しているとき、しっかり接続されていることを確認してください。
- マザーボードを扱う際には、金属リード線やコネクタには触れないでください。
- マザーボード、CPU またはメモリなどの電子コンポーネントを扱うとき、静電放電 (ESD) リストストラップを着用するようにお勧めします。ESD リストストラップをお持ちでない場合、手を乾いた状態に保ち、金属物体に触れて静電気を取り除いてください。
- マザーボードを取り付ける前に、これを静電防止パッドの上に置くか、静電遮断コンテナの中に入れてください。
- マザーボードから電源装置のケーブルを抜く前に、電源装置がオフになっていることを確認してください。
- パワーをオンにする前に、電源装置の電圧が地域の電源基準に従っていることを確認してください。
- 製品を使用する前に、ハードウェアコンポーネントのすべてのケーブルと電源コネクタが接続されていることを確認してください。
- マザーボードの損傷を防ぐために、ネジがマザーボードの回路やそのコンポーネントに触れないようにしてください。
- マザーボードの上またはコンピュータのケース内部に、ネジや金属コンポーネントが残っていないことを確認してください。
- コンピュータシステムは、平らでない面の上に置かないでください。
- コンピュータシステムを高温環境で設置しないでください。
- 取り付け中にコンピュータのパワーをオンにすると、システムコンポーネントが損傷するだけでなく、怪我につながる危険があります。
- 取り付けステップについて不明確な場合や、製品の使用に関して問題がある場合は、正規のコンピュータ技術者にお問い合わせください。

1-2 製品の仕様

CPU	◆ LGA 775 パッケージの Intel® Core™ 2 Extreme プロセッサ/Intel® Core™ 2 Quad プロセッサ/Intel® Core™ 2 Duo プロセッサ/Intel® Pentium® Dual-Core プロセッサ/Intel® Celeron® プロセッサをサポート (最新の CPU サポートリストについては、GIGABYTE の Web サイトにアクセスしてください)。 ◆ L2 キャッシュは CPU で異なります
フロントサイドバス	◆ 1600/1333/1066/800 MHz FSB
チップセット	◆ ノースブリッジ：Intel® P45 チップセット ◆ サウスブリッジ: Intel® ICH10R メモリ ◆ 最大 16 GB のシステムメモリをサポートする 1.8V DDR2 DIMM ソケット (x4) (注 1)
	◆ デュアルチャンネルメモリアーキテクチャ ◆ DDR2 1366 /1066/800/667 MHz メモリモジュールのサポート (最新のメモリサポートリストについては、GIGABYTE の Web サイトにアクセスしてください)。
オーディオ	◆ Realtek ALC889A コーデック ◆ ハイディフィニションオーディオ ◆ 2/4/5.1/7.1チャンネル ◆ Dolby® Home Theater のサポート (注 2) ◆ S/PDIF イン/アウトのサポート ◆ CD インのサポート
LAN	◆ Realtek 8111C チップ (10/100/1000 Mbit) (x2) ◆ Teaming のサポート
拡張スロット	◆ 1 x PCI エクスプレス x16 スロット、x16 (PCIEX16_1)で実行(注 3) ◆ 1 x PCI エクスプレス x8 スロット、x8 (PCIEX8_1)で実行 (PCIEX16_1 と PCIEX8_1 スロットは ATI CrossFireX™ テクノロジをサポートし、PCI Express 2.0 標準に準拠しています) ◆ PCI Express x1 スロット (x3) ◆ PCI スロット (x2)
ストレージインターフェイス	◆ サウスブリッジ： – 6 x SATA 3Gb/s コネクタ (SATA2_0、SATA2_1、SATA2_2、SATA2_3、SATA2_4、SATA2_5) 6 SATA 3Gb/s デバイスまでサポート ◆ GIGABYTE SATA2 チップ： - ATA-133/100/66/33 および 2 つの IDE デバイスをサポートする IDE コネクタ (x1) - 2 x SATA 3Gb/s コネクタ (GSATA2_0, GSATA2_1) 2 SATA 3Gb/s デバイスまでサポート - SATA RAID 0, RAID 1 およびJBOD サポート ◆ iTE IT8718 チップ: - 最大 1 つのフロッピーディスクドライブをサポートするフロッピーディスクドライブコネクタ (x1)
IEEE 1394	◆ T.I. TSB43AB23 チップ ◆ 最大 3 つの IEEE 1394a ポート (背面パネルに 2 つ、内部 IEEE 1394 ヘッダに接続された IEEE 1394 ブラケットを介して 1 つ)

USB	◆ サウスブリッジに統合 ◆ 最大 12 の USB 2.0/1.1 ポート (背面パネルに 8 つ、内部 USB ヘッダに接続された USB ブラケットを介して 4 つ)
内部コネクタ	◆ 24 ピン ATX メイン電源コネクタ (x1) ◆ 8 ピン ATX 12V 電源コネクタ (x1) ◆ フロッピーディスクドライブコネクタ (x1) ◆ IDE コネクタ (x1) ◆ SATA 3Gb/sコネクタ (x8) ◆ CPU ファンヘッダ (x1) ◆ システムファンヘッダ (x2) ◆ 電源ファンヘッダ (x1) ◆ 前面パネルヘッダ (x1) ◆ 前面パネルオーディオヘッダ (x1) ◆ CD インコネクタ (x1) ◆ S/PDIF インヘッダ (x1) ◆ S/PDIF アウトヘッダ (x1) ◆ USB 2.0/1.1 ヘッダ (x2) ◆ IEEE 1394a ヘッダ (x1) ◆ パラレルポートヘッダ (x1) ◆ シリアルポートヘッダ (x1 ◆ 電源 LED ヘッダ (x1) ◆ シャーシ侵入ヘッダ (x1)
背面パネルのコネクタ	◆ PS/2キーボードポート (x1) ◆ PS/2マウスポート (x1) ◆ 同軸 S/PDIF アウトコネクタ (x1) ◆ 光 S/PDIF アウトコネクタ (x1) ◆ USB 2.0/1.1 ポート (x8) ◆ IEEE 1394a ポート (x2) ◆ RJ-45 ポート (x2) ◆ オーディオジャック (x6) (センター/サブウーファスピーカーアウト/背面スピーカーアウト/側面スピーカーアウト/ラインイン/ラインアウト/マイク)
I/O コントローラ	◆ iTE IT8718 チップ
ハードウェアモニタ	◆ システム電圧の検出 ◆ CPU / システム温度の検出 ◆ CPU / システム / パワーファン速度の検出 ◆ CPU 過熱警告 ◆ CPU / システム / パワーファンエラー警告 ◆ CPU / システムファン速度制御 (注 4)

BIOS	◆	8 Mbit フラッシュ (x2)
	◆	ライセンスを受けたAWARD BIOSの使用
	◆	DualBIOS™ のサポート
	◆	PnP 1.0a, DMI 2.0, SM BIOS 2.4, ACPI 1.0b
固有の機能	◆	@BIOS のサポート
	◆	Q-Flash のサポート
	◆	Virtual Dual BIOS のサポート
	◆	Download Center のサポート
	◆	Xpress Installのサポート
	◆	Xpress Recovery2 のサポート
	◆	EasyTune のサポート (注 5)
	◆	Dynamic Energy Saver Advanced (ダイナミックエナジーセーバーアドバンスト) のサポート
	◆	Ultra TPM のサポート (注 6)
	◆	Time Repair のサポート
	◆	Q-Share のサポート
バンドルされたソフトウェア	◆	Norton インターネットセキュリティ (OEM バージョン)
オペレーティング システム	◆	Microsoft® Windows® Vista/XP のサポート
フォームファクタ	◆	ATX フォームファクタ、30.5cm x 24.4cm

(注 1) Windows Vista/XP 32 ビットオペレーティングシステムの制限により、4 GB 以上の物理メモリを取り付けても、表示される実際のメモリサイズは 4 GB より少なくなります。

(注 2) Windows Vista/XP 32 ビットオペレーティングシステム専用

(注 3) PCI Express グラフィックスカードを 1 枚取り付ける場合、最適のパフォーマンスを発揮できるように、PCIEX16_1 スロットに取り付けてください。PCIEX16_1 と PCIEX8_1 スロットの両方に拡張カードを取り付けるとき、PCIEX16_1 は x8 モードで作動します。

(注 4) CPU/システムのファン速度制御機能がサポートされているかどうかは、取り付けるCPU/システムクーラーによって異なります。

(注 5) EasyTune の使用可能な機能は、マザーボードのモデルによって異なります。

(注 6) この機能は、地域によりポリシーが異なるためオプションです。

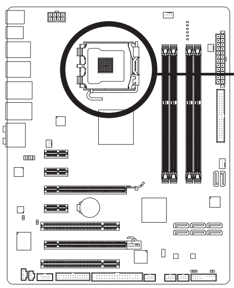
1-3　CPU および CPU クーラーの取り付け

CPU を取り付ける前に次のガイドラインをお読みください。

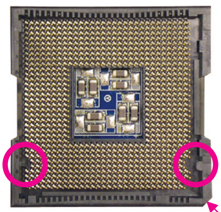
- マザーボードがCPUをサポートしていることを確認してください。
  (最新の CPU サポートリストについては、GIGABYTE の Web サイトにアクセスしてください)。
- ハードウェアが損傷する原因となるため、CPU を取り付ける前に必ずコンピュータのパワーをオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- CPU のピン 1 を探します。CPU は間違った方向には差し込むことができません。(または、CPU の両側のノッチと CPU ソケットのアライメントキーを確認します)。
- CPU の表面に熱グリースを均等に薄く塗ります。
- CPU クーラーを取り付けないうちはコンピュータのパワーをオンにしないでください。CPU が損傷する原因となります。
- CPU の仕様に従って、CPUのホスト周波数を設定してください。ハードウェアの仕様を超えたシステムバスの周波数設定は周辺機器の標準要件を満たしていないため、お勧めできません。標準仕様を超えて周波数を設定したい場合は、CPU、グラフィックスカード、メモリ、ハードドライブなどのハードウェア仕様に従ってください。

1-3-1　CPU を取り付ける

A.　マザーボード CPU ソケットのアライメントキーおよび CPU のノッチを確認します。



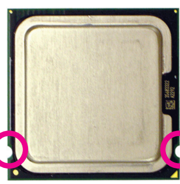
LGA775 CPU ソケット



アライメントキー　　アライメントキー

CPU ソケットのピン 1 隅

LGA 775 CPU



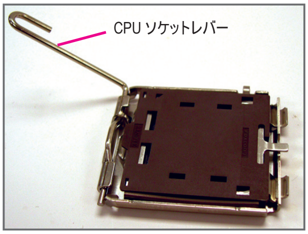
ノッチ　　ノッチ

CPU の三角形のピン 1 マーキング

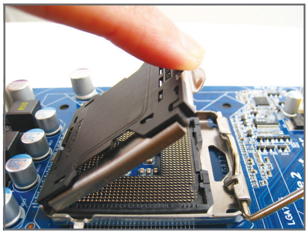
B.　以下のステップに従って、CPU をマザーボード の CPU ソケットに正しく取り付けてください。

CAUTION

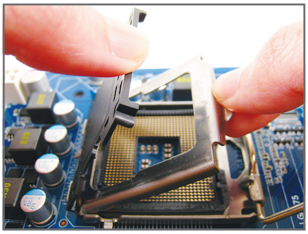
CPU を取り付ける前に、CPU の損傷を防ぐためにコンピュータのパワーをオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。



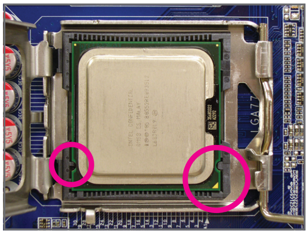
ステップ 1：
CPU ソケットレバーを完全に持ち上げます。



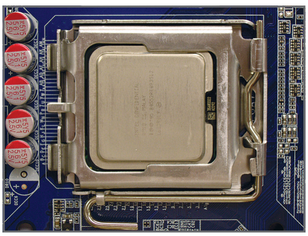
ステップ 2：
CPU ソケットの金属製ロードプレートを持ち上げます。
(ソケットの接点に触れないでください)。



ステップ 3：
ロードプレートから保護ソケットカバーを取り外します。(CPU ソケットを保護するために、CPU を取り付けた場所の保護ソケットカバーを取り替えてください)。



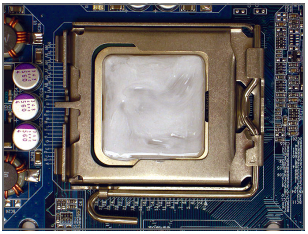
ステップ 4：
CPU を親指と人差し指で抑えます。CPU ピン 1 のマーキング (三角形) を CPU ソケットのピン 1 隅に合わせ (または、CPU ノッチをソケットアライメントキーに合わせ)、CPU を所定の位置にそっと差し込みます。



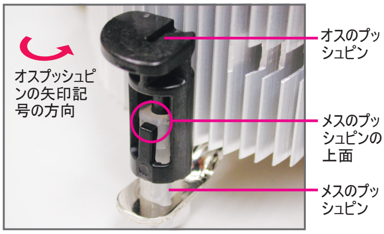
ステップ 5：
CPUが正しく挿入されたら、ロードプレートを元に戻し、CPU ソケットレバーをそのロックされた位置に押し込んでください。

1-3-2 CPU クーラーを取り付ける

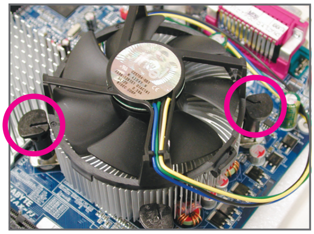
以下のステップに従って、CPU クーラーをマザーボードに正しく取り付けてください。(以下の手順は、サンプルのクーラーとして Intel® ボックスクーラーを使用しています。)



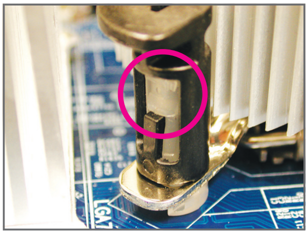
ステップ 1:
取り付けたCPU の表面に熱グリースを均等に薄く塗ります。



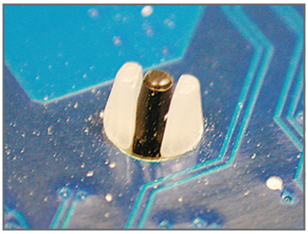
ステップ 2:
クーラーを取り付ける前に、オスプッシュピンの矢印記号 の方向に注意してください。(矢印の方向に沿ってプッシュピンを回すとクーラーが取り外すされ、逆の方向に回すと取り付けられます。)



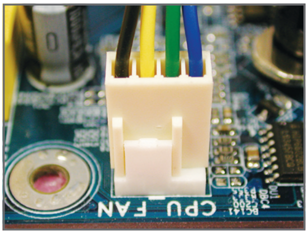
ステップ 3:
クーラーを CPU の上に配置し、マザーボードのピン穴を通して 4 つのプッシュピンを揃えます。プッシュピンを、対角方向に押し下げてください。



ステップ 4:
それぞれのプッシュピンを押し下げると、「クリック音」が聞こえます。オスとメスのプッシュピンがしっかり結合していることを確認してください (クーラーを取り付ける方法については、CPU クーラーの取り付けマニュアルを参照してください)。



ステップ 5:
インストール後、マザーボードの背面をチェックします。プッシュピンが上の図のように挿入されていれば、取り付けは完了です。



ステップ 6:
最後に、CPU クーラーの電源コネクタをマザーボードのCPUファンヘッダ (CPU_FAN) に取り付けてください。

NOTE CPU クーラーと CPU の間の熱グリース/テープは CPU にしっかり接着されているため、CPU クーラーを取り外すときは、細心の注意を払ってください。CPU クーラーを不適切に取り外すと、CPU が損傷する恐れがあります。

1-4　メモリの取り付け

メモリを取り付ける前に次のガイドラインをお読みください：

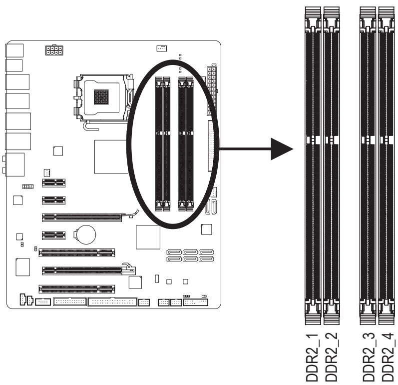
- マザーボードがメモリをサポートしていることを確認してください。同じ容量、ブランド、速度、およびチップのメモリをご使用になることをお勧めします。
  (最新のメモリサポートリストについては、GIGABYTE の Web サイトにアクセスしてください)。
- ハードウェアが損傷する原因となるため、メモリを取り付ける前に必ずコンピュータのパワーをオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- メモリモジュールは、絶対に確実な設計が施されています。メモリモジュールは、一方向にしか挿入できません。メモリを挿入できない場合は、方向を変えてください。

1-4-1　デュアルチャンネルのメモリ設定

このマザーボードには、DDR2 メモリソケットが搭載されており、デュアルチャンネルテクノロジをサポートします。メモリを取り付けた後、BIOS はメモリの仕様と容量を自動的に検出します。デュアルチャンネルメモリモードを有効にすると、元のメモリバンド幅が 2 倍になります。

4 つの DDR2 メモリソケットが 2 つのチャンネルに分割され、それぞれのチャンネルには以下のように 2 つのメモリソケットが付いています：

- チャンネル 0：DDR2_1, DDR2_2
- チャンネル 1：DDR2_3, DDR2_4



デュアルチャンネルメモリ構成表

	DDR2_1	DDR2_2	DDR2_3	DDR2_4
2 つのモジュール	DS/SS	- -	DS/SS	- -
	- -	DS/SS	- -	DS/SS
4 つのモジュール	DS/SS	DS/SS	DS/SS	DS/SS

(SS=片面、DS=両面、「- -」=メモリなし)

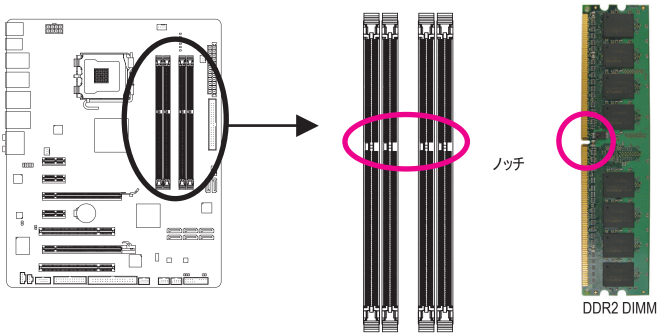
チップセットの制限により、デュアルチャンネルモードでメモリを取り付ける前に以下のガイドラインをお読みください。

1. DDR2 メモリモジュールが1つしか取り付けられていない場合、デュアルチャンネルモードは有効になりません。
2. 2 つまたは 4 つのメモリモジュールでデュアルチャンネルモードを有効にするとき、最適のパフォーマンスを発揮させるには同じ容量、ブランド、速度、およびチップのメモリを使用し、同じ色の DDR2 ソケットに取り付けるようにお勧めします。

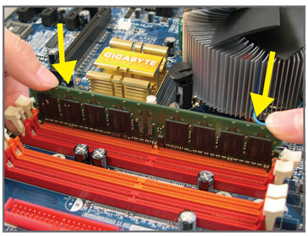
異なる容量とチップのメモリモジュールを取り付けるとき、POST 中にメモリはフレックスメモリモードで作動していますというメッセージが表示されます。Intel® フレックスメモリテクノロジでは、異なるメモリサイズを装着しながらデュアルチャンネルモード/パフォーマンスを発揮することによって、アップグレードするためのより大きな柔軟性を提供しています。

1-4-2 メモリの取り付け

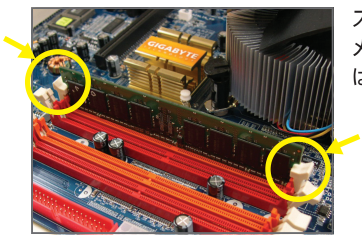
メモリモジュールを取り付ける前に、メモリモジュールの損傷を防ぐためにコンピュータのパワーをオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。DDR2 DIMMs は DDR DIMM と互換性がありません。このマザーボードには、必ず DDR2 DIMM を取り付けるようにしてください。



DDR2 メモリモジュールにはノッチが付いているため、一方向にしかフィットしません。以下のステップに従って、メモリソケットにメモリモジュールを正しく取り付けてください。



ステップ 1：
メモリモジュールの方向に注意します。メモリソケットの両端の保持クリップを広げます。ソケットにメモリモジュールを取り付けます。左の図に示すように、指をメモリの上に置き、メモリを押し下げ、メモリソケットに垂直に差し込みます。

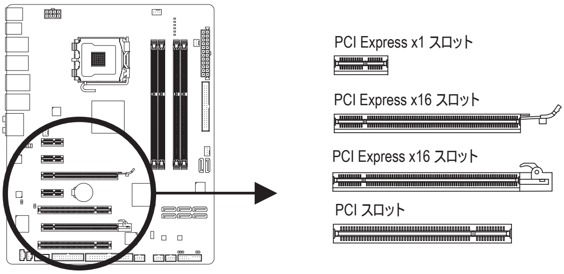


ステップ 2：
メモリモジュールがしっかり差し込まれると、ソケットの両端のチップはカチッと音を立てて所定の位置に収まります。

1-5 拡張カードの取り付け

拡張カードを取り付ける前に次のガイドラインをお読みください:

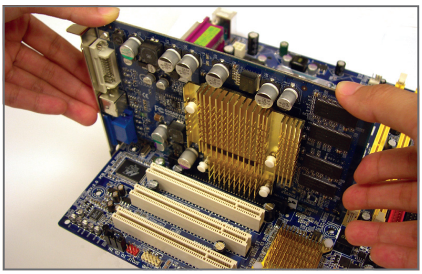
- マザーボードが拡張カードをサポートしていることを確認してください。拡張カードに付属するマニュアルをよくお読みください。
- ハードウェアが損傷する原因となるため、拡張カードを取り付ける前に必ずコンピュータのパワーをオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。



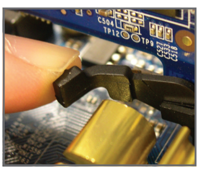
以下のステップに従って、拡張スロットに拡張カードを正しく取り付けてください。

1. カードをサポートする拡張スロットを探します。シャーシの背面パネルから金属製のスロットカバーを取り外します。
2. カードの位置をスロットに合わせ、スロットに完全に装着されるまでカードを下に押します。
3. カードの金属の接点がスロットに完全に挿入されていることを確認します。
4. カードの金属製ブラケットをねじでシャーシの背面パネルに固定します。
5. すべての拡張カードを取り付けたら、シャーシカバーを元に戻します。
6. コンピュータのパワーをオンにします。必要に応じて、BIOS セットアップを開き、拡張カードで要求される BIOS の変更を行ってください。
7. 拡張カードに付属するドライバを、オペレーティングシステムにインストールします。

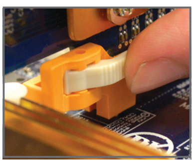
例: PCI Express グラフィックスカードの取り付けと取り外し:



- グラフィックスカードの取り付け:
  カードの上端がPCI Express スロットに完全に挿入されるまで、そっと押し下げます。カードがスロットにしっかり装着され、動かないことを確認してください。



- PCIEX16_1 スロットからカードを取り外す:
  スロットのレバーをそっと押し戻し、カードを真っ直ぐ上に持ち上げてスロットから出します。



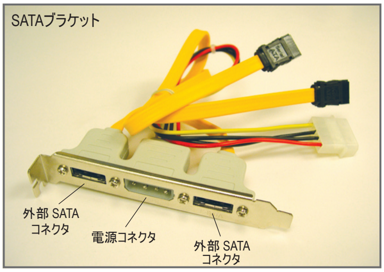
- PCIEX8_1 スロットからカードを取り外す:
  PCI Express スロットの端の白いラッチを押してカードを取り外し、カードをスロットから垂直に引っ張り上げます。

1-6 SATA ブラケットの取り付け

SATAブラケットでは、内部SATAポートをシャーシの背面パネルまで拡張することにより、外部SATAデバイスをシステムに接続できます。

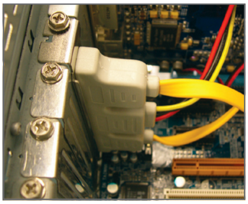
CAUTION

- SATAブラケットとSATA電源ケーブルの取り付けや取り外しを行う前に、ハードウェアの損傷を防ぐために、システムと電源装置のパワーをオフにしてください。
- SATA信号ケーブルとSATA電源ケーブルを取り付けるとき、対応するコネクタにしっかり差し込みます。

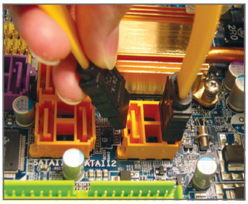


SATA ブラケットには、SATA ブラケット (x1)、SATA 信号ケーブル(x1)、およびSATA電源ケーブル (x1) が含まれています。

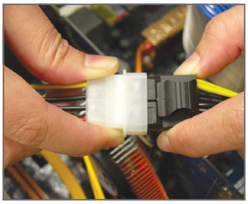
以下のステップに従って SATA ブラケットを取り付けてください:



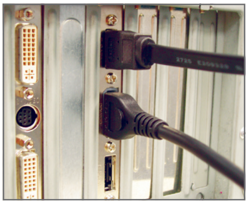
ステップ 1:
空いている1つの PCI スロットを探し、SATA ブラケットをネジでシャーシの背面パネルに固定します。



ステップ 2:
ブラケットの SATA ケーブルをマザーボードの SATA ポートに接続します。



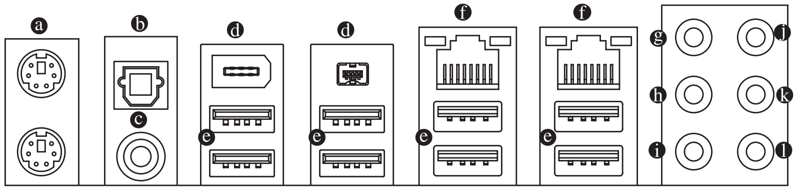
ステップ 3:
ブラケットから電源装置に電源ケーブルを接続します。



ステップ 4:
SATA 信号ケーブルの一方の端をブラケットの外部 SATAコネクタに差し込みます。SATA 電源ケーブルをブラケットの電源コネクタに接続します。

ステップ 5:
SATA 信号ケーブルと SATA 電源ケーブルのもう一方の端を SATA デバイスに接続します。外部筐体の SATA デバイスの場合、SATA 信号ケーブルのみを接続する必要があります。SATA 信号ケーブルを接続する前に、外部筐体のパワーがオフになっていることを確認します。

1-7　バックパネルコネクタ



a PS/2 キーボードと PS/2 マウスポート

上部ポート (緑) を使用して PS/2 マウスを接続し、下部ポート (紫) を使用して PS/2 キーボードを接続します。

b 光 S/PDIF アウトコネクタ

このコネクタは、デジタル光オーディオをサポートする外部オーディオシステムにデジタルオーディオアウトを提供します。この機能を使用する前に、オーディオシステムが光デジタルオーディオインコネクタを提供していることを確認してください。

c 同軸 S/PDIF アウトコネクタ

このコネクタは、デジタル同軸オーディオをサポートする外部オーディオシステムにデジタルオーディオアウトを提供します。この機能を使用する前に、オーディオシステムが同軸デジタルオーディオインコネクタを提供していることを確認してください。

d IEEE 1394a ポート

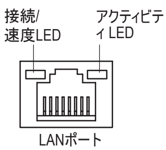
IEEE 1394 ポートは IEEE 1394a 仕様をサポートし、高速、高いバンド幅およびホットプラグ機能を特徴としています。IEEE 1394a デバイスの場合、このポートを使用します。

e USB ポート

USB ポートは USB 2.0/1.1 仕様をサポートします。USB キーボード/マウス、USB プリンタ、USB フラッシュドライバなどの USB デバイスの場合、このポートを使用します。

f RJ-45 LAN ポート

Gigabit イーサネット LAN ポートは、最大 1 Gbps のデータ転送速度のインターネット接続を提供します。以下は、LAN ポート LED のステータスを説明しています。



接続/速度 LED：

状態	説明
オレンジ	1 Gbps のデータ転送速度
緑	100 Mbps のデータ転送速度
オフ	10 Mbps のデータ転送速度

アクティビティ LED：

状態	説明
点滅	データの送受信中です
オフ	データを送受信していません

- 背面パネルコネクタに接続されたケーブルを取り外しているとき、まずデバイスからケーブルを取り外し、次にマザーボードからケーブルを取り外します。
- ケーブルを取り外しているとき、コネクタから真っ直ぐに引き抜いてください。ケーブルコネクタ内部でショートする原因となるので、横に揺り動かさないでください。

ⓖ **センター/サラウンドスピーカーアウトジャック (オレンジ)**

このオーディオジャックを使用して、5.1/7.1 チャンネルオーディオ設定のセンター/サブウーファスピーカーを接続します。

ⓗ **リアスピーカーアウトジャック (黒)**

このオーディオジャックを使用して、4/5.1/7.1 チャンネルオーディオ設定のリアスピーカーを接続します。

ⓘ **サイドスピーカーアウトジャック (グレー)**

このオーディオジャックを使用して、7.1 チャンネルオーディオ設定のサイドスピーカーを接続します。

ⓙ **ラインインジャック (青)**

デフォルトのラインインジャックです。光ドライブ、ウォークマンなどのデバイスのラインインの場合、このオーディオジャックを使用します。

ⓚ **ラインアウトジャック (緑)**

デフォルトのラインアウトジャックです。ヘッドフォンまたは 2 チャンネルスピーカーの場合、このオーディオジャックを使用します。このジャックを使用して、4/5.1/7.1 チャンネルオーディオ設定の前面スピーカーを接続します。

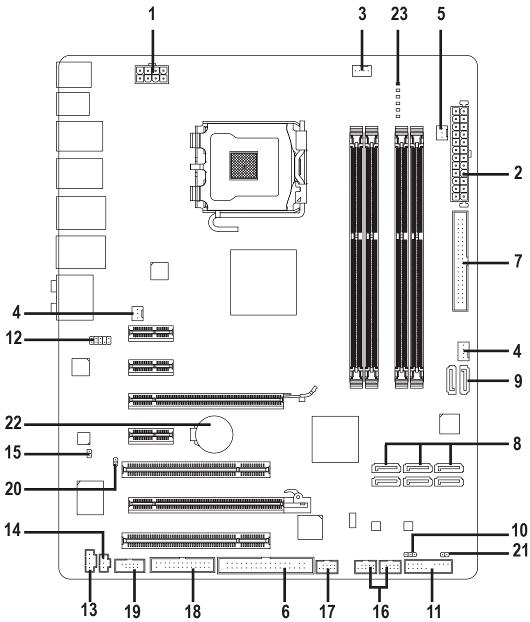
ⓛ **マイクインジャック (ピンク)**

デフォルトのマイクインジャックです。マイクは、このジャックに接続する必要があります。

NOTE

デフォルトのスピーカー設定の他に、ⓖ ~ ⓛ オーディオジャックを設定し直してオーディオソフトウェア経由でさまざまな機能を実行することができます。マイクだけは、デフォルトのマイクインジャックに接続する必要があります (ⓛ)。2/4/5.1/7.1チャンネルオーディオ設定のセットアップに関する使用説明については、第 5 章、「2/4/5.1/7.1 チャンネルオーディオの設定」を参照してください。

1-8 内部コネクタ



1)	ATX_12V_2X4	13)	CD_IN
2)	ATX	14)	SPDIF_I
3)	CPU_FAN	15)	SPDIF_O
4)	SYS_FAN1/SYS_FAN2	16)	F_USB1/F_USB2
5)	PWR_FAN	17)	F1_1394
6)	FDD	18)	LPT
7)	IDE	19)	COMA
8)	SATA2_0/1/2/3/4/5	20)	CI
9)	GSATA2_0/1	21)	CLR_CMOS
10)	PWR_LED	22)	BAT
11)	F_PANEL	23)	PHASE LED
12)	F_AUDIO		

CAUTION

外部デバイスを接続する前に、以下のガイドラインをお読みください。

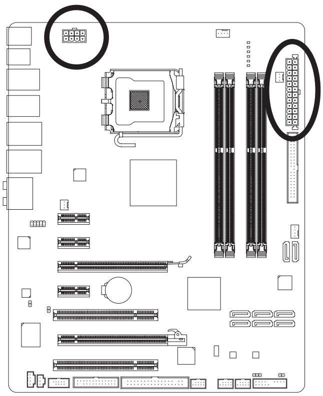
- まず、デバイスが接続するコネクタに準拠していることを確認します。
- デバイスを取り付ける前に、デバイスとコンピュータのパワーがオフになっていることを確認します。デバイスが損傷しないように、コンセントから電源コードを抜きます。
- デバイスをインストールした後、コンピュータのパワーをオンにする前に、デバイスのケーブルがマザーボードのコネクタにしっかり接続されていることを確認します。

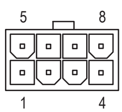
1/2) ATX_12V_2X4/ATX (2x4 12V 電源コネクタと 2x12 メインの電源コネクタ)

電源コネクタを使用すると、電源装置はマザーボードのすべてのコンポーネントに安定した電力を供給することができます。電源コネクタを接続する前に、まず電源装置のパワーがオフになっていること、すべてのデバイスが正しく取り付けられていることを確認してください。電源コネクタは、絶対に確実な設計が施されています。電源装置のケーブルを正しい方向で電源コネクタに接続します。12V 電源コネクタは、主に CPU に電力を供給します。12V 電源コネクタが接続されていない場合、コンピュータは起動しません。

NOTE

- Intel Extreme Edition CPU (130W) を使用しているとき、CPU メーカーでは 2x4 12V 電源コネクタを装備する電源装置の使用を推奨しています。
- 拡張要件を満たすために、高い消費電力に耐えられる電源装置をご使用になることをお勧めします（500W以上）。必要な電力を供給できない電源装置をご使用になると、システムが不安定になったり起動できない場合があります。
- ATX_12V_2X4 電源コネクタは、2x2 12V 電源コネクタを装備する電源装置に対応しています。2x4 12V 電源コネクタを装備する電源装置を使用しているとき、マザーボードの 12V の電源コネクタとメインの電源コネクタから保護カバーを取り外します。2x2 12V 電源コネクタを装備する電源装置を使用しているとき、保護カバーをしたままのピンに電源装置のケーブルを挿入しないでください。

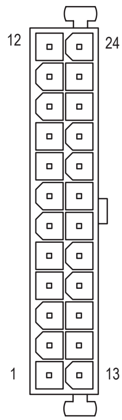




ATX_12V_2X4

ATX_12V_2X4:

ピン番号	定義
1	GND (2x4 ピン 12V 専用)
2	GND (2x4 ピン 12V 専用)
3	GND
4	GND
5	+12V (2x4 ピン 12V 専用)
6	+12V (2x4 ピン 12V 専用)
7	+12V
8	+12V



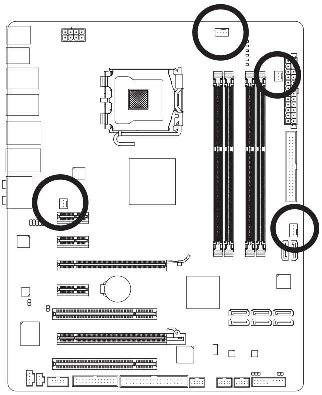
ATX

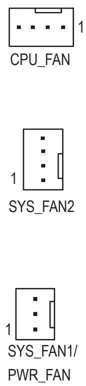
ATX :

ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	3.3V	13	3.3V
2	3.3V	14	-12V
3	GND	15	GND
4	+5V	16	PS_ON (ソフトオン/オフ)
5	GND	17	GND
6	+5V	18	GND
7	GND	19	GND
8	パワー良し	20	-5V
9	5V SB(スタンバイ +5V)	21	+5V
10	+12V	22	+5V
11	+12V (2x12 ピン ATX 専用)	23	+5V (2x12 ピン ATX 専用)
12	3.3V (2x12 ピン ATX 専用)	24	GND (2x12 ピン ATX 専用)

3/4/5) CPU_FAN/SYS_FAN1/SYS_FAN2/PWR_FAN (ファンヘッダ)

マザーボードには4 ピン CPU ファンヘッダ (CPU_FAN)、3 ピン (SYS_FAN1) および 4 ピン (SYS_FAN2) システムファンヘッダ、および 3 ピン電源ファンヘッダ (PWR_FAN)が搭載されています。ほとんどのファンヘッダは、絶対確実な挿入設計が施されています。ファンケーブルを接続するとき、正しい方向に接続してください (黒いコネクタワイヤはアース線です)。マザーボードは CPU ファン速度制御をサポートし、ファン速度制御設計を搭載した CPU ファンを使用する必要があります。最適の放熱を実現するために、シャーシ内部にシステムファンを取り付けるようにお勧めします。





CPU_FAN:

ピン番号	定義
1	GND
2	速度制御
3	検知
4	速度制御

SYS_FAN2:

ピン番号	定義
1	GND
2	速度制御
3	検知
4	+5V

SYS_FAN1 / PWR_FAN:

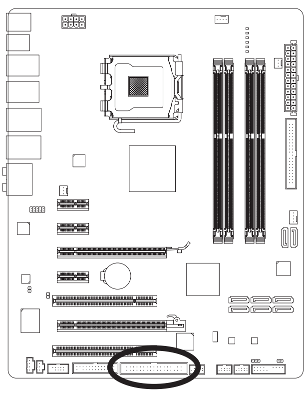
ピン番号	定義
1	GND
2	+12V
3	検知

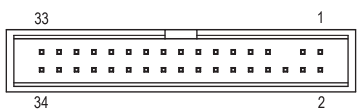
CAUTION

- CPU: およびシステムが過熱しないように、ファンケーブルをファンヘッダに必ず接続してください。過熱すると、CPU が損傷したり、またはシステムがハングアップする結果となります。
- これらのファンヘッダは、設定ジャンパブロックではありません。ヘッダにジャンプのキャップを取り付けないでください。

6) FDD (フロッピーディスクドライブコネクタ)

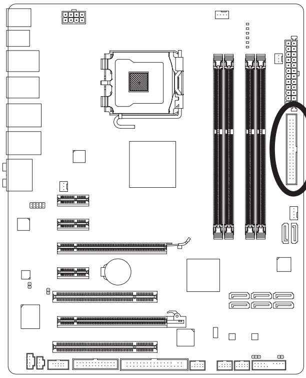
このコネクタは、フロッピーディスクドライブを接続するために使用されます。サポートされるフロッピーディスクドライブの種類は、次の通りです。360 KB、720 KB、1.2 MB、1.44 MB、および 2.88 MB。フロッピーディスクドライブを接続する前に、コネクタとフロッピーディスクケーブルのピンを確認してください。ケーブルのピン1は、一般に異なる色のストライプで区別されています。

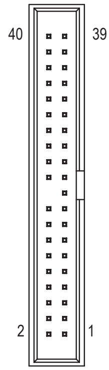




7) IDE (IDE コネクタ)

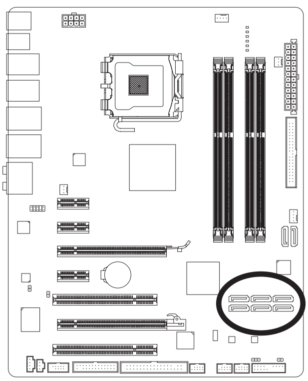
IDE コネクタは、ハードドライブや光ドライブなど最大 2 つの IDE デバイスをサポートします。IDE ケーブルを接続する前に、コネクタに絶対に確実な溝を探します。2 つの IDE デバイスを接続する場合、ジャンパとケーブル配線を IDE の役割に従って設定してください (たとえば、マスタまたはスレーブ)。(IDE デバイスのマスタ/スレーブ設定を実行する詳細については、デバイスメーカーの提供する使用説明書をお読みください)。

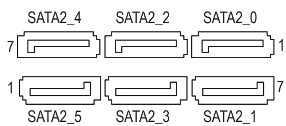




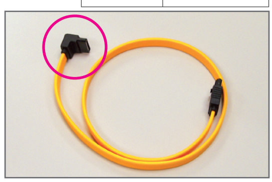
8) SATA2_0/1/2/3/4/5 (SATA 3Gb/s コネクタ、ICH10R制御、オレンジ)

SATA コネクタはSATA 3Gb/s 標準に準拠し、SATA 1.5Gb/s 標準との互換性を有しています。それぞれの SATA コネクタは、単一の SATA デバイスをサポートします。ICH10R コントローラサポート RAID 0、RAID 1、RAID 5 および RAID 10。 RAID アレイの設定方法については、第5章「SATA ハードドライブの設定」を参照してください。





ピン番号	定義
1	GND
2	TXP
3	TXN
4	GND
5	RXN
6	RXP
7	GND



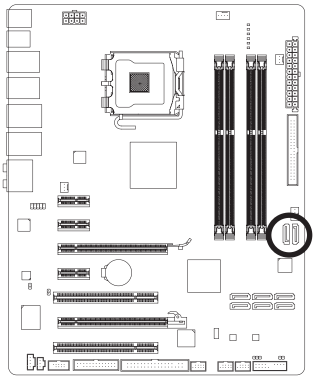
SATA 3Gb/sケーブルの L 形状の端を SATA ハードドライブに接続してください。

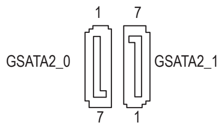
NOTE

- RAID 0 または RAID 1 設定は、少なくとも 2 台のハードドライブを必要とします。 2 台のハードドライブを使用する場合、ハードドライブの総数は偶数に設定する必要があります。
- RAID 5 設定は、少なくとも 3 台のハードドライブを必要とします。(ハードドライブの総数は偶数に設定する必要がありません)。
- RAID 10 設定は少なくとも 4 台のハードドライブを必要とし、ハードドライブの総数は偶数に設定する必要があります。

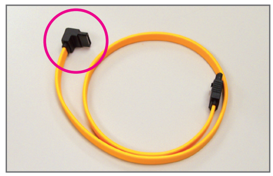
9) **SATA2_0/1/2/3/4/5** (SATA 3Gb/s コネクタ、GIGABYTE SATA2制御、紫)

SATA コネクタはSATA 3Gb/s 標準に準拠し、SATA 1.5Gb/s 標準との互換性を有しています。それぞれのSATA コネクタは、単一の SATA デバイスをサポートします。GIGABYTE SATA2 コントローラは、RAID 0 とRAID 1 をサポートします。RAID アレイの設定の使用説明については、第 5 章「SATA ハードドライブの設定」をお読みください。





ピン番号	定義
1	GND
2	TXP
3	TXN
4	GND
5	RXN
6	RXP
7	GND

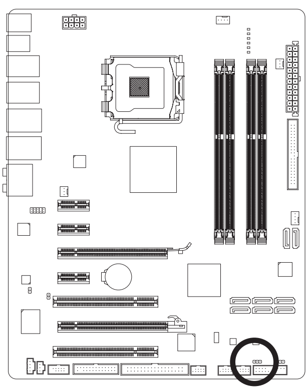


SATA 3Gb/sケーブルの L 形状の端を SATA ハードドライブに接続してください。

NOTE
- RAID 0 または RAID 1 設定は、少なくとも 2 台のハードドライブを必要とします。2 台のハードドライブを使用する場合、ハードドライブの総数は偶数に設定する必要があります。

10) **PWR_LED (システム電源 LED ヘッダ)**

このヘッダはシャーシにシステムの電源 LED を接続し、システムの電源ステータスを示すために使用できます。システムが作動しているとき、LED はオンになります。システムが S1 スリープ状態に入ると、LED は点滅を続けます。システムが S3/S4 スリープ状態に入っているとき、またはパワーがオフになっているとき (S5)、LED はオフになります。

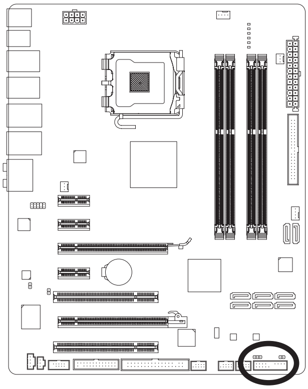


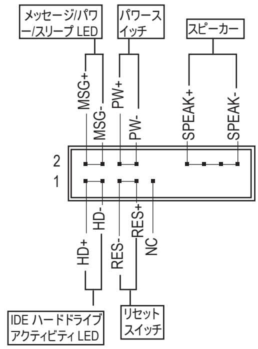
ピン番号	定義
1	MPD+
2	MPD-
3	MPD-

システムステータス	LED
S0	オン
S1	点滅
S3/S4/S5	オフ

11) F_PANEL (正面パネルヘッダ)

シャーシ前面パネルのパワースイッチ、リセットスイッチ、スピーカーおよびシステムステータスインジケータを、以下のピン配列に従ってこのヘッダに接続します。ケーブルを接続する前に、正と負のピンに注意してください。





- MSG (メッセージ/パワー/スリープ LED、黄):

システムステータス	LED
S0	オン
S1	点滅
S3/S4/S5	オフ

シャーシ前面パネルの電源ステータスインジケータに接続します。システムが作動しているとき、LED はオンになります。システムが S1 スリープ状態に入ると、LED は点滅を続けます。システムが S3/S4 スリープ状態に入っているとき、またはパワーがオフになっているとき (S5)、LED はオフになります。

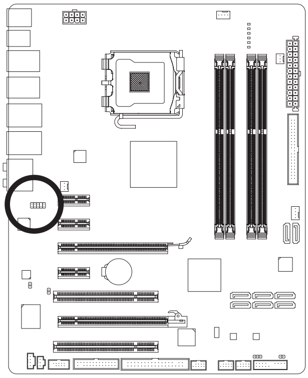
- PW (パワースイッチ、赤):
  シャーシ前面パネルのパワースイッチに接続します。パワースイッチを使用してシステムのパワーをオフにする方法を設定できます (詳細については、第 2 章、「BIOSセットアップ」、「電源管理のセットアップ」を参照してください)。
- SPEAK (スピーカー、オレンジ):
  シャーシ前面パネルのスピーカーに接続します。システムは、ビープコードを鳴らすことでシステムの起動ステータスを報告します。システム起動時に問題が検出されない場合、短いビープ音が 1 度鳴ります。問題を検出すると、BIOS は異なるパターンのビープ音を鳴らして問題を示します。ビープコードの詳細については、第 5 章「トラブルシューティング」を参照してください。
- HD (IDE ハードドライブアクティビティ LED、青):
  シャーシ前面パネルのハードドライブアクティビティ LED に接続します。ハードドライブがデータの読み書きをおこなっているとき、LED はオンになります。
- RES (リセットスイッチ、緑):
  シャーシ前面パネルのリセットスイッチに接続します。コンピュータがフリーズし通常の再起動を実行できない場合、リセットスイッチを押してコンピュータを再起動します。
- NC (紫):
  接続なし。

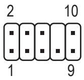
NOTE

前面パネルのデザインは、シャーシによって異なります。前面パネルモジュールは、パワースイッチ、リセットスイッチ、電源 LED、ハードドライブアクティビティ LED、スピーカーなどで構成されています。シャーシ前面パネルモジュールをこのヘッダに接続しているとき、ワイヤ割り当てとピン割り当てが正しく一致していることを確認してください。

12) F_AUDIO (前面パネルオーディオヘッダ)

前面パネルのオーディオヘッダは、Intel ハイデフィニションオーディオ (HD) と AC'97 オーディオをサポートします。シャーシ前面パネルのオーディオモジュールをこのヘッダに接続することができます。モジュールコネクタのワイヤ割り当てが、マザーボードヘッダのピン割り当てに一致していることを確認してください。モジュールコネクタとマザーボードヘッダ間の接続が間違っていると、デバイスは作動せず損傷することすらあります。





HD 前面パネルオーディオの場合:

ピン番号	定義
1	MIC2_L
2	GND
3	MIC2_R
4	-ACZ_DET
5	LINE2_R
6	GND
7	FAUDIO_JD
8	ピンなし
9	LINE2_L
10	GND

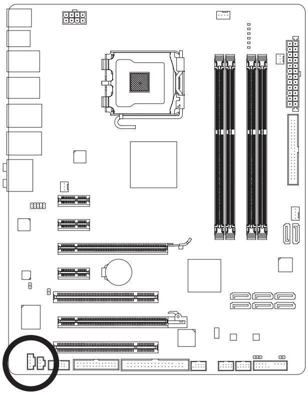
AC'97 前面パネルオーディオの場合:

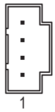
ピン番号	定義
1	MIC
2	GND
3	MICパワー
4	NC
5	ラインアウト(右)
6	NC
7	NC
8	ピンなし
9	ラインアウト(左)
10	NC

- 前面パネルのオーディオヘッダは、デフォルトで HD オーディオをサポートしています。シャーシに AC'97 前面パネルのオーディオモジュールが搭載されている場合、オーディオソフトウェアを介して AC'97 機能をアクティブにする方法については、第 5 章「2/4/5.1/7.1-チャンネルオーディオの設定」の使用説明を参照してください。
- オーディオ信号は、正面および後方パネルオーディオ接続の両方に同時に流れます。後方パネルオーディオを消音する(HD正面パネルオーディオモジュール使用時のみ)には、第5章「2/4/5.1/7.1−チャンネルオーディオの設定」を参照してください。
- シャーシの中には、前面パネルのオーディオモジュールを組み込んで、単一プラグの代わりに各ワイヤのコネクタを分離しているものもあります。ワイヤ割り当てが異なっている前面パネルのオーディオモジュールの接続方法の詳細については、シャーシメーカーにお問い合わせください。

13) CD_IN (CD入力コネクタ、黒)

光ドライブに付属のオーディオケーブルをヘッダに接続することができます。

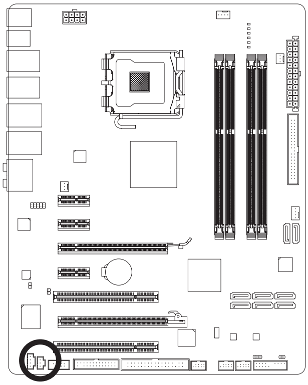


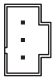


ピン番号	定義
1	CD-L
2	GND
3	GND
4	CD-R

14) SPDIF_I (S/PDIF インヘッダ, 赤)

このヘッダはデジタル S/PDIF インをサポートし、オプションの S/PDIF インケーブルを介してデジタルオーディオアウトをサポートするオーディオデバイスに接続できます。オプションの S/PDIF インケーブルの購入については、地域の代理店にお問い合わせください。

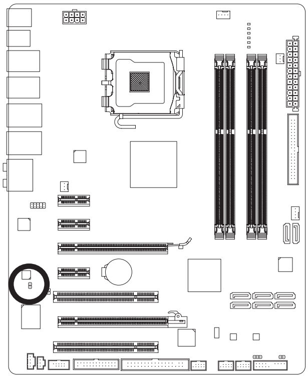




ピン番号	定義
1	電源
2	SPDIFI
3	GND

15) SPDIF_O (S/PDIF Out Header)

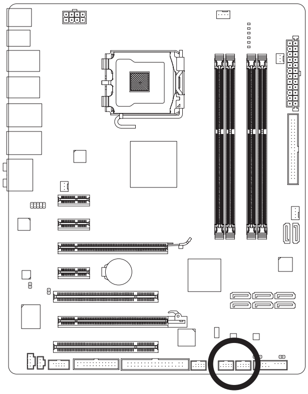
このヘッダはデジタル S/PDIF アウトをサポートし、デジタルオーディオ用の S/PDIF デジタルオーディオケーブル (拡張カードに付属) をマザーボードから、グラフィックスカードやサウンドカードのような特定の拡張カードに接続します。たとえば、グラフィックスカードの中には、HDMI ディスプレイをグラフィックスカードに接続して HDMI ディスプレイから同時にデジタルオーディオを出力する場合、マザーボードからグラフィックスカードにデジタルオーディオを出力するために、S/PDIF デジタルオーディオケーブルを使用するように要求するものもあります。S/PDIF デジタルオーディオケーブルの接続に関する詳細については、拡張カードのマニュアルをよくお読みください。

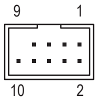


ピン番号	定義
1	SPDIFO
2	GND

16) F_USB1/F_USB2 (USB ヘッダ、黄)

ヘッダは USB 2.0/1.1 仕様に準拠しています。各 USB ヘッダは、オプションの USB ブラケットを介して 2 つの USB ポートを提供できます。オプションの USB ブラケットを購入する場合、地域の代理店にお問い合わせください。



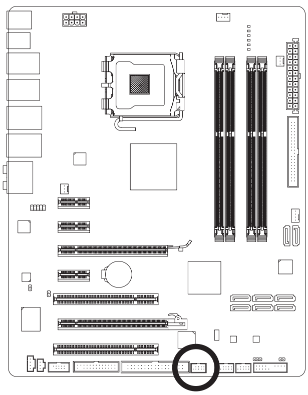


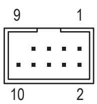
ピン番号	定義
1	電源 (5V)
2	電源 (5V)
3	USB DX-
4	USB DY-
5	USB DX+
6	USB DY+
7	GND
8	GND
9	ピンなし
10	NC

- IEEE 1394 ブラケット (2x5 ピン) ケーブルを USB ヘッダに差し込まないでください。
- USB ブラケットを取り付ける前に、USB ブラケットが損傷しないように、必ずコンピュータのパワーをオフにし電源コードをコンセントから抜いてください。

17) F1_1394 (IEEE 1394a ヘッダ、グレイ)

ヘッダは IEEE 1394a 仕様に準拠しています。IEEE 1394a ヘッダは、オプションの IEEE 1394a ブラケットを介して 1 つの IEEE 1394a ポートを提供します。オプションの IEEE 1394a ブラケットを購入する場合、地域の代理店にお問い合わせください。



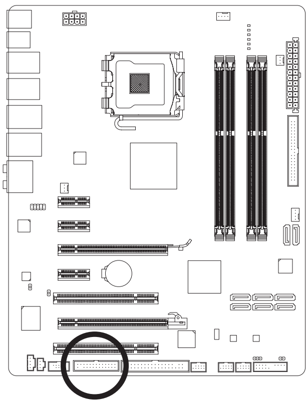


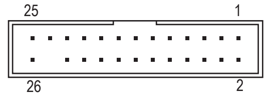
ピン番号	定義
1	TPA+
2	TPA-
3	GND
4	GND
5	TPB+
6	TPB-
7	電源 (12V)
8	電源 (12V)
9	ピンなし
10	GND

- USB ブラケットのケーブルを IEEE 1394a ヘッダに差し込まないでください。
- IEEE 1394a ブラケットを取り付ける前に、IEEE 1394a ブラケットが損傷しないように、必ずコンピュータのパワーをオフにし電源コードをコンセントから抜いてください。
- IEEE 1394a デバイスを接続するには、デバイスケーブルの一方の端をコンピュータに接続し、ケーブルのもう一方の端を IEEE 1394a デバイスに接続します。ケーブルがしっかり接続されていることを確認します。

18) LPT (パラレルポートヘッダ)

LPT ヘッダは、オプションの LPT ポートケーブルを介して 1 つのパラレルポートを提供します。オプションの LPT ポートケーブルを購入する場合、地域の代理店にお問い合わせください。

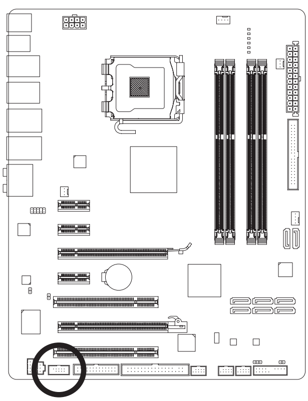


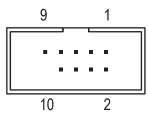


ピン番号	定義	ピン番号	定義
1	STB-	14	GND
2	AFD-	15	PD6
3	PD0	16	GND
4	ERR-	17	PD7
5	PD1	18	GND
6	INIT-	19	ACK-
7	PD2	20	GND
8	SLIN-	21	BUSY
9	PD3	22	GND
10	GND	23	PE
11	PD4	24	ピンなし
12	GND	25	SLCT
13	PD5	26	GND

19) COMA (シリアルポートコネクタ、白)

COMA ヘッダは、オプションの COM ポートケーブルを介して 1 つのシリアルポートを提供します。オプションの COM ポートケーブルを購入する場合、地域の代理店にお問い合わせください。

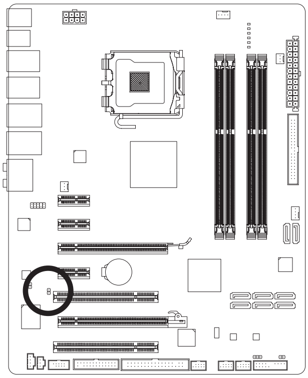




ピン番号	定義
1	NDCD-
2	NSIN
3	NSOUT
4	NDTR-
5	GND
6	NDSR-
7	NRTS-
8	NCTS-
9	NRI-
10	ピンなし

20) CI (ケース開閉検出ヘッダ)

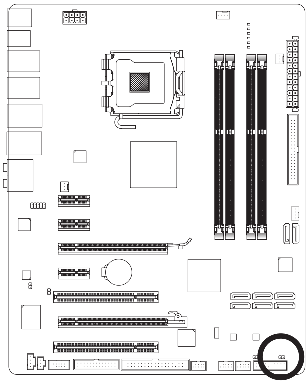
このマザーボードには、シャーシカバーが取り外された場合に検出するシャーシ検出機能が搭載されています。この機能には、シャーシ侵入検出設計を施したシャーシが必要です。



ピン番号	定義
1	信号
2	GND

21) CLR_CMOS (クリア CMOS ジャンパ)

このジャンパを使用して CMOS 値 (例えば、日付情報や BIOS 設定) を消去し、CMOS を工場出荷時の設定にリセットします。CMOS 値を消去するには、ジャンパキャップを 2 つのピンに取り付けて 2 つのピンを一時的にショートするか、ドライバーのような金属製物体を使用して 2 つのピンに数秒間触れます。



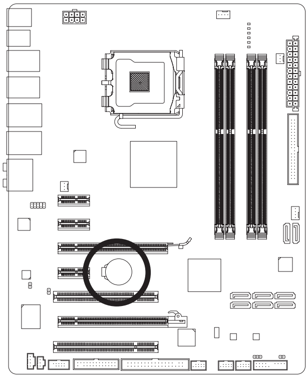
オープン: ノーマル

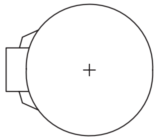
ショート: CMOS 値の消去

- CMOS 設定を初期化する前に、常にコンピュータのパワーをオフにし、コンセントから電源コードを抜いてください。
- CMOS 値を消去した後コンピュータのパワーをオンにする前に、必ずジャンパからジャンパキャップを取り外してください。取り外さないと、マザーボードが損傷する原因となります。
- システムが再起動した後、BIOS セットアップに移動して工場出荷時の設定をロードするか (**Load Optimized Defaults 選択**) BIOS 設定を手動で設定します (BIOS 設定については、第 2 章、「BIOS セットアップ」を参照してください)。

22) BAT (バッテリ)

バッテリは、コンピュータがオフになっているとき CMOS の値 (BIOS 設定、日付、および時刻情報など) を維持するために、電力を提供します。バッテリの電圧が低レベルまで下がったらバッテリを交換してください。そうしないと、CMOS 値が正確に表示されなかったり失われる可能性があります。





バッテリを取り外すと、CMOS 値を消去できます。

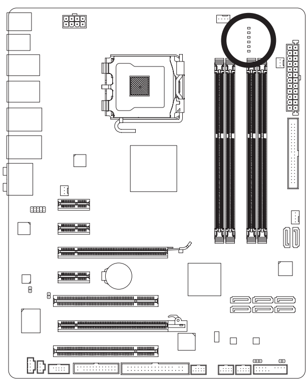
1. コンピュータのパワーをオフにし、パワーコードを抜きます。
2. バッテリホルダからバッテリをそっと取り外し、1 分待ちます。
   (または、ドライバーのような金属物体を使用してバッテリホルダの正および負の端子に触れ、5 秒間ショートさせます)。
3. バッテリを交換します。
4. 電源コードを差し込み、コンピュータを再起動します。

CAUTION

- バッテリを交換する前に、常にコンピュータのパワーをオフにしてから電源コードを抜いてください。
- バッテリを同等のバッテリと交換します。バッテリを正しくないモデルと交換すると、爆発する危険があります。
- バッテリを自分自身で交換できない場合、またはバッテリのモデルがはっきり分からない場合、購入店または地域代理店にお問い合わせください。
- バッテリを取り付けるとき、バッテリのプラス側 (+) とマイナス側 (-) の方向に注意してください (プラス側を上に向ける必要があります)。
- 使用済みバッテリは、地域の環境規制に従って処理する必要があります。

23) PHASE LED

点灯している LED の数字は、CPU がロードしていることを示しています。CPU のロードが高ければ、点灯している LED の数も多くなります。フェーズ表示機能を有効にするには、はじめにダイナミックエネルギーセーバアドバンストを有効にしてください。詳細は、第4章「ダイナミックエネルギーセーバアドバンスト」を参照してください。



第 2 章　　BIOS セットアップ

BIOS (基本入出力システム) は、マザーボードの CMOS にしすテムのハードウェアパラメータを記録します。その主な機能には、システム起動時の POST (パワーオンオフテスト) の実行、システムパラメータの保存およびオペレーティングシステムのロードなどがあります。BIOS には BIOS 起動プログラムが組み込まれており、ユーザーが基本システム設定を変更したり特定のシステム機能をアクティブにできるようになっています。パワーがオフの場合は、マザーボードのバッテリが CMOS に必要な電力を供給して CMOS の設定値を維持しています。

BIOS セットアッププログラムにアクセスするには、パワーがオンになっているとき POST 中に <Delete> キーを押します。詳細な BIOS セットアップメニューオプションを表示するには、BIOS セットアッププログラムのメインメニューで <Ctrl> + <F1> を押します。

BIOS をアップグレードするには、GIGABYTE Q-Flash または @BIOS ユーティリティを使用します。

- Q-Flashで、オペレーティングシステムに入らずに、BIOS を素早く簡単にアップグレードまたはバックアップできます。
- @BIOS は Windows ベースのユーティリティで、インターネットから BIOS の最新バージョンを検索してダウンロードしたり、BIOS を更新したりします。

Q-Flash および @BIOS ユーティリティの使用に関する使用説明については、第 4 章、「BIOS 更新ユーティリティ」を参照してください。

CAUTION

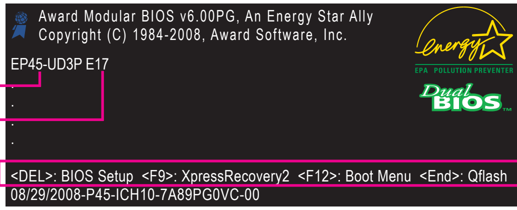
- BIOS フラッシュは危険なため、BIOS の現在のバージョンを使用しているときに問題が発生した場合、BIOS をフラッシュしないようにお勧めします。BIOS をフラッシュするには、注意して行ってください。BIOS の不適切なフラッシュは、システムの誤動作の原因となります。
- BIOS は POST 中にビープコードを鳴らします。ビープコードの説明については、第 5 章「トラブルシューティング」を参照してください。
- システムが不安定になったりその他の予期せぬ結果を引き起こすことがあるため、(必要でない場合) デフォルトの設定を変更しないようにお勧めします。設定を不完全に変更すると、システムは起動できません。その場合、CMOS 値を消去しボードをデフォルト値にリセットしてみてください。(CMOS 値を消去する方法については、この章の「ロード最適化既定値」セクションまたは第 1 章のバッテリ/CMOS ジャンパの消去の概要を参照してください)。

2-1 起動スクリーン

コンピュータが起動するとき、以下のスクリーンが表示されます。

A. LOGO スクリーン (既定値)

B. The POST Screen



機能キー:

<TAB>: POST SCREEN<Tab> キーを押すと、BIOS POST スクリーンが表示されます。システム起動時にBIOS POST スクリーンを表示するには、51 ページの **Full Screen LOGO Show** (**フルスクリーン LOGO 表示**) 表示アイテムの指示を参照してください。

<DEL>: BIOS SETUP/Q-FLASH

<Delete> キーを押して BIOS セットアップに入るか、BIOS セットアップで Q-Flash ユーティリティにアクセスします。

<F9>: XPRESS RECOVERY2

X ドライバディスクを使って、XpressRecovery2 を入力して、ハードドライブデータをバックアップしたことがある場合、その後、中は、<F9> キーを使って、XpressRecovery2 にアクセスできます。詳細については、第 4 章、「Xpress Recovery2」を参照してください。

<F12>: BOOT MENU

起動メニューにより、BIOS セットアップに入ることなく最初のブートデバイスを設定できます。ブートメニューで、上矢印キー <↑> または下矢印キー <↓> を使用して最初の起動デバイスを選択し、次に <Enter> を押して受け入れます。起動メニューを終了するには、<Esc> を押します。システムは、起動メニューで設定されたデバイスから直接起動します。

注：起動メニューの設定は、一度だけ有効になります。システムが再起動した後でも、デバイスの起動順序は BIOS セットアップ設定に基づいた順序になっています。必要に応じて、最初の起動デバイスを変更するために起動メニューに再びアクセスすることができます。

<End>: Q-FLASH

<End> キーを押すと、BIOS セットアップに入らずに直接 Q-Flash ユーティリティにアクセスできます。

2-2 メインメニュー

BIOS セットアッププログラムに入ると、(以下に表示されたように) メインメニューがスクリーンに表示されます。矢印キーでアイテム間を移動し、<Enter> を押してアイテムを受け入れるか、サブメニューに入ります。

(サンプルの BIOS バージョン: E17)

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2008 Award Software

▶ MB Intelligent Tweaker(M.I.T.)	Load Fail-Safe Defaults
▶ Standard CMOS Features	Load Optimized Defaults
▶ Advanced BIOS Features	Set Supervisor Password
▶ Integrated Peripherals	Set User Password
▶ Power Management Setup	Save & Exit Setup
▶ PnP/PCI Configurations	Exit Without Saving
▶ PC Health Status	▶ Security Chip Configuration

ESC: Quit	↑↓→←: Select Item	F11: Save CMOS to BIOS
F8: Q-Flash	F10: Save & Exit Setup	F12: Load CMOS from BIOS

Change CPU's Clock & Voltage

BIOS セットアッププログラムの機能キー

<↑><↓><←><→>	選択バーを移動してアイテムを選択します
<Enter>	コマンドを実行するか、サブメニューに入ります
<Esc>	メインメニュー : BIOS セットアッププログラムを終了します サブメニュー : 現在のサブメニューを終了します
<Page Up>	数値を多くするか、変更します
<Page Down>	数値を少なくするか、変更します
<F1>	機能キーの説明を表示します
<F2>	カーソルを右のアイテムヘルプブロックに移動します (サブメニューのみ)
<F5>	現在のサブメニューに対して前の BIOS 設定を復元します
<F6>	現在のサブメニューに対して、BIOS のフェールセーフ既定値設定をロードします
<F7>	現在のサブメニューに対して、BIOS の最適化既定値設定をロードします
<F8>	Q-Flash ユーティリティにアクセスします
<F9>	システム情報を表示します
<F10>	すべての変更を保存し、BIOS セットアッププログラムを終了します
<F11>	CMOS を BIOS に保存します
<F12>	BIOS から CMOS をロードします

メインメニューのヘルプ

ハイライトされたセットアップオプションのオンスクリーン説明は、メインメニューの最下行に表示されます。

サブメニューヘルプ

サブメニューに入っている間、<F1> を押してメニューで使用可能な機能キーのヘルプスクリーン (一般ヘルプ) を表示します。<Esc> を押してヘルプスクリーンを終了します。各アイテムのヘルプは、サブメニューの右側のアイテムヘルプブロックにあります。

NOTE

- メインメニューまたはサブメニューに目的の設定が見つからない場合、<Ctrl>+<F1> を押して詳細オプションにアクセスします。
- システムが安定しないとき、**Load Optimized Defaults** アイテムを選択してシステムをその既定値に設定します。
- この章で説明した BIOS セットアップメニューは、参照にすぎず BIOS のバージョンによって異なることがあります。

■ <F11> および <F12> キーの機能 (メインメニューの場合のみ)

▶ F11 : Save CMOS to BIOS

この機能により、現在の BIOS 設定をプロファイルに保存できます。最大 8 つのプロファイル (プロファイル 1-8) を作成し、各プロファイルに名前を付けることができます。まず、プロファイル名を入力し (デフォルトのプロファイル名を消去するには、SPACE キーを使用します)、次に <Enter> を押して完了します。

▶ F12 : Load CMOS from BIOS

システムが不安定になり、BIOS の既定値設定をロードした場合、この機能を使用して前に作成されたプロファイルから BIOS 設定をロードすると、BIOS 設定をわざわざ設定しなおす煩わしさを避けることができます。まず、ロードするプロファイルを選択し、次に <Enter> を押して完了します。

■ **MB Intelligent Tweaker(M.I.T.)**

このメニューを使用してクロック、CPU の周波数および電圧、メモリなどを設定します。

■ **Standard CMOS Features**

このメニューを使用してシステムの日時、ハードドライブのタイプ、フロッピーディスクドライブのタイプ、およびシステム起動を停止するエラーのタイプを設定します。

■ **Advanced BIOS Features**

このメニューを使用してデバイスの起動順序、CPU で使用可能な拡張機能、および 1 次ディスプレイアダプタを設定します。

■ **Integrated Peripherals**

このメニューを使用して IDE、SATA、USB、統合オーディオ、および統合 LAN などのすべての周辺機器を設定します。

■ **Power Management Setup**

このメニューを使用して、すべての省電力機能を設定します。

■ **PnP/PCI Configurations**

このメニューを使用して、システムの PCI および PnP リソースを設定します。

■ **PC Health Status**

このメニューを使用して自動検出されたシステム/CPU 温度、システム電圧およびファン速度に関する情報を表示します。

■ **Load Fail-Safe Defaults**

フェールセーフ既定値はもっとも安定した、最適パフォーマンスのシステム操作を実現する工場出荷時の設定です。

■ **Load Optimized Defaults**

最適化既定値は、最適パフォーマンスのシステム操作を実現する工場出荷時設定です。

■ **Set Supervisor Password**

パスワードの変更、設定、または無効化。この設定により、システムと BIOS セットアップへのアクセスを制限できます。管理者パスワードにより、BIOS セットアップで変更を行えます。

■ **Set User Password**

パスワードの変更、設定、または無効化。この設定により、システムと BIOS セットアップへのアクセスを制限できます。ユーザーパスワードは、BIOS 設定を表示するだけで変更は行いません。

■ **Save & Exit Setup**

BIOS セットアッププログラムで行われたすべての変更を CMOS に保存し、BIOS セットアップを終了します。(<F10> を押してもこのタスクを実行できます)。

■ **Exit Without Saving**

すべての変更を破棄し、前の設定を有効にしておきます。確認メッセージに対して <Y> を押すと、BIOS セットアップが終了します。(<Esc> を押してもこのタスクを実行できます)。

■ **Security Chip Configuration**

このメニューを使用して、TPM 機能を設定します。

2-3 MB Intelligent Tweaker(M.I.T.)

```
CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2008 Award Software
MB Intelligent Tweaker(M.I.T.)

   Robust Graphics Booster                          [Auto]              Item Help
   CPU Clock Ratio (Note 1)                         [10X]               Menu Level▶
   Fine CPU Clock Ratio (Note 1)                    [+0.0]
   CPU Frequency                                    2.66GHz (266x10)

   ********  Clock Chip Control  ********
   >>>>>  Standard Clock Control
   CPU Host Clock Control                           [Disabled]
x  CPU Host Frequency (Mhz)                         266
   PCI Express Frequency (Mhz)                      [Auto]
   C.I.A. 2                                         [Disabled]
   >>>>>  Advanced Clock Control
▶  Advanced Clock Control                           [Press Enter]

   ********  DRAM Performance Control  ********
   Performance Enhance                              [Turbo]
   Extreme Memory Profile (X.M.P.) (Note 2)         [Disabled]
   (G)MCH Frequency Latch                           [Auto]
   System Memory Multiplier              (SPD)      [Auto]

↑↓→←: Move    Enter: Select    +/-/PU/PD: Value    F10: Save    ESC: Exit    F1: General Help
      F5: Previous Values      F6: Fail-Safe Defaults            F7: Optimized Defaults
```

```
CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2008 Award Software
MB Intelligent Tweaker(M.I.T.)

   Memory Frequency (Mhz)                1333       1066                Item Help
   DRAM Timing Selectable                (SPD)      [Auto]              Menu Level▶
   >>>>>  Standard Timing Control
x  CAS Latency Time                      5          Auto
x  tRCD                                  5          Auto
x  tRP                                   5          Auto
x  tRAS                                  15         Auto
   >>>>>  Advanced Timing Control
▶  Advanced Timing Control                          [Press Enter]

   ********  Mother Board Voltage Control  ********
   Voltage Types                         Normal     Current
   -----------------------------------------------------------------
   >>>  CPU
   Load-Line Calibration                            [Disabled]
   CPU Vcore                             1.12500V   [Auto]
   CPU Termination                       1.200V     [Auto]
   CPU PLL                               1.500V     [Auto]
   CPU Reference                         0.760V     [Auto]

↑↓→←: Move    Enter: Select    +/-/PU/PD: Value    F10: Save    ESC: Exit    F1: General Help
      F5: Previous Values      F6: Fail-Safe Defaults            F7: Optimized Defaults
```

(注 1) このアイテムは、この機能をサポートする CPU を取り付けた場合のみ表示されます。
(注 2) このアイテムは、この機能をサポートするメモリモジュールを取り付けた場合のみ表示されます。

```
CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2008 Award Software
MB Intelligent Tweaker(M.I.T.)

>>> MCH/ICH                                          Item Help
MCH Core                 1.100V     [Auto]           Menu Level▶
MCH Reference            0.760V     [Auto]
MCH/DRAM Reference       0.750V     [Auto]
ICH I/O                  1.500V     [Auto]
ICH Core                 1.100V     [Auto]
>>> DRAM
DRAM Voltage             1.800V     [Auto]
DRAM Termination         0.900V     [Auto]
Channel A Reference      0.900V     [Auto]
Channel B Reference      0.900V     [Auto]

↑↓→←: Move    Enter: Select    +/-/PU/PD: Value    F10: Save    ESC: Exit    F1: General Help
      F5: Previous Values      F6: Fail-Safe Defaults           F7: Optimized Defaults
```

CAUTION

システムがオーバークロック/過電圧設定で安定して作動しているかどうかは、システム全体の設定によって異なります。オーバークロック/過電圧を間違って実行すると CPU、チップセット、またはメモリが損傷し、これらのコンポーネントの耐用年数が短くなる原因となります。このページは上級ユーザー向けであり、システムの不安定や予期せぬ結果をまねくことがあるため、既定値設定を変更しないようにお勧めします。(設定を不完全に変更すると、システムは起動できません。その場合、CMOS 値を消去しボードをデフォルト値にリセットしてください)。

☞ Robust Graphics Booster

R.G.B. (ロバストグラフィックスブースタ) により、グラフィックスチップとメモリのパフォーマンスが向上します。**Auto** により、BIOS はシステム設定に基づき R.G.B. モードを自動的に設定できます。オプションは、Auto (既定値)、Fast、Turbo です。

☞ CPU Clock Ratio (注)

取り付けた CPU に対してクロック比を変更します。
アンロックされたクロック比の CPU が取り付けられている場合のみ、アイテムが表示されます。

☞ Fine CPU Clock Ratio (注)

CPU Clock Ratio (CPU クロック比) アイテムで設定した CPU クロック比を 0.5 刻みデオ増加します。

☞ CPU Frequency

現在の CPU 周波数を表示します。

******** **Clock Chip Control** ********

>>>>> **Standard Clock Control**

☞ CPU Host Clock Control

CPU ホストクロックの制御の有効/無効を切り換えます。**Enabled** は、以下の **CPU Host Frequency** アイテムを設定します。注:オーバークロックの後システムが起動に失敗した場合、20 秒待ってシステムを自動的に再起動するか、または CMOS 値を消去してボードを既定値にリセットします。(既定値: Disabled)

(注) このアイテムは、この機能をサポートする CPU を取り付けた場合のみ表示されます。

☞ **CPU Host Frequency (Mhz)**

CPU ホスト周波数を手動で設定します。このあいテムは、**CPU Host Clock Control** オプションが有効になっている場合のみ設定可能です。調整可能な範囲は100 MHz～700 MHzです。
800 MHz FSB CPU の場合、このアイテムを 200 MHz に設定します。.
1066 MHz FSB CPU の場合、このアイテムを 266 MHz に設定します。
1333 MHz FSB CPU の場合、このアイテムを 333 MHz に設定します。.
1600 MHz FSB CPU の場合、このアイテムを 400 MHz に設定します。
重要 CPU 仕様に従って CPU 周波数を設定するように強くお勧めします。

☞ **PCI Express Frequency (Mhz)**

PCIe クロック周波数を手動で設定します。調整可能な範囲は 90 MHz から 150 MHzまでです。**Auto** は PCIe クロック周波数を標準の 100 MHz に設定します。(既定値 : Auto)

☞ **C.I.A.2**

CPU インテリジェントアクセラレータ 2 (C.I.A.2) は、CPUのコンピューティングパワーを自動的に調整して、システム性能を最大限に発揮するように設計されています。C.I.A.2 により、5 つのプリセット状態の使用を通して、システムバスを CPU ローディングに基づき動的に変更できます。
注 : システムの安定性は、システムのハードウェアコンポーネントによって異なります。

- Disabled　C.I.A.2 の使用を無効にします。(既定値)
- Cruise　CPU ローディングによって、CPU 周波数を 5% または 7% 増加します。
- Sports　CPU ローディングによって、CPU 周波数を 7% または 9% 増加します。
- Racing　CPU ローディングによって、CPU 周波数を 9% または 11% 増加します。
- Turbo　CPU ローディングによって、CPU 周波数を 15% または 17% 増加します。
- Full Thrust　CPU ローディングによって、CPU 周波数を 17% または 19% 増加します。

警告 : C.I.A.2 を使用する前に、CPU のオーバークロッキング機能をまず確認してください。安定性はシステムコンポーネントに高く依存するため、オーバークロッキングの後にシステムが不安定になったら、オーバークロッキング比を下げてください。

>>>>> Advanced Clock Control

☞ **Advanced Clock Control**

```
CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2008 Award Software
Advanced Clok Control

CPU Clock Drive                 [800mV]        Item Help
PCI Express Clock Drive         [900mV]        Menu Level▶▶
CPU Clock Skew                  [0ps
MCH Clock Skew                  [0ps]

↑↓→←: Move   Enter: Select   +/-/PU/PD: Value   F10: Save   ESC: Exit   F1: General Help
      F5: Previous Values    F6: Fail-Safe Defaults         F7: Optimized Defaults
```

☞ **CPU Clock Drive**

CPU およびノースブリッジクロックの振幅を調整します。
オプション: 700mV、800mV (既定値)、900mV、1000mV。

☞ **PCI Express Clock Drive**

PCI Express およびノースブリッジクロックの振幅を調整します。
オプション: 700mV、800mV、900mV (既定値)、1000mV。

☞ **CPU Clock Skew**

ノースブリッジクロックに先立ち、CPUクロックを設定します。
オプション: 0ps~750ps. (既定値: 0ps)

☞ **MCH Clock Skew**

CPUクロックに先立ち、ノースブリッジクロックを設定します。
オプション: 0ps~750ps. (既定値: 0ps)

******** **DRAM Performance Control** ********

☞ **Performance Enhance**

システムが3つの異なるパフォーマンスレベルで操作できるようにしています。

- ▸▸ Standard 基本パフォーマンスレベルでシステムを操作します。
- ▸▸ Turbo 良好なパフォーマンスレベルでシステムを操作します。(既定値)
- ▸▸ Extreme 最高のパフォーマンスレベルでシステムを操作します。

☞ **Extreme Memory Profile (X.M.P.)** (注)

BIOS が XMP メモリモジュールの SPD データを読み込んで、有効になっているメモリパフォーマンスを向上します。

- ▸▸ Disabled この機能を無効にします。(既定値)
- ▸▸ Profile1 プロファイル1設定を使用します。
- ▸▸ Profile2 プロファイル2設定を使用します。

☞ **(G)MCH Frequency Latch**

システム起動時に、チップセット周波数を修正します。以下のメモリマルチプライヤを調整するオプションは、修正された周波数により異なることがあります。オプション: 自動 (既定値)、200MHz、266MHz、333MHz、400MHz。

☞ **System Memory Multiplier (SPD)**

システムメモリマルチプライヤを設定します。オプションは CPU FSB に依存します。**Auto** は、メモリの SPD および **(G)MCH Frequency Latch** データに従ってメモリマルチプライヤを設定します。(既定値: Auto)

☞ **Memory Frequency (Mhz)**

最初のメモリ周波数値は使用されるメモリの標準の動作周波数で、2 番目の値は **CPU Host Frequency (Mhz)** および **System Memory Multiplier** 設定に従って自動的に調整されるメモリ周波数です。

☞ **DRAM Timing Selectable (SPD)**

Manual (手動) は、以下の DRAM タイミング制御をすべて設定します。
オプション: Auto (既定値), Manual (手動)。

(注) このアイテムは、この機能をサポートするメモリモジュールを取り付けた場合のみ表示されます。

>>>>> Standard Timing Control

☞ **CAS Latency Time**

オプション: Auto (既定値), 3~7.

☞ **tRCD**

オプション: Auto (既定値), 1~15.

☞ **tRP**

オプション: Auto (既定値), 1~15.

☞ **tRAS**

オプション: Auto (既定値), 1~63.

>>>>> Advanced Timing Control

☞ **Advanced Timing Control**

```
CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2008 Award Software
Advanced Timing Control

x  tRRD                          2        Auto            Item Help
x  tWTR                          2        Auto            Menu Level▶
x  tWR                           4        Auto
x  tRFC                          28       Auto
x  tRTP                          2        Auto
x  Command Rate (CMD)            0        Auto

   >>>>>  Channel A
▶  Channel A Timing Settings              [Press Enter]
▶  Channel A Driving Settings             [Press Enter]

   >>>>>  Channel B
▶  Channel B Timing Settings              [Press Enter]
▶  Channel B Driving Settings             [Press Enter]

↑↓→←: Move   Enter: Select   +/-/PU/PD: Value   F10: Save   ESC: Exit   F1: General Help
  F5: Previous Values        F6: Fail-Safe Defaults          F7: Optimized Defaults
```

********** Advanced Timing Control **********

☞ **tRRD**

オプション: Auto (既定値), 1~15.

☞ **tWTR**

オプション: Auto (既定値), 1~31.

☞ **tWR**

オプション: Auto (既定値), 1~31.

☞ **tRFC**

オプション: Auto (既定値), 1~255.

☞ **tRTP**

オプション: Auto (既定値), 1~15.

☞ **Command Rate(CMD)**

オプション: Auto (既定値), 1~3.

>>>>> Channel A/B

☞ Channel A/B Timing Settings

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2008 Award Software
Channel A Timing Settings

				Item Help
x	Static tRead Value	6	Auto	Menu Level▶
x	tRD Phase0 Adjustment	1	Auto	
x	tRD Phase1 Adjustment	0	Auto	
x	tRD Phase2 Adjustment	1	Auto	
x	tRD Phase3 Adjustment	1	Auto	
x	Trd2rd(Different Rank)	6	Auto	
x	Twr2wr(Different Rank)	6	Auto	
x	Twr2rd(Different Rank)	5	Auto	
x	Trd2wr(Same/Diff Rank)	8	Auto	
x	DIMM1 Clock Skew Control		Auto	
x	DIMM2 Clock Skew Control		Auto	
x	DDR Write Training		Auto	

↑↓→←: Move Enter: Select +/-/PU/PD: Value F10: Save ESC: Exit F1: General Help
F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults

☞ Static tRead Value

オプション: Auto (既定値), 1~15.

☞ tRD Phase0 Adjustment

オプション: Auto (既定値)、0-Normal, 1-Advanced。

☞ tRD Phase1 Adjustment

オプション: Auto (既定値)、0-Normal, 1-Advanced。

☞ tRD Phase2 Adjustment

オプション: Auto (既定値)、0-Normal, 1-Advanced。

☞ tRD Phase3 Adjustment

オプション: Auto (既定値)、0-Normal, 1-Advanced。

☞ Trd2rd(Different Rank)

オプション: Auto (既定値), 1~15.

☞ Twr2wr(Different Rank)

オプション: Auto (既定値), 1~15.

☞ Twr2rd(Different Rank)

オプション: Auto (既定値), 1~15.

☞ Trd2wr(Same/Diff Rank)

オプション: Auto (既定値), 1~15.

☞ DIMM1 Clock Skew Control

オプション: Auto (既定値), +800ps~-700ps.

☞ DIMM2 Clock Skew Control

オプション: Auto (既定値), +800ps~-700ps.

☞ DDR Write Training

メモリーパラメータを微調整してメモリ互換性を拡張するかどうかを決定できます。

- ▶▶ Auto　BIOSにこの機能を有効にするかどうかを決定させます。（既定値）
- ▶▶ Disabled　この機能を無効にします。
- ▶▶ Enabled　この機能を有効にして、メモリー互換性を拡張します。

☞ Channel A/B Driving Settings

```
CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2008 Award Software
Channel A Driving Settings

x  Driving Strength Profile        Auto          Item Help
                                                 Menu Level▶
x  Data Driving Pull-Up Level      Auto
x  Cmd Driving Pull-Up Level       Auto
x  Ctrl Driving Pull-Up Level      Auto
x  Clk Driving Pull-Up Level       Auto

x  Data Driving Pull-Down Level    Auto
x  Cmd Driving Pull-Down Level     Auto
x  Ctrl Driving Pull-Down Level    Auto
x  Clk Driving Pull-Down Level     Auto

↑↓→←: Move   Enter: Select   +/-/PU/PD: Value   F10: Save   ESC: Exit   F1: General Help
   F5: Previous Values       F6: Fail-Safe Defaults         F7: Optimized Defaults
```

☞ Data Driving Pull-Up Level

オプション: Auto (既定値), +8~-7.

☞ Cmd Driving Pull-Up Level

オプション: Auto (既定値), +8~-7.

☞ Ctrl Driving Pull-Up Level

オプション: Auto (既定値), +8~-7.

☞ Clk Driving Pull-Up Level

オプション: Auto (既定値), +8~-7.

☞ Data Driving Pull-Down Level

オプション: Auto (既定値), +8~-7.

☞ Cmd Driving Pull-Down Level

オプション: Auto (既定値), +8~-7.

☞ Ctrl Driving Pull-Down Level

オプション: Auto (既定値), +8~-7.

☞ Clk Driving Pull-Down Level

オプション: Auto (既定値), +8~-7.

******** Mother Board Voltage Control ********

>>> CPU

☞ **Load-Line Calibration**

負荷ライン較正を有効または無効にします。この機能を有効にすると、Vdroop を調整し、光が当たっている状態および CPU 負荷が重い状態で CPU 電圧が一定になります。無効にすると、CPU 電圧が Intel 仕様にしたがって、設定されます。(デフォルト:無効)

☞ **CPU Vcore**

デフォルトは **Auto** です。

☞ **CPU Termination**

デフォルトは **Auto** です。

☞ **CPU PLL**

デフォルトは **Auto** です。

☞ **CPU Reference**

デフォルトは **Auto** です。

>>> MCH/ICH

☞ **MCH Core**

デフォルトは **Auto** です。

☞ **MCH Reference**

デフォルトは **Auto** です。

☞ **MCH/DRAM Reference**

デフォルトは **Auto** です。

☞ **ICH I/O**

デフォルトは **Auto** です。

>>> DRAM

☞ **DRAM Voltage**

デフォルトは **Auto** です。

☞ **DRAM Termination**

デフォルトは **Auto** です。

☞ **Channel A Reference**

デフォルトは **Auto** です。

☞ **Channel B Reference**

デフォルトは **Auto** です。

2-4 Standard CMOS Features

```
              CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2008 Award Software
                             Standard CMOS Features
   Date (mm:dd:yy)                     Mon, Aug 25 2008            Item Help
   Time (hh:mm:ss)                     22:31:24                  Menu Level▶

▶  IDE Channel 0 Master                [None]
▶  IDE Channel 0 Slave                 [None]
▶  IDE Channel 1 Master                [None]
▶  IDE Channel 1 Slave                 [None]
▶  IDE Channel 2 Master                [None]
▶  IDE Channel 3 Master                [None]
▶  IDE Channel 4 Master                [None]
▶  IDE Channel 4 Slave                 [None]
▶  IDE Channel 5 Master                [None]
▶  IDE Channel 5 Slave                 [None]

   Drive A                             [1.44M, 3.5"]
   Floppy 3 Mode Support               [Disabled]

   Halt On                             [All, But Keyboard]

↑↓→←: Move   Enter: Select   +/-/PU/PD: Value   F10: Save   ESC: Exit   F1: General Help
      F5: Previous Values    F6: Fail-Safe Defaults         F7: Optimized Defaults
```

```
              CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2008 Award Software
                             Standard CMOS Features
   Base Memory                         640K                        Item Help
   Extended Memory                     510M                      Menu Level▶
   Total Memory                        512M

↑↓→←: Move   Enter: Select   +/-/PU/PD: Value   F10: Save   ESC: Exit   F1: General Help
      F5: Previous Values    F6: Fail-Safe Defaults         F7: Optimized Defaults
```

☞ Date

システムの日付を設定します。日付形式は週 (読み込み専用)、月、日および年です。目的のフィールドを選択し、上または下矢印キーを使用して日付を設定します。

☞ Time

システムの時刻を設定します。例:1 p.m. は 13:0:0 です。目的のフィールドを選択し、上または下矢印キーを使用して時刻を設定します。

☞ IDE Channel 0/1 Master/Slave

▸▸ IDE HDD Auto-Detection

<Enter> を押して、このチャンネルの IDE/SATA デバイスのパラメータを自動検出します。

▸▸ IDE Channel 0/1 Master/Slave

以下の 3 つの方法のいずれかを使用して、IDE/SATA デバイスを設定します:

- Auto　　POST 中に、BIOS により IDE/SATA デバイスが自動的に検出されます。(既定値)
- None　　IDE/SATA デバイスが使用されていない場合、このアイテムを **None** に設定すると、システムは POST 中にデバイスの検出をスキップしてシステムの起動を高速化します。
- Manual　　ハードドライブのアクセスモードが **CHS** に設定されているとき、ハードドライブの仕様を手動で入力します。

▸▸ Access Mode　　ハードドライブのアクセスモードを設定します。オプションは、Auto (既定値)、CHS、LBA、Large です。

IDE Channel 2, 3 Master, IDE Channel 4, 5 Master/Slave

▸▸ IDE Auto-Detection

<Enter> を押して、このチャンネルの IDE/SATA デバイスのパラメータを自動検出します。

▸▸ Extended IDE Drive

以下の 2 つの方法のいずれかを使用して、IDE/SATA デバイスを設定します :

- Auto　　POST 中に、BIOS により IDE/SATA デバイスが自動的に検出されます。(既定値)
- None　　IDE/SATA デバイスが使用されていない場合、このアイテムを **None** に設定すると、システムは POST 中にデバイスの検出をスキップしてシステムの起動を高速化します。

▸▸ Access Mode　　ハードドライブのアクセスモードを設定します。オプションは、Auto (既定値)、Large です。

以下のフィールドには、お使いのハードドライブの仕様が表示されます。パラメータを手動で入力する場合、ハードドライブの情報を参照してください。

▸▸ Capacity　　現在取り付けられているハードドライブのおおよその容量。

▸▸ Cylinder　　シリンダー数。

▸▸ Head　　ヘッド数。

▸▸ Precomp　　事前補正の書き込みシリンダ。

▸▸ Landing Zone　　ランディングゾーン。

▸▸ Sector　　セクタ数。

Drive A

システムに取り付けられているフロッピーディスクドライブのタイプを選択します。フロッピーディスクドライブを取り付けていない場合、このアイテムを **None** に設定します。オプションは、None (既定値)、360K/5.25"、1.2M/5.25"、720K/3.5"、1.44M/3.5"、2.88M/3.5"です。

Floppy 3 Mode Support

取り付けられたフロッピーディスクドライブが 3 モードのフロッピーディスクドライブであるか、日本の標準フロッピーディスクドライブであるかを指定します。オプションは、Disabled (既定値)、ドライブ Aです。

Halt On

システムが POST 中にエラーに対して停止するかどうかを決定します。

▸▸ No Errors　　システム起動は、エラーに対して停止しません。

▸▸ All Errors　　BIOS は、システムが停止する致命的でないエラーを検出します。

▸▸ All, But Keyboard　　キーボードエラー以外のエラーでシステムは停止します。(既定値)

▸▸ All, But Diskette　　フロッピーディスクドライブエラー以外のエラーでシステムは停止します。

▸▸ All, But Disk/Key　　キーボードエラー、またはフロッピーディスクドライブエラー以外のエラーでシステムは停止します。

Memory

これらのフィールドは読み込み専用で、BIOS POST で決定されます。

▸▸ Base Memory　　コンベンショナルメモリとも呼ばれています。一般に、640 KB は MS-DOS オペレーティングシステム用に予約されています。

▸▸ Extended Memory　　拡張メモリ量。

▸▸ Total Memory　　システムに取り付けられたメモリの総量。

2-5 Advanced BIOS Features

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2008 Award Software
Advanced BIOS Features

		Item Help
▶ Hard Disk Boot Priority	[Press Enter]	Menu Level▶
First Boot Device	[Floppy]	
Second Boot Device	[Hard Disk]	
Third Boot Device	[CDROM]	
Password Check	[Setup]	
HDD S.M.A.R.T. Capability	[Enabled]	
CPU Multi-Threading (注)	[Enabled]	
Limit CPUID Max. to 3 (注)	[Disabled]	
No-Execute Memory Protect (注)	[Enabled]	
CPU Enhanced Halt (C1E) (Note)	[Enabled]	
C2/C2E State Support (注)	[Disabled]	
C4/C4E State Support (注)	Disabled	
CPU Thermal Monitor 2(TM2) (注)	[Enabled]	
CPU EIST Function (注)	[Enabled]	
Virtualization Technology (注)	[Enabled]	
Delay For HDD (Secs)	[0]	
Full Screen LOGO Show	[Enabled]	
Dual BIOS Recovery Source	[HPA]	
Init Display First	[PCI]	

↑↓→←: Move Enter: Select +/-/PU/PD: Value F10: Save ESC: Exit F1: General Help
F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults

☞ Hard Disk Boot Priority

取り付けられたハードドライブからオペレーティングシステムをロードする順序が指定されます。上または下矢印キーを使用してハードドライブを選択し、次にプラスキー <+> (または <PageUp>) またはマイナスキー <-> (または <PageDown>) を押してリストの上または下に移動します。このメニューを終了するには、<ESC>を押します。

☞ First/Second/Third Boot Device

使用可能なデバイスから起動順序を指定します。上または下矢印キーを使用してデバイスを選択し、<Enter> を押して受け入れます。オプションは、フロッピー、LS120、ハードディスク、CDROM、ZIP、USB-FDD、USB-ZIP、USB-CDROM、USB-HDD、Legacy LAN、Disabled (無効) です。

☞ Password Check

パスワードは、システムが起動するたびに必要か、または BIOS セットアップに入るときのみ必要かを指定します。このアイテムを設定した後、BIOS メインメニューの **Set Supervisor/User Password** アイテムの下でパスワードを設定します。

- ▶▶ Setup　パスワードは BIOS セットアッププログラムに入る際にのみ要求されます。(既定値)
- ▶▶ System　パスワードは、システムを起動したり BIOS セットアッププログラムに入る際に要求されます。

☞ HDD S.M.A.R.T. Capability

ハードドライブの S.M.A.R.T. (セルフモニタリング・アナリシス・アンド・リポーティング・テクノロジー) 機能の有効/無効を切り換えます。この機能により、システムはハードドライブの読み込み/書き込みエラーを報告し、サードパーティのハードウェアモニタユーティリティがインストールされているとき、警告を発行することができます。(既定値 : Enabled)

(注) このアイテムは、この機能をサポートする CPU を取り付けた場合のみ表示されます。Intel CPU の固有機能の詳細については、Intel の Web サイトにアクセスしてください。

☞ **CPU Multi-Threading** (注)

マルチコアテクノロジに対応した Intel® CPU を使用しているとき、すべての CPU コアとマルチスレッディングを有効にするかどうかを決定します。この機能は、マルチプロセッサモードをサポートするオペレーティングシステムでのみ作動します。

- ➤➤ Enabled　すべての CPU コアとマルチスレッディング機能を有効にします。(既定値)
- ➤➤ Disabled　1 つの CPU コアのみを有効にします。.

☞ **Limit CPUID Max. to 3** (注)

CPUID の最大値を制限するかどうかを決定します。Windows XP オペレーティングシステムの場合このアイテムを **Disabled** に設定し、Windows NT4.0 など従来のオペレーティングシステムの場合このアイテムを **Enabled** に設定します。(既定値: Disabled)

☞ **No-Execute Memory Protect** (注)

Intel® Execute Disable Bit 機能の有効/無効を切り換えます。この機能により、コンピュータの保護を強化し、そのサポートされるソフトウェアやシステムで作業しているとき、ウイルスや悪意のあるバッファオーバーフロー攻撃への露出を低減することができます。(既定値: Enabled)

☞ **CPU Enhanced Halt (C1E)** (注)

Intel® CPU Enhanced Halt (C1E) 機能、つまりシステム停止状態時の CPU 省電力機能の有効/無効を切り換えます。有効に設定されているとき、システム停止状態の間 CPU のコア周波数と電圧を下げて消費電力を抑えます。(既定値: Enabled)

☞ **C2/C2E State Support** (注)

CPU がシステム停止状態で C2/C2E モードに入るかどうかを決定します。有効に設定されているとき、システム停止状態の間 CPU のコア周波数と電圧を下げて消費電力を抑えます。(既定値: Disabled)

☞ **C4/C4E State Support** (注)

CPU がシステム停止状態で C4/C4E モードに入るかどうかを決定します。有効に設定されているとき、システム停止状態の間 CPU のコア周波数と電圧を下げて消費電力を抑えます。C4/C4E 状態は、C2/C2E より省電力機能が強化されています。このアイテムは、**C2/C2E State Support** (C2/C2E 状態のサポート) オプションが有効になっている場合のみ設定可能です。(既定値: Disabled)

☞ **CPU Thermal Monitor 2 (TM2)** (注)

Intel® CPU Thermal Monitor (TM2) 機能、つまり CPU の過熱保護機能の有効/無効を切り換えます。有効に設定されているとき、CPU が過熱しているとき CPU のコア周波数と電圧を下げます。(既定値: Enabled)

☞ **CPU EIST Function** (注)

Intel SpeedStep Technology (EIST) の有効/無効を切り換えます。CPU ローディングにより、Intel® EIST テクノロジは CPU 電圧とコア周波数を動的にかつ効率的に下げて平均の消費電力と熱発生量を抑えます。(既定値: Enabled)

☞ **Virtualization Technology** (注)

Intel® 仮想化テクノロジの有効/無効を切り換えます。Intel® 仮想化テクノロジによって強化された仮想化により、プラットフォームは独立したパーティションで複数のオペレーティングシステムとアプリケーションを実行することができます。仮想化では、1 つのコンピュータシステムが複数の仮想システムとして機能します。(既定値: Enabled)

(注)　このアイテムは、この機能をサポートする CPU を取り付けた場合のみ表示されます。Intel CPU の固有機能の詳細については、Intel の Web サイトにアクセスしてください。

☞ **Delay For HDD (Secs)**

システム起動時にハードドライブを初期化するために、BIOS 用の遅延時間を設定します。**調整可**能な範囲は 0 から 15 秒までです。(既定値： 0)

☞ **Full Screen LOGO Show**

システム起動時に、GIGABYTE ロゴを表示するかどうかを決定します。**Disabled** は標準の POST メッセージを表示します。(既定値： Enabled)

☞ **Dual BIOS Recovery Source**

メインＢＩＯＳが故障した場合、バックアップＢＩＯＳ、またはハードドライブのＨＰＡからを修復するかを選択します。（デフォルト：ＨＰＡ）

☞ **Init Display First**

取り付けられた PCI グラフィックスカードまたは PCI Express グラフィックスカードから、モニタディスプレイの最初の表示を指定します。

- ▸▸ PCI　最初のディスプレイとして PCI グラフィックスカードを設定します。(既定値)
- ▸▸ PEG　1 番目のディスプレイとして PCIe x16 スロット (PCIE_16_1) の PCI Express グラフィックスカードを設定します。
- ▸▸ PEG2　1 番目のディスプレイとして PCIe x8 スロット (PCIE_8_1) の PCI Express グラフィックスカードを設定します。

2-6 Integrated Peripherals

```
CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2008 Award Software
Integrated Peripherals

   SATA RAID/AHCI Mode              [Disabled]        Item Help
   SATA Port0-3 Native Mode         [Disabled]        Menu Level▶
   USB Controller                   [Enabled]
   USB 2.0 Controller               [Enabled]
   USB Keyboard Support             [Enabled]
   USB Mouse Support                [Disabled]
   Legacy USB storage detect        [Enabled]
   Azalia Codec                     [Auto]
   Onboard H/W 1394                 [Enabled]
   Onboard H/W LAN1                 [Enabled]
   Onboard H/W LAN2                 [Enabled]
   Green LAN                        [Disbabled]
 ▶ SMART LAN1                       [Press Enter]
 ▶ SMART LAN2                       [Press Enter]
   Onboard LAN1 Boot ROM            [Disabled]
   Onboard LAN2 Boot ROM            [Disabled]
   Onboard SATA/IDE Device          [Enabled]
   Onboard SATA/IDE Ctrl Mode       [IDE]
   Onboard Serial Port 1            [3F8/IRQ4]

↑↓→←: Move   Enter: Select   +/-/PU/PD: Value   F10: Save   ESC: Exit   F1: General Help
   F5: Previous Values       F6: Fail-Safe Default          F7: Optimized Defaults
```

```
CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2008 Award Software
Integrated Peripherals

   Onboard Parallel Port            [378/IRQ7]        Item Help
   Parallel Port Mode               [SPP]             Menu Level▶

↑↓→←: Move   Enter: Select   +/-/PU/PD: Value   F10: Save   ESC: Exit   F1: General Help
   F5: Previous Values       F6: Fail-Safe Default          F7: Optimized Defaults
```

☞ **SATA RAID/AHCI Mode (Intel ICH10R サウスブリッジ)**

SATA コントローラに対して RAID を有効または無効にし、SATA コントローラを AHCI モードに設定します。

- ➤➤ Disabled　SATA コントローラを PATA モードに設定します。(既定値)
- ➤➤ AHCI　SATA コントローラを AHCI モードに設定します。AHCI (拡張ホストコントローラインターフェイス) は、ストレージドライバがネーティブコマンドキューイングおよびホットプラグなどの拡張シリアル ATA 機能を有効にするインターフェイス仕様です。
- ➤➤ RAID　SATA コントローラの RAID を有効にします。

☞ **SATA Port0-3 Native Mode**

統合された SATA コントローラのオペレーティングモードを指定します。

▸▸ Disabled　SATA コントローラにより、レガシー IDE モードを操作します。
レガシーモードで、SATA コントローラは他のデバイスと共有できない専用の IRQ を使用します。たとえば Windows 9X/ME などのネーティブモードをサポートしない、オペレーティングシステムをインストールする場合、このオプションを **Disabled** (無効)に設定します。(既定値)

▸▸ Enabled　SATA コントローラにより、ネーティブ IDE モードを操作します。
たとえば Windows XP などのネーティブモードをサポートするオペレーティングシステムをインストールする場合、ネーティブ IDE モードを有効にします。

☞ **USB Controller**

統合された USB コントローラの有効/無効を切り換えます。(既定値: Enabled)
Disabled は、以下の USB 機能をすべてオフにします。

☞ **USB 2.0 Controller**

統合された USB 2.0 コントローラの有効/無効を切り換えます。(既定値: Enabled)

☞ **USB Keyboard Support**

MS-DOS で USB キーボードを使用できるようにします。(既定値: Enabled)

☞ **USB Mouse Support**

MS-DOS で USB マウスを使用できるようにします。(既定値: Disabled)

☞ **Legacy USB storage detect**

POST の間 USB フラッシュドライブや USB ハードドライブを含め、USB ストレージデバイスを検出するかどうかを決定します。(既定値: Enabled)

☞ **Azalia Codec**

オンボードオーディオ機能の有効/無効を切り換えます。(既定値: Auto)
オンボードオーディオを使用する代わりにサードパーティ製のアドインオーディオカードを取り付ける場合、このアイテムを **Disabled** に設定します。

☞ **Onboard H/W 1394**

オンボード IEEE 1394 機能の有効/無効を切り換えます。(既定値: Enabled)

☞ **Onboard H/W LAN1/LAN2**

オンボード LAN 機能の有効/無効を切り換えます。(既定値: Enabled)
オンボード LAN を使用する代わりにサードパーティ製のアドインネットワークカードを取り付ける場合、このアイテムを **Disabled** に設定します。

☞ **Green LAN**

オンボード LAN 機能と **Green LAN** が有効になっているとき、システムは LAN ケーブルが接続されているかどうかをダイナミックに検出します。接続されていない場合、対応する LAN コントローラが自動的に無効になります。(既定値: Disabled)

☞ SMART LAN1/LAN2 (LAN Cable Diagnostic Function)

```
                CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2008 Award Software
                                     SMART LAN
   Start detecting at Port.....                                          Item Help
   Part1-2 Status  =   Open      /  Length   =     0m               Menu Level▶▶
   Part3-6 Status  =   Open      /  Length   =     0m
   Part4-5 Status  =   Open      /  Length   =     0m
   Part7-8 Status  =   Open      /  Length   =     0m

 ↑↓→←: Move     Enter: Select      +/-/PU/PD: Value      F10: Save      ESC: Exit      F1: General Help
         F5: Previous Values       F6: Fail-Safe Defaults               F7: Optimized Defaults
```

このマザーボードは、付属の LAN ケーブルのステータスを検出するために設計されたケーブル診断機能を組み込んでいます。この機能は、配線問題を検出し、障害またはショートまでのおおよその距離を報告します。LAN ケーブルの診断については、以下の情報を参照してください:

☞ **LAN** ケーブルが接続しているとき..

LAN ケーブルがマザーボードに接続されていない場合、ワイヤの 4 つのペアの **Status** フィールドがすべて表示されます。**Open** および **Length** フィールドは、上の図で示すように **0m** を示しています。

☞ **LAN** ケーブルが正常に機能しないとき...

Gigabit ハブまたは 10/100 Mbps ハブに接続された LAN ケーブルでケーブル問題が検出されない場合、以下のメッセージが表示されます:

```
Start detecting at Port.....
Link Detected --> 100Mbps
Cable Length=    30m
```

▸▸ Link Detected　　伝送速度を表示します

▸▸ Cable Length　　接続された LAN ケーブルのおおよその長さを表示します。

注:Gigabit ハブは MS-DOS モードでは 10/100 Mbps の速度でのみ作動します。Windows では、または LAN Boot ROM がアクティブになっているときは 10/100/1000 Mbps の標準速度で作動します。

☞ ケーブル問題が発生したとき...

ワイヤの特定のペアでケーブル問題が発生した場合、**Status** フィールドには **Short** と表示され、表示された長さが障害またはショートまでのおおよその距離になります。

例: `Part1-2 Status = Short / Length  =  2m`

説明:障害またはショートは、Part 1-2 の約 2m で発生しました。

注:Part 4-5 と Part 7-8 は 10/100 Mbps 環境では使用されないため、その **Status** フィールドは **Open** と表示され、表示された長さが接続された LAN ケーブルのおおよその長さとなります。

☞ **Onboard LAN1/LAN2 Boot ROM**

オンボード LAN チップに統合された起動 ROM をアクティブにするかどうかを決定します。(既定値: Disabled)

☞ **Onboard SATA/IDE Device (GIGABYTE SATA2 Chip)**

ギガバイトSATA 2チップに統合したIDEとSATコントローラを有効または無効にします。
(デフォルト: 有効)

☞ **Onboard SATA/IDE Ctrl Mode (GIGABYTE SATA2 Chip)**

ギガバイトSATA 2チップに統合したSATAコントローラ用RAIDを有効または無効にするか、あるいはSATAコントローラをAHCI モードに設定します。

▶▶ IDE　SATAコントローラ用RAIDを有効または無効にし SATAコントローラをPATAモードに設定します。(デフォルト)

▶▶ AHCI　SATAコントローラをAHCI モードに設定します。 アドバンストホストコントローラインターフェース(AHCI)は、ストレージドライバがネイティブコマンドキューイングおよびホットプラグ等のアドバンストシリアル ATA機能を有効にできるインターフェース仕様です。

▶▶ RAID/IDE　SATAコントローラ用RAIDを有効にします。(IDEコントローラはまだ、PATAモードで実行されます。)

☞ **Onboard Serial Port 1**

最初のシリアルポートの有効/無効を切り換え、そのベース I/O アドレスと対応する割り込みを指定します。操作は、Auto、3F8/IRQ4 (既定値)、2F8/IRQ3、3E8/IRQ4、2E8/IRQ3、Disabledです。

☞ **Onboard Parallel Port**

オンボードパラレルポート (LPT) の有効/無効を切り換え、そのベース I/O アドレスと対応する割り込みを指定します。オプションは、378/IRQ7 (既定値)、278/IRQ5、3BC/IRQ7、Disabledです。

☞ **Parallel Port Mode**

オンボードパラレル (LPT) ポートのオペレーティングモードを選択します。オプションは、SPP (標準パラレルポート)(既定値)、EPP (拡張パラレルポート)、ECP (拡張機能ポート)、ECP+EPPです。

2-7 Power Management Setup

```
CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2008 Award Software
Power Management Setup

   ACPI Suspend Type               [S3(STR)]         Item Help
   Soft-Off by PWR-BTTN            [Instant-Off]     Menu Level ▶
   PME Event Wake Up               [Enabled]
   Power On by Ring                [Enabled]
   Resume by Alarm                 [Disabled]
x  Date (of Month) Alarm           Everyday
x  Time (hh:mm:ss) Alarm           0 : 0 : 0
   HPET Support (注)               [Enabled]
   HPET Mode (注)                  [32-bit mode]
   Power On By Mouse               [Disabled]
   Power On By Keyboard            [Disabled]
x  KB Power ON Password            Enter
   AC Back Function                [Soft-Off]

↑↓→←: Move   Enter: Select   +/-/PU/PD: Value   F10: Save   ESC: Exit   F1: General Help
       F5: Previous Values   F6: Fail-Safe Defaults          F7: Optimized Defaults
```

☞ ACPI Suspend Type

システムがサスペンドに入るとき、ACPI スリープ状態を指定します。

- ▸▸ S1(POS)　システムは、ACPI S1 (パワーオンサスペンド) スリープ状態に入ります。S1 スリープ状態で、システムはサスペンド状態に入っていると表示され、低出力モードに留まります。システムは、いつでも復元できます。
- ▸▸ S3(STR)　システムは、ACPI S3 (RAM にサスペンド) スリープ状態に入ります (既定値)。S3 スリープ状態で、システムはオフとして表示され、S1 状態の場合より電力を消費しません。呼び起こしデバイスまたはイベントにより信号を送られると、システムは停止したときの状態に戻ります。

☞ Soft-Off by PWR-BTTN

パワーボタンを使用して、MS-DOS モードでコンピュータをオフにする方法を設定します。

- ▸▸ Instant-Off　パワーボタンを押すと、システムは直ちにオフになります。(既定値)
- ▸▸ Delay 4 Sec.　パワーボタンを 4 秒間押し続けると、システムはオフになります。パワーボタンを押して 4 秒以内に放すと、システムはサスペンドモードに入ります。

☞ PME Event Wake Up

PCI または PCIe デバイスからの呼び起こし信号により、ACPI スリープ状態からシステムを呼び起こします。注：この機能を使用するには、+5VSB リード線に少なくとも 1A を提供する ATX 電源装置が必要です。(既定値： Enabled)

☞ Power On by Ring

呼び起こし機能をサポートするモデムからの呼び起こし信号により、ACPI スリープ状態からシステムを呼び起こします。(既定値： Enabled)

(注) Windows® Vista® オペレーティングシステムでのみサポートさます。

☞ **Resume by Alarm**

希望するときにシステムのパワーをオンにするかどうかを決定します。(既定値: Disabled)

有効になっている場合、日付と時刻を以下のように設定してください:

▸▸ Date (of Month) Alarm : 毎日または指定された日のそれぞれの時刻に、システムのパワーをオンにします。

▸▸ Time (hh: mm: ss) Alarm : システムのパワーを自動的にオンにする時刻を設定します。

注:この機能を使用しているとき、不適切にオペレーティングシステムから遮断したりAC 電源からコードを抜かないでください。そうでないと、設定は有効になりません。

☞ **HPET Support** (注)

Windows® Vista® オペレーティングシステムに対して HPET (高精度イベントタイマー) の有効/無効を切り換えます。(既定値: Enabled)

☞ **HPET Mode** (注)

Windows® Vista® オペレーティングシステムに対して、HPET モードを選択します。32 ビット Windows® Vista® をインストールしているときは **32-bit mode** を選択し、64 ビット Windows® Vista® をインストールしているときは **64-bit mode** を選択します。(既定値: 32-bit mode)

☞ **Power On By Mouse**

PS/2 マウス呼び起こしイベントにより、システムをオンにします。

注:この機能を使用するには、+5VSB リード線に少なくとも 1A を提供する ATX 電源装置が必要です。

▸▸ Disabled	この機能を無効にします。(既定値)
▸▸ Double Click	PS/2マウスの左ボタンをダブルクリックすると、システムのパワーがオンになります。

☞ **Power On By Keyboard**

PS/2 キーボード呼び起こしイベントにより、システムをオンにします。

注:+5VSB リード線に少なくとも 1A を提供する ATX 電源装置が必要です。

▸▸ Disabled	この機能を無効にします。(既定値)
▸▸ Password	1~5 文字でシステムをオンスするためのパスワードを設定します。
▸▸ Keyboard 98	Windows 98 キーボードの POWER ボタンを押すと、システムがオンになります。

☞ **KB Power ON Password**

Power On by Keyboard が **Password** に設定されているとき、パスワードを設定します。このアイテムで <Enter> を押して 5 文字以内でパスワードを設定し、<Enter> を押して受け入れます。システムをオンにするには、パスワードを入力し <Enter> を押します。

注:パスワードをキャンセルするには、このアイテムで <Enter> を押します。パスワードを求められたとき、パスワードを入力せずに <Enter> を再び押すとパスワード設定が消去されます。

☞ **AC Back Function**

AC 電力が失われたときから電力を回復した後のシステムの状態を決定します。

▸▸ Soft-Off	AC電力を回復した時点でも、システムはオフになっています。(既定値)
▸▸ Full-On	AC電力を回復した時点で、システムはオンになります。
▸▸ Memory	AC 電力が回復した時点で、システムは電力を失う直前の状態に戻ります。

(注) Windows® Vista® オペレーティングシステムでのみサポートさます。

2-8 PnP/PCI Configurations

```
CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2008 Award Software
PnP/PCI Configurations

PCI1 IRQ Assignment              [Auto]        Item Help
PCI2 IRQ Assignment              [Auto]        Menu Level▶

↑↓→←: Move   Enter: Select   +/-/PU/PD: Value   F10: Save   ESC: Exit   F1: General Help
             F5: Previous Values   F6: Fail-Safe Defaults   F7: Optimized Defaults
```

☞ PCI1 IRQ Assignment

▸▸ Auto	BIOS は IRQ を最初の PCI スロットに自動的に割り当てます。(既定値)
▸▸ 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15	IRQ 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15 を最初の PCI スロットに割り当てます。

☞ PCI2 IRQ Assignment

▸▸ Auto	BIOS は IRQ を 2 番目の PCI スロットに自動的に割り当てます。(既定値)
▸▸ 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15	IRQ 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15 を 2 番目の PCI スロットに割り当てます。

2-9 PC Health Status

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2008 Award Software
PC Health Status

		Item Help
Reset Case Open Status	[Disabled]	Menu Level▶
Case Opened	No	
Vcore	1.316V	
DDR18V	1.808V	
+3.3V	3.264V	
+12V	12.105V	
Current System Temperature	43°C	
Current CPU Temperature	28°C	
Current CPU FAN Speed	2518 RPM	
Current SYSTEM FAN2 Speed	0 RPM	
Current POWER FAN Speed	0 RPM	
Current SYSTEM FAN1 Speed	0 RPM	
CPU Warning Temperature	[Disabled]	
CPU FAN Fail Warning	[Disabled]	
SYSTEM FAN2 Fail Warning	[Disabled]	
POWER FAN Fail Warning	[Disabled]	
SYSTEM FAN1 Fail Warning	[Disabled]	
CPU Smart FAN Control	[Auto]	
CPU Smart FAN Mode	[Auto]	

↑↓→←: Move Enter: Select +/-/PU/PD: Value F10: Save ESC: Exit F1: General Help
F5: Previous Values F6: Fail-Safe Defaults F7: Optimized Defaults

☞ **Reset Case Open Status**

前のシャーシ侵入ステータスの記録を保存または消去します。**Enabled** では前のシャーシ侵入ステータスのレコードを消去し、**Case Opened** フィールドが次に起動するとき "No" を表示します。
(既定値：Disabled)

☞ **Case Opened**

マザーボード CI ヘッダに接続されたシャーシ侵入検出デバイスの検出ステータスを表示します。システムシャーシカバーを取り外すと、このフィールドは "Yes" を表示し、カバーを取り外さない場合、"No" を表示します。シャーシ侵入ステータスのレコードを消去するには、**Reset Case Open Status** を **Enabled** に設定し、設定を CMOS に保存し、システムを再起動します。

☞ **Current Voltage(V) Vcore/DDR18V/+3.3V/+12V**

現在のシステム電圧を表示します。

☞ **Current System/CPU Temperature**

現在の システム/CPU温度を表示します。

☞ **Current CPU/SYSTEM/POWER FAN Speed (RPM)**

現在の CPU/システム/パワーファン速度を表示します。

☞ **CPU Warning Temperature**

CPU 温度の警告しきい値を設定します。CPU 温度がしきい値を超えると、BIOS は警告音を出します。オプションは、Disabled (既定値)、60°C/140°F, 70°C/158°F, 80°C/176°F, 90°C/194°F です。

☞ **CPU/SYSTEM/POWER FAN Fail Warning**

CPU/システム/パワーファンが接続されていない場合またはエラーの場合、システムは警告音を出します。これが発生したときは、ファンの状態またはファン接続をチェックしてください。(既定値：Disabled)

☞ **CPU Smart FAN Control**

CPU ファン速度のコントロールの有効/無効を切り替えます。にすると、この機能を有効にするかどうかはBIOSが決定します。有効(Enabled)にすると、CPU ファンは CPU 温度によって異なる速度で作動できます。システム要件に基づき、EasyTune でファン速度を調整できます。無効にすると、CPU ファンは全速で作動します。(既定値: Auto)

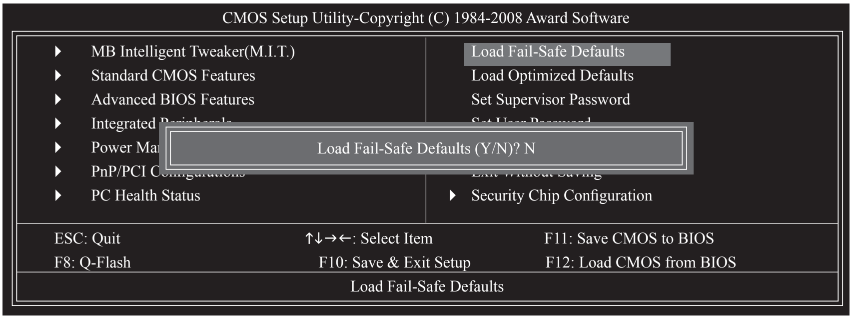
☞ **CPU Smart FAN Mode**

CPUファン速度の制御方法を指定します。このアイテムは、CPU スマートファン制御が**無効**または**自動**になっている場合にのみ設定可能です。

- ▸▸ Auto　BIOS がインストールしたCPUファンタイプを自動検出し、最適 **CPU** ファン制御モードを設定します。(デフォルト)
- ▸▸ Voltage　ピン CPU ファン用の電圧モードを設定します。
- ▸▸ PWM　4 ピン CPU ファン用の PWM モードを設定します。

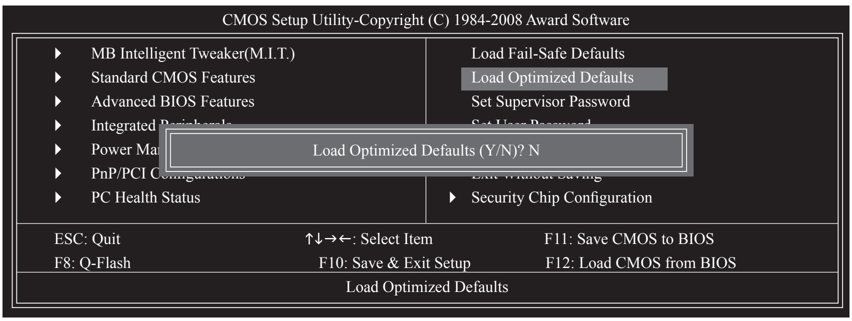
注: **電圧**モードは、3 ピン CPU ファンまたは 4 ピン CPU ファン用に設定可能です。ただ、Intel PWM ファン仕様にしたがった設計になっていない 4 ピン CPU ファンについては、PWM モードを選択しても、ファン速度が効果的に減速しないことがあります。

2-10 Load Fail-Safe Defaults



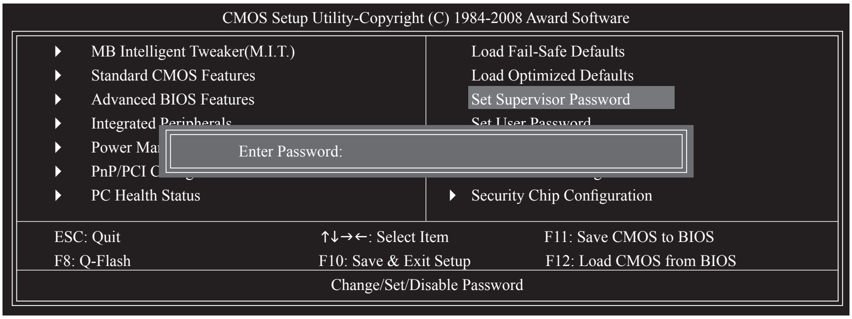
このアイテムで <Enter> を押し <Y> キーを押すと、もっとも安全な BIOS 既定値設定がロードされます。システムが不安定になった場合、マザーボードのもっとも安全でもっとも安定した BIOS 設定である、フェールセーフ既定値をロードしてください。

2-11 Load Optimized Defaults



このアイテムで <Enter> を押し <Y> キーを押すと、最適な BIOS 既定値設定がロードされます。BIOS 既定値設定により、システムは最適の状態で作動します。BIOS を更新した後、または CMOS 値を消去した後、最適化既定値を常にロードします。

2-12 Set Supervisor/User Password



このアイテムで <Enter> を押して 8 文字以内でパスワードを入力し、<Enter> を押します。パスワードを確認するように求められます。パスワードを再入力し、<Enter>を押します。

BIOSセットアッププログラムでは、次の 2 種類のパスワード設定ができます：

☞ **Supervisor Password**

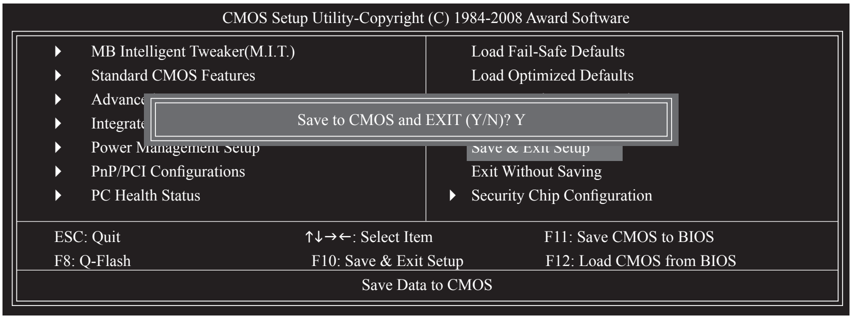
システムパスワードが設定され、**Advanced BIOS Features** で **Password Check** アイテムが設定されているとき、BIOS セットアップに入り、BIOSを変更するには、管理者パスワードを入力する必要があります。
Password Check アイテムが **System** に設定されているとき、システム起動時および BIOS セットアップを入力するとき、管理者パスワード (または、ユーザーパスワード) を入力する必要があります。

☞ **User Password**

Password Check アイテムが **System** に設定されているとき、システム起動時に管理者パスワード (または、ユーザーパスワード) を入力してシステムの起動を続行する必要があります。BIOS セットアップで、BIOS 設定を変更したい場合、管理者パスワードを入力する必要があります。ユーザーパスワードは、BIOS 設定を表示するだけで変更は行いません。

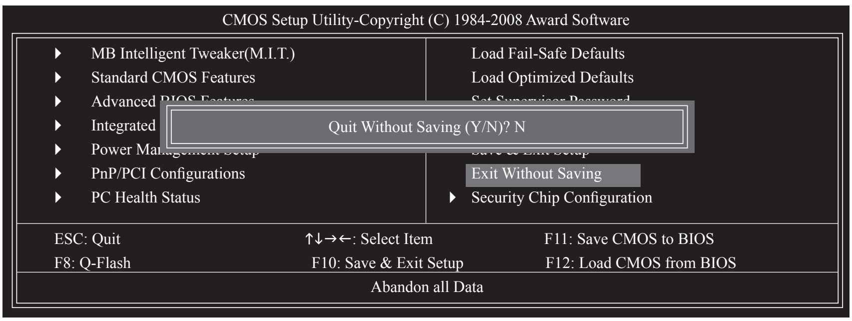
パスワードを消去するには、パスワードアイテムで <Enter> を押しパスワードを要求されたとき、<Enter> を再び押します。「PASSWORD DISABLED」というメッセージが表示され、パスワードがキャンセルされたことを示します。

2-13 Save & Exit Setup



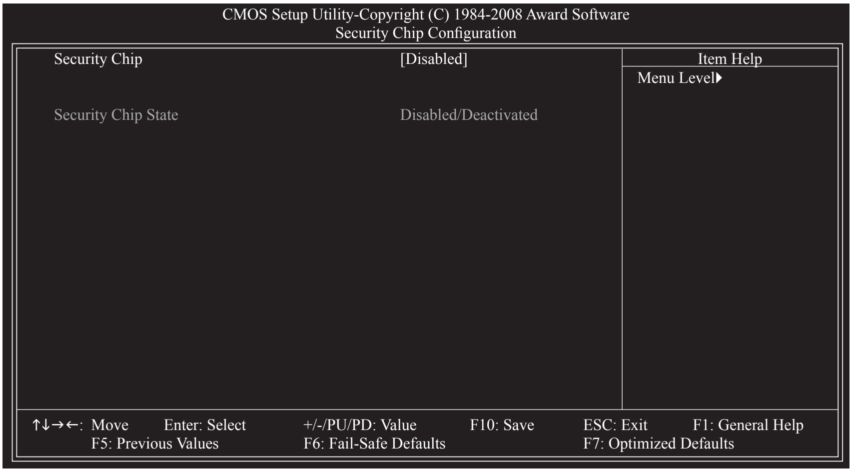
このアイテムで <Enter> を押し、<Y> キーを押します。これにより、CMOS が変更され、BIOS セットアッププログラムを終了します。<N> または <Esc> を押して、BIOS セットアップメインメニューに戻ります。

2-14 Exit Without Saving



このアイテムで <Enter> を押し、<Y> キーを押します。これにより、CMOS に対して行われた BIOS セットアップへの変更を保存せずに、BIOS セットアップを終了します。<N> または <Esc> を押して、BIOS セットアップメインメニューに戻ります。

2-15 Security Chip Configuration (注)



☞ **Security Chip**

セキュリティチップの有効/無効を切り替えます。この機能は管理者/ユーザーパスワードで使用することをお勧めします。

- ▶▶ Enabled　セキュリティチップを有効にします。
- ▶▶ Enabled/Activate　セキュリティチップを有効にし、セキュリティプラットフォームを初期化します。
- ▶▶ Disabled　セキュリティチップを無効にします。(既定値)

☞ **Security Chip State**

セキュリティチップに現在の設定を表示します。

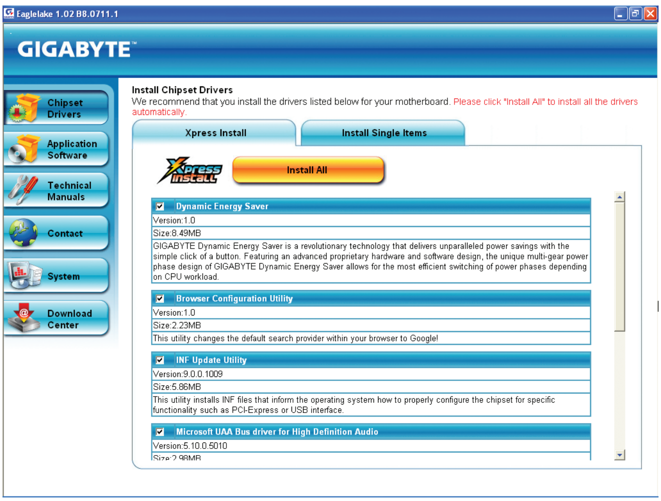
(注) この機能は、地域によりポリシーが異なるためオプションです。

第 3 章　　ドライバのインストール

- ドライバをインストールする前に、まずオペレーティングシステムをインストールします。(以下の指示は、サンプルとして Windows XP オペレーティングシステムを使用します)。
- オペレーティングシステムをインストールした後、マザーボードドライバを光学ドライブに挿入します。ドライバの自動実行スクリーンは、以下のスクリーンショットで示されたように、自動的に表示されます。(ドライバの自動実行スクリーンが自動的に表示されない場合、マイコンピュータに移動し、オプティカルドライブをダブルクリックし、**Run**.exe プログラムを実行します)。

3-1　Installing Chipset Drivers (チップセットドライバのインストール)

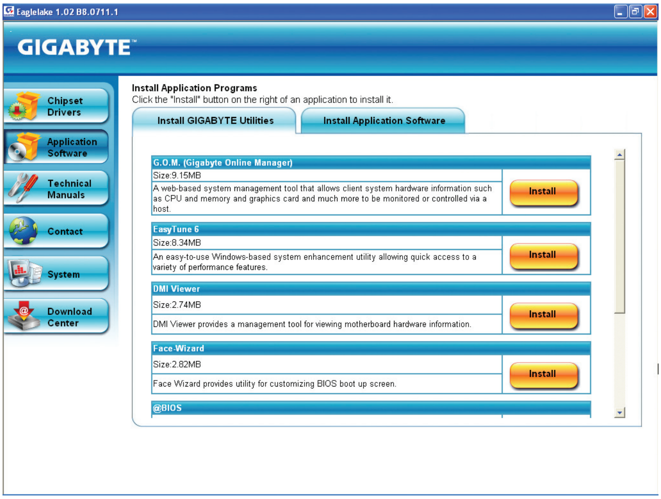
ドライバディスクを挿入すると、「Xpress Install」がシステムを自動的にインストールし、インストールに推奨されるすべてのドライバをリストアップします。**Install All (すべてインストール)** ボタンをクリックすると、「Xpress Install」が推奨されたすべてのドライブをインストールします。または、**Single Items (単一アイテム)** をインストールしてインストールするドライバを手動で選択します。



- 「Xpress Install」がドライバをインストールしているときに表示されるポップアップダイアログボックス(たとえば、**新しいハードウェアが見つかりましたウィザードなど**)を無視してください。そうでないと、ドライバのインストールに影響をおよぼす可能性があります。
- デバイスドライバには、ドライバのインストールの間にシステムを自動的に再起動するものもあります。その場合は、システムを再起動した後、Xpress Install がその他のドライバを引き続きインストールします。
- ドライバがインストールされたら、オンスクリーンの指示に従ってシステムを再起動してください。マザーボードのドライバディスクに含まれる他のアプリケーションをインストールすることができます。
- Windows XP オペレーティングシステム下で USB 2.0 ドライバをサポートする場合、Windows XP Service Pack 1 以降をインストールしてください。SP1 以降をインストールした後、**デバイスマネージャのユニバーサルシリアルバスコントローラ**にクエスチョンマークがまだ付いている場合、(マウスを右クリック**しアンインストール**を選択して)クエスチョンマークを消してからシステムを再起動してください。(システムは USB 2.0 ドライバを自動検出してインストールします)。

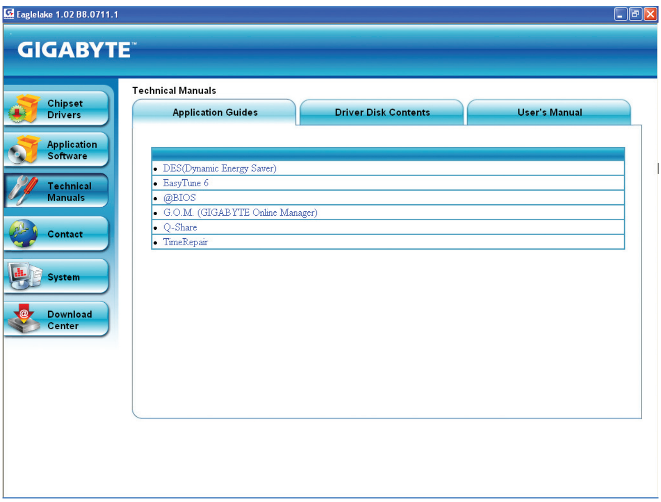
3-2 Application Software (アプリケーションソフトウェア)

このページでは、Gigabyteが開発したすべてのツールとアプリケーション、および一部の無償ソフトウェアが表示されます。アイテムに続く **Install (インストール)** ボタンを押して、そのアイテムをインストールすることができます。.



3-3 Technical Manuals(技術マニュアル)

このページではGIGABYTEのアプリケーションガイド、このドライバディスクのコンテンツの説明、およびマザーボードマニュアルを紹介します。

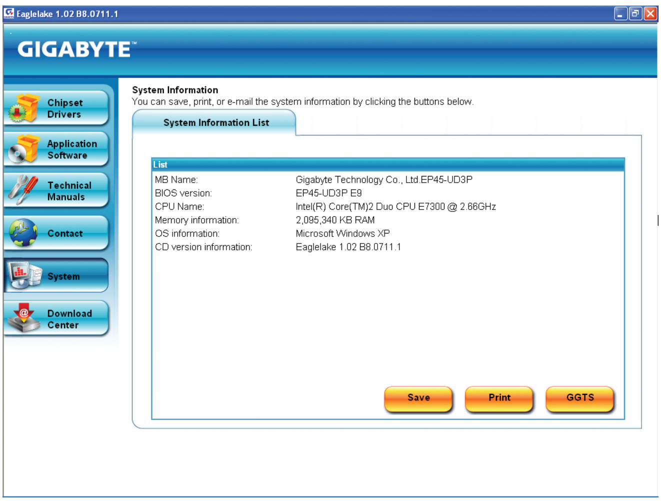


3-4 Contact (連絡先)

このページのURLをクリックするとGIGABYTEのWebサイトにリンクされます。または、このマニュアルの最後のページを読んで、GIGABYTE台湾本社または全世界の支社の連絡先情報を確認してください。

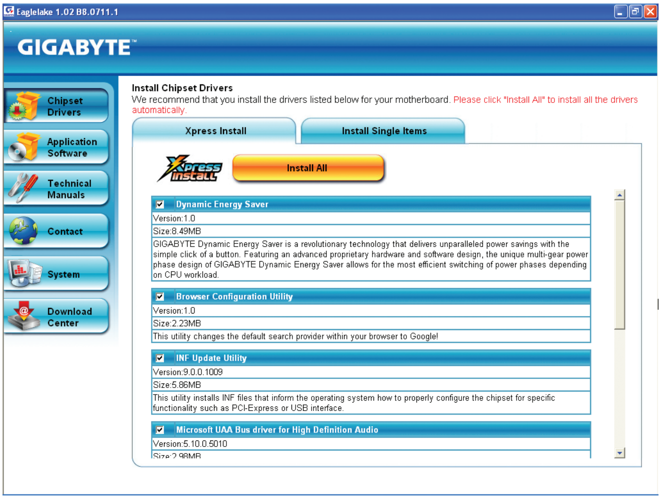
3-5 System (システム)

このページでは、基本システム情報を紹介します。



3-6 Download Center (ダウンロードセンター)

BIOS、ドライバ、またはアプリケーションを更新するには、**Download Center(ダウンロードセンター)**ボタンをクリックしてGIGABYTEのWebサイトにリンクします。BIOS、ドライバ、またはアプリケーションの最新バージョンが表示されます。



第 4 章　　固有の機能

4-1　Xpress Recovery2

Xpress Recovery2 はシステムデータを素早く圧縮してバックアップしたり、復元を実行したりするユーティリティです。NTFS、FAT32、および FAT16 ファイルシステムをサポートしているため、Xpress Recovery2 では PATA および SATA ハードドライブ上のデータをバックアップして、それを復元することができます。

始める前に：

- Xpress Recovery2 は、オペレーティングシステムの最初の物理ハードドライブ*をチェックします。Xpress Recovery2 はオペレーティングシステムをインストールした最初の物理ハードドライブのみをバックアップ/復元することができます。
- Xpress Recovery2 はハードドライブの最後のバックアップファイルを保存し、あらかじめ割り当てられた容量が十分に残っていることを確認します (10 GB 以上を推奨します。実際のサイズ要件は、データ量によって異なります)。
- オペレーティングシステムとドライバをインストールした後、直ちにシステムをバックアップするようにお勧めします。
- データ量とハードドライブのアクセス速度は、データをバックアップ/復元する速度に影響を与えます。
- ハードドライブの復元よりバックアップする方が、長く時間がかかります。

System Requirements:

- Intel® プラットフォーム
- 64 MB 以上のシステムメモリ
- VESA 互換のグラフィックスカード
- Windows® XP with SP1 以降

NOTE

- Xpress Recovery および Xpress Recovery2 は異なるユーティリティです。たとえば、Xpress Recovery で作成されたバックアップファイルは Xpress Recovery2 を使用して復元することはできません。
- USB ハードドライブはサポートされません。
- RAID/AHCI モードのハードドライブはサポートされません。

"*" Xpress Recovery2 は、次の順序で最初の物理ハードドライブをチェックします：最初の PATA IDE コネクタ、2 番目の PATA IDE コネクタ、最初の SATA コネクタ、2 番目の SATA コネクタなど。たとえば、ハードドライブが最初の IDE および最初の SATA コネクタに接続されているとき、最初の IDE コネクタのハードドライブが最初の物理ドライブになります。ハードドライブが 2 番目の IDE および最初の SATA コネクタに接続されているとき、最初の SATA コネクタのハードドライブが最初の物理ドライブになります。

インストールと設定

(以下の手順は、サンプルとして Windows XP オペレーティングシステムを使用します)。

A. Windows XP のインストールとハードドライブの分割

1. BIOS セットアッププログラムで、「拡張 BIOS 機能」の下で最初の起動デバイスとして CD-ROM ドライブを設定します。変更を保存して終了します。
2. ハードドライブを分割しているとき (図 1)、Xpress Recovery2 用に割り当てられていないスペースを残しておいてください (10 GB 以上を推奨します。実際のサイズ要件は、データ量によって異なります) (図 2)。

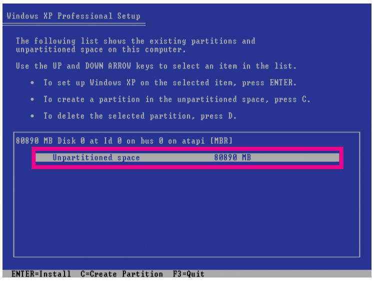


図 1

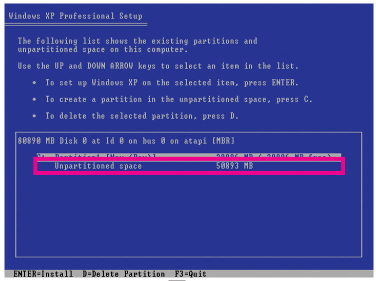


図 2

3. ファイルシステムを選択し (たとえば、NTFS) オペレーティングシステムのインストールを開始します (図 3)。

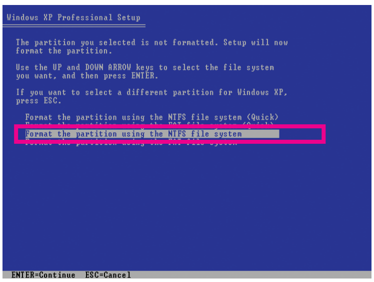


図 3

4. オペレーティングシステムのインストール後、デスクトップの**マイコンピュータ**アイコンを右クリックし、**管理**を選択します (図 4)。**コンピュータ管理**に移動して、ディスクの割り当てをチェックします。Xpress Recovery2 はバックアップファイルを割り当てられていないスペースに保存します (上の黒いストライプ) (図 5)。割り当てられていないスペースが不十分だと、Xpress Recovery2 はバックアップファイルを保存できません。

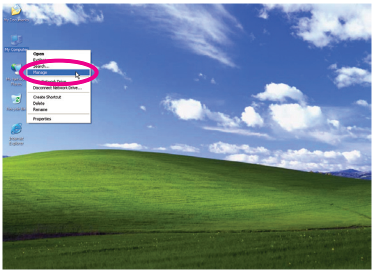


図 4

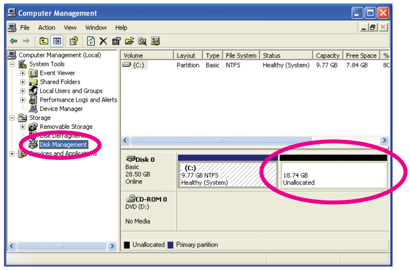


図 5

5. オペレーティングシステムをインストールする前にハードドライブを適切に分割していなかった場合、ハードドライブの空きスペースを使用して新しいパーティションを作成することができます (図6、7)。ただし、**ディスク管理**に示されたハードドライブのシステムパーティションに未割り当てのスペースがない場合、新しいパーティションを作成したり Xpress Recovery2 を使用することはできません。この場合、オペレーティングシステムを再インストールし、ハードドライブを再分割してください。

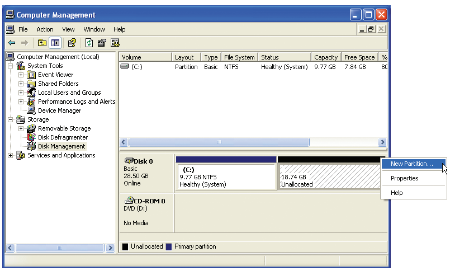


図 6

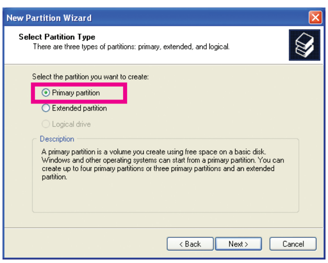


図 7

新規パーティションウィザードで、**1 次パーティション (Primary partition)**を選択する必要があります。これにより、Xpress Recovery2 を使用するための未割り当てスペースが確保されます。

B. Xpress Recovery2 へのアクセス

1. マザーボードドライバディスクから起動して、初めて Xpress Recovery2 にアクセスします。`Press any key to startup Xpress Recovery2` (図 8)というメッセージが表示されたら、どれかのキーを押して Xpress Recovery2 に入ります。

図 8

2. 初めて Xpress Recovery2 でバックアップ機能を使用した後、Xpress Recovery2 はハードドライブに永久的に保存されます。後で Xpress Recovery2 に入るには、POST 中に <F9> を押してください。

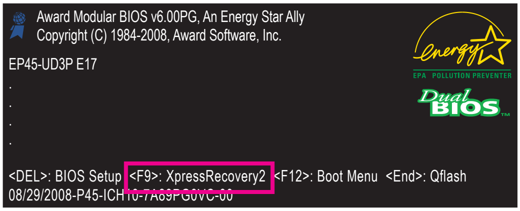


図 9

C. Xpress Recovery2 でのバックアップ機能の使用

1. BACKUP を選択して、ハードドライブデータのバックアップを開始します (図 10)。
2. Xpress Recovery2 はターゲットドライブとして最初の物理ハードドライブの検索を開始し、ハードドライブに Windows オペレーティングシステムが含まれているかどうか検出します。Windows オペレーティングシステムを検出すると、Xpress Recovery2 はバックアッププロセスを開始します (図 11)。

図 10

図 11

3. 終了したら、**ディスク管理** に移動してディスク割り当てをチェックします。

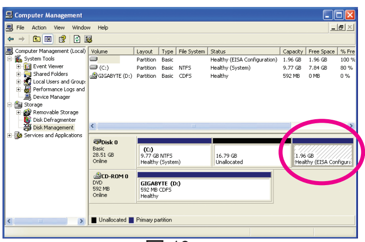


図 12

Xpress Recovery2 は新しいパーティションを自動的に作成して、バックアップされた画像ファイルを保管します。

D. Xpress Recovery2 での復元機能の使用

システムが故障した場合、**RESTORE**を選択してハードドライブへのバックアップを復元します。それまでバックアップが作成されていない場合、**RESTORE** オプションは表示されません (図 13、14)。

図 13

図 14

E. バックアップの削除

1. バックアップファイルを削除する場合、**REMOVE** を選択します (図 15)。
2. バックアップファイルを削除すると、バックアップされた画像ファイルは**ディスク管理**からなくなり、ハードドライブのスペースが開放されます (図 16)。

図 15

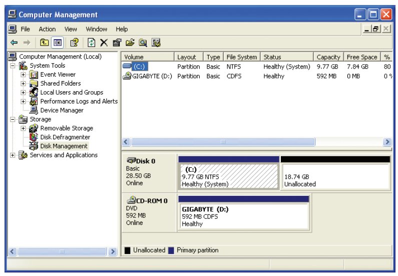


図 16

F. Xpress Recovery2 を終了する

REBOOT を選択して Xpress Recovery2 を終了します。

図 17

4-2 BIOS 更新ユーティリティ

GIGABYTE マザーボードには、Q-Flash™ と @BIOS™の 2 つの固有 BIOS 更新が含まれています。GIGA-BYTE Q-Flash と @BIOS は使いやすく、MSDOS モードに入らずに BIOS を更新することができます。さらに、このマザーボードは DualBIOS™ 設計を採用して、物理 BIOS チップをさらに 1 つ追加することによって保護を強化しコンピュータの安全と安定性を高めています。

DualBIOS™ とは ?

デュアル BIOS をサポートするマザーボードには、メイン BIOS とバックアップ BIOS の 2 つの BIOS が搭載されています。通常、システムはメイン BIOS で作動します。ただし、メイン BIOS が破損または損傷すると、バックアップ BIOS が次のシステム起動を引き継ぎ、BIOS ファイルをメイン BIOS にコピーし、通常にシステム操作を確保します。システムの安全のために、ユーザーはバックアップ BIOS を手動で更新できないようになっています。

Q-Flash™ とは ?

Q-Flash があれば、Q-Flash や Window のようなオペレーティングシステムに入らずにシステム BIOS を更新することができます。BIOS に組み込まれた Q-Flash ツールにより、複雑な BIOS フラッシングプロセスを踏むといったわずらわしさから開放されます。

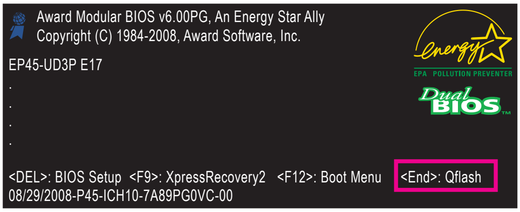
@BIOS™ とは ?

@BIOS により、Windows 環境に入っている間にシステム BIOS を更新することができます。@BIOS は一番近い @BIOS サーバーサイトから最新の @BIOS ファイルをダウンロードし、BIOS を更新します。

4-2-1 Q-Flash ユーティリティで BIOS を更新する

A. 始める前に:

1. GIGABYTE の Web サイトから、マザーボードモデルに一致する最新の圧縮された BIOS 更新ファイルをダウンロードします。
2. ファイルを抽出し、新しい BIOS ファイル (たとえば、ep45ud3p.f1) をフロッピーディスク、USB フラッシュドライブ、またはハードドライブに保存します。注 : USB フラッシュドライブまたはハードドライブは、FAT32/16/12 ファイルシステムを使用する必要があります。
3. システムを再起動します。POST の間、<End> キーを押して Q-Flash に入ります。注 : POST 中に <End> キーを押すことによって、または BIOS セットアップで <F8> キーを押すことによって、Q-Flash にアクセスすることができます。ただし、BIOS 更新ファイルが RAID/AHCI モードのハードドライブ、または独立した IDE/SATA コントローラに接続されたハードドライブに保存されている場合、POST 中に <End> キーを使用して Q-Flash にアクセスします。



CAUTION

BIOS フラッシングは危険性を含んでいるため、注意して行ってください。BIOS の不適切なフラッシュは、システムの誤動作の原因となります。

B. BIOS を更新する

BIOS を更新しているとき、BIOS ファイルを保存する場所を選択します。次の手順では、BIOS ファイルをフロッピーディスクに保存していると仮定しています。

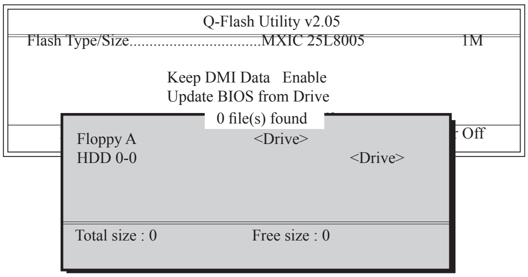
ステップ1：

1. BIOS ファイルを含むフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。Q-Flash のメインメニューで、上矢印キーまたは下矢印キーを使用して **Update BIOS from Drive** を選択し、<Enter> を押します。

NOTE

- **Save Main BIOS to Drive** オプションにより、現在の BIOS ファイルを保存することができます。
- Q-Flash は FAT32/16/12 ファイルシステムを使用して、USB フラッシュドライブまたはハードドライブのみをサポートします。
- BIOS 更新ファイルが RAID/AHCI モードのハードドライブ、または独立した IDE/SATA コントローラに接続されたハードドライブに保存されている場合、POST 中に <End> キーを使用して Q-Flash にアクセスします。

2. **Floppy A** を選択し <Enter> を押します。



3. BIOS 更新ファイルを選択し、<Enter> を押します。

CAUTION

BIOS 更新ファイルが、お使いのマザーボードモデルに一致していることを確認します。

ステップ2：

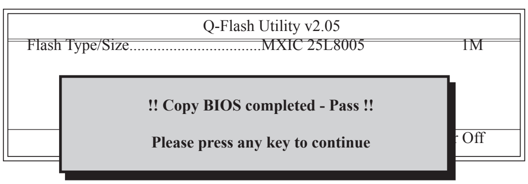
フロッピーディスクから BIOS ファイルを読み込むシステムのプロセスは、スクリーンに表示されます。”Are you sure to update BIOS?” というメッセージが表示されたら、<Enter> を押して BIOS 更新を開始します。モニタには、更新プロセスが表示されます。

CAUTION

- システムが BIOS を読み込み/更新を行っているとき、システムをオフにしたり再起動したりしないでください。
- システムが BIOS を更新しているとき、フロッピーディスク、USB フラッシュドライブ、またはハードドライブを取り外さないでください。

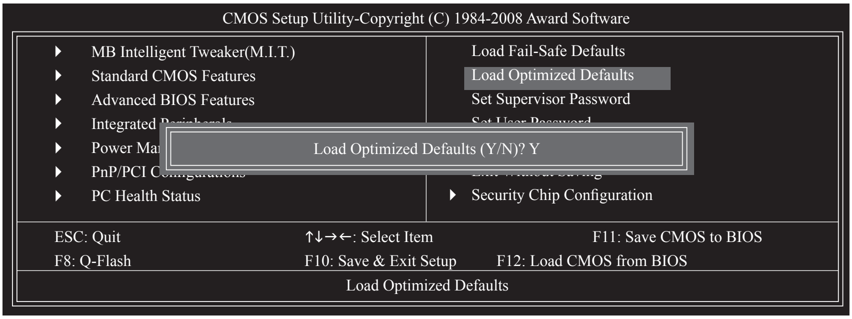
ステップ 3

更新プロセスが完了したら、どれかのキーを押してメインメニューに戻ります。



ステップ4：
<Esc> を次に <Enter> を押して Q-Flash を終了し、システムを再起動します。システムが起動したら、新しい BIOS バージョンが POST スクリーンに存在することを確認する必要があります。

ステップ5：
POST 中に、<Delete> キーを押して BIOS セットアップに入ります。**Load Optimized Defaults** を選択し、<Enter> を押して BIOS デフォルトをロードします。BIOS が更新されるとシステムはすべての周辺装置を再検出するため、BIOS デフォルトを再ロードするようにお勧めします。



<Y> を押して BIOS デフォルトをロードします。

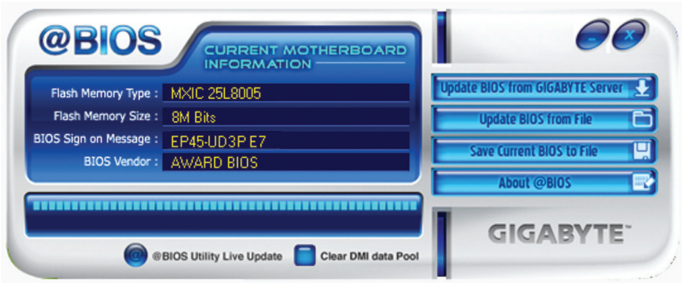
ステップ6：
Save & Exit Setup を選択したら <Y> を押して設定を CMOS に保存し、BIOS セットアップを終了します。システムが再起動すると、手順が完了します。

4-2-2 @BIOS ユーティリティで BIOS を更新する

A. 始める前に:

1. Windows で、すべてのアプリケーションと TSR (メモリ常駐型)プログラムを閉じます。これにより、BIOS 更新を実行しているとき、予期せぬエラーを防ぐことができます。
2. BIOS 更新プロセスの間、インターネット接続が安定しており、インターネット接続が中断されないことを確認してください (たとえば、停電やインターネットのスイッチオフを避ける)。そうしないと、BIOS が破損したり、システムが起動できないといった結果を招きます。
3. @BIOS を使用しているとき、G.O.M. (GIGABYTE オンライン管理) 機能を使用しないでください。
4. 不適切な BIOS フラッシングに起因する BIOS 損傷またはシステム障害は GIGABYTE 製品の保証の対象外です。

B. @BIOSを使用する**:**



1.  **インターネット更新機能を使用して BIOS を更新する:**

Update BIOS from GIGABYTE Server (**GIGABYTEサーバーからBIOSの更新**)をクリックし、一番近い@BIOSサーバーを選択し、お使いのマザーボードモデルに一致するBIOSファイルをダウンロードします。**オンスクリーンの指示に従って完了してください。**

NOTE マザーボードの BIOS 更新ファイルが @BIOS サーバーサイトに存在しない場合、GIGABYTE の Web サイトから BIOS 更新ファイルを手動でダウンロードし、以下の「インターネット更新機能を使用して BIOS を更新する」の指示に従ってください。

2.  **インターネット更新機能を使用せずに BIOS を更新する:**

Update BIOS from File(**ファイルからBIOSを更新**)をクリックし、インターネットからまたは他のソースを通して取得したBIOS更新ファイルの保存場所を選択します。**オンスクリーンの指示に従って、完了してください。**

3.  **現在のBIOSをファイルに保存:**

Save Current BIOS(**現在のBIOSの保存**)をクリックして、現在のBIOSファイルを保存します。

C. BIOSを更新した後:

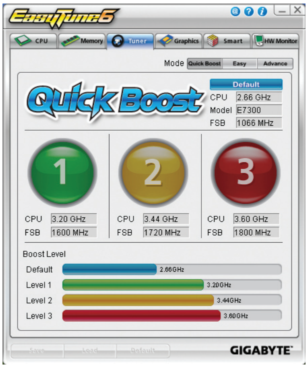
BIOSを更新した後、システムを再起動します。**システムが起動したら、**<Delete> を押して BIOS セットアッププログラムに入ります。**Load Optimized Defaults**(**ロード最適化既定値**)を選択し、<Enter> を押して BIOS デフォルトをロードします。

NOTE BIOS 更新が、お使いのマザーボードモデルにフラッシュされ、一致していることを確認します。間違ったBIOSファイルでBIOSを更新すると、システムは起動しません。

4-3 EasyTune 6

GIGABYTEのEasyTune 6は使いやすいインターフェイスで、ユーザーがWindows環境でシステム設定を微調整したりオーバークロック/過電圧を行ったりできます。**使いやすい**EasyTune 6インターフェイスにはCPUとメモリ情報のタブ付きページも含まれ、ユーザーは追加ソフトウェアをインストールする必要なしに、システム関連の情報を読むことができるようになっています。

EasyTune 6 のインターフェイス



タブ情報

タブ	機能
CPU	**CPU**(**CPU**)タブでは、取り付けたCPUとマザーボードに関する情報が得られます。
Memory	**Memory**(メモリ)タブでは、取り付けたメモリモジュールに関する情報が得られます。 特定スロットのメモリモジュールを選択してその情報を見ることができます。
Tuner	**Tuner**(チューナー)タブでは、システムのクロック設定と電圧を変更します。 **Quick Boost mode(クイックブーストモード)**では、3つのレベルホスト周波数を使って、必要なシステムパフォーマンスになるように選択できます。(注) **クイックブーストモード**で変更を行うか、**デフォルト**をクリックして、デフォルト値に修復した後、これらの変更を有効にするには、必ずシステムを再起動してください。 • **Easy mode(**簡単モード**)**では、**CPU FSB**飲みを調整します。 • **Advanced mode(**拡張モード**)**では、スライダを使用してシステムのクロック設定と電圧設定を個別に変更します。 • **Save(**保存**)**では、現在の設定を新しいプロファイル**(.txt**ファイル**)**で保存します。 • **Load(**ロード**)**では、プロファイルから以前の設定をロードします。 変更を行った後、**Go**(**Go**)をクリックしてこれらの変更を有効にするか、[既定値]をクリックしてデフォルト値に復元します。
Graphics	**Graphics**(グラフィックス)タブでは、ATIまたはNVIDIAグラフィックスカード用のコアクロックとメモリクロックを変更します。
Smart	**Smart**(スマート)タブでは、C.I.A.2レベルとスマートファンモードを指定します。 **Smart Fan Advance Mode**(スマートファン拡張モード)では、設定したCPU温度しきい値に基づいてCPUファン速度を直線的に変更することができます。
HW Monitor	**HW Monitor**(HWモニタ)タブでは、ハードウェアの温度、電圧およびファン速度を監視離、温度/ファン速度アラームを設定します。**ブザーからアラートサウンドを選択し**たり、独自のサウンドファイル(.wavファイル)を使用できます。

(注) ハードウェアに制限があるため、クイックブーストのサポートを有効にするには、Intel® CoreTM 2 Extreme/ CoreTM 2 Quad/ CoreTM 2 Duo/ Pentium Dual-Core/Celeron Dual-Core Series CPUおよびDDR2 800 MHzメモリモジュール(またはそれ以上)のインストールが必要です。

NOTE

EasyTune 6 の使用可能な機能は、マザーボードのモデルによって異なります。**淡色表示になったエリアは、アイ**テムが設定できないか、機能がサポートされていないことを示しています。

CAUTION

オーバークロック/過電圧を間違って実行すると CPU、チップセット、またはメモリなどのハードウェアコンポーネントが損傷し、これらのコンポーネントの耐用年数が短くなる原因となります。**オーバークロック**/過電圧を実行する前に、EasyTune 6 の各機能を完全に理解していることを確認してください。そうでないと、システムが不安定になったり、その他の予期せぬ結果が発生する可能性があります。

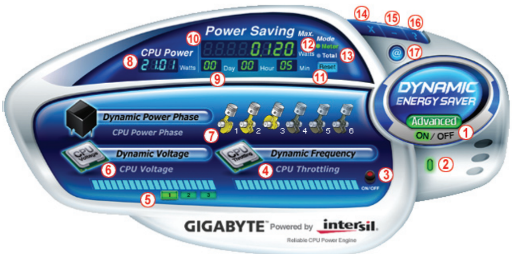
4-4 Dynamic Energy Saver Advanced (ダイナミックエナジーセーバーアドバンスト)

GIGABYTEダイナミックエナジーセーバーアドバンスト(注1) はまったく新しい技術で、ボタンをワンクリックするだけでかつてないほどの省電力が実現します。高度なハードウェアとソフトウェア設計を採用したGIGABYTEダイナミックエナジーセーバーアドバンストはコンピュータのパフォーマンスを犠牲にすることなく、ひときわ優れた省電力および強化された出力効率を提供することができます。

The Dynamic Energy Saver Advanced Interface (ダイナミックエナジーセーバーアドバンストのインターフェイス)

A. Meter Mode (メーターモード)

メーターモードで、GIGABYTE のダイナミックエネルギーセーバーアドバンストは、一定の期間でどれだけのパワーを節約できるかを示しています。



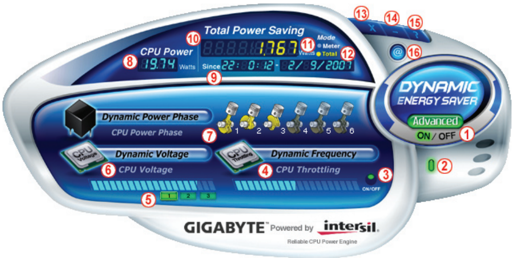
Meter Mode (メーターモード) – ボタン情報テーブル

	ボタンの説明
1	ダイナミックエネルギーセーバーオン/オフ (On/Off) スイッチ (既定値 : Off)
2	マザーボードフェーズ LED オン/オフ (On/Off) スイッチ (既定値 : On)
3	ダイナミック CPU 周波数機能のオン/オフスイッチ (既定値 : Off) (注2)
4	CPU スロットディスプレイ
5	3 レベル CPU 電圧スイッチ (既定値 : 1) (注3)
6	CPU 電圧表示
7	ダイナミックパワーフェーズステータス
8	現在の CPU 消費電力
9	メーター時間
10	パワーセービング(時間に基づく計算機のパワーセービング)
11	メーター/タイマーのリセットスイッチ
12	メーターモードスイッチ
13	合計モードスイッチ
14	終了 (アプリケーションはステルスモードに入ります)
15	最小化 (アプリケーションはタスクバーで実行し続けます)
16	情報/ヘルプ
17	ライブユーティリティ更新(最新のユーティリティバージョンをチェック)

- 上のデータは参照専用です。実際のパフォーマンスは、マザーボードモデルによって異なります。
- CPU パワーとパワースコアは、参照専用です。実際の結果は、テスト方式に基づいています。

B. Total Mode (合計モード)

合計モードで、ユーザーは初めてダイナミックエネルギーセーバーを有効にしてから、設定した時間までにパワーを合計でどれだけ節約できたかを見ることができます (注 4)。



Total Mode (合計モード) – ボタン情報テーブル

	ボタンの説明
1	ダイナミックエネルギーセーバーオン/オフ (On/Off) スイッチ (既定値 : Off)
2	マザーボードフェーズLEDオン/オフ (On/Off) スイッチ (既定値 : On)
3	ダイナミックCPU周波数機能のオン/オフスイッチ (既定値 : Off)
4	CPUスロットディスプレイ
5	3レベルCPU電圧スイッチ (既定値 : 1) (注 3)
6	CPU電圧表示
7	ダイナミックパワーフェーズステータス
8	現在のCPU消費電力
9	時間/日付ダイナミックエネルギーセーバーを有効にする
10	合計のパワーセービング (ダイナミックエネルギーセーバーを有効にしたときの合計パワーセービング) (注 5)
11	ダイナミックエネルギーセーバーメーターモードスイッチ
12	ダイナミックエネルギーセーバー合計モードスイッチ
13	終了 (アプリケーションはステルスモードに入ります)
14	最小化 (アプリケーションはタスクバーで実行し続けます)
15	情報/ヘルプ
16	ライブユーティリティ更新(最新のユーティリティバージョンをチェック)

C. Stealth Mode (ステルスモード)

ステルスモードで、システムは再起動後も、ユーザー定義の省電力設定で作動します。アプリケーションを変更するか完全に終了する場合のみ、アプリケーションに再び入ってください。

(注 1) DES機能を使用する前に、BIOS セットアッププログラムの **CPU Enhanced Halt (C1E) (CPU エンハンストホールト (C1E))** と **CPU EIST Function (CPU EIST 機能)** アイテムが **Enabled (有効)** に設定されていることを確認してください。

(注 2) ダイナミック周波数機能でシステムのパワーセービングを最大化すると、システムパフォーマンスが影響を受けることがあります。

(注 3) 1: 標準パワーセービング (デフォルト); 2: 拡張パワーセービング; 3: 最高のパワーセービング。

(注 4) 節約されたパワーの合計は、ダイナミックパワーセーバーのみが有効ステータスに入っていて、パワーセービングメーターがゼロにリセットできないとき、再びアクティブにされるまで記録されます。

(注 5) 合計パワーセービングが 99999999 ワットに達すると、ダイナミックエネルギーセーバーメーターは自動的にリセットされます。

4-5 Ultra TPM(注 1)

GIGABYTE の独特な Ultra TPM (トラステッドプラットフォームモジュール) は、業界のもっとも進んだハードウェアベースのデータ暗号化設計を採用しています。使いやすい Ultra TPM ユーザーインターフェイスにより、ユーザーは TMP キーを USB フラッシュドライブまたはシステム BIOS に保存またはバックアップすることができます。TPM キーは USB フラッシュドライブ (またはシステムBIOS) に保存された後にコンピュータから削除されて、コンピュータへの不正アクセスから保護します。USB フラッシュドライブを差し込んだり抜いたりすることにより、ユーザーはわずらわしい複雑な設定をすること名心、PSD ファイルを開いたり閉じたりすることができます。さらに、Ultra TPM の重要なバックアップ機能により、ユーザーはキーをなくした場合にデータにアクセスすることができます。

CAUTION

- **TPM に関連するパスワードとキーを作成した後、安全な場所に保存し、またバックアップも取ってください。パスワードやキーをなくした場合、TPM を通して暗号化されたファイルはレンダリングされ、解読したり読み取ることができなくなります。**
- **TPM は最新のデータセキュリティテクノロジを提供しますが、データ整合性を保証したり、ハードウェアを保護したりすることはありません。GIGABYTE は、ハードウェアの損傷の結果としての、暗号化されたデータの損失に責任を負いません。**

A. Ultra TPM をインストールする前に、以下のステップに順番に従ってください:

ステップ 1:
コンピュータの電源をオンにして、BIOSセットアッププログラムに入ります。**Security Chip Configuration (セキュリティチップ設定)** に移動し、**Security Chip (セキュリティチップ)** を **Enabled (有効)** に設定します。**Clear Security Chip (セキュリティチップの消去)** に入り、セキュリティチップのすべての設定を消去します。**セキュリティチップの設定の指示については、第2章「BIOSセットアップ」を参照してください。変更を保存し、コンピュータを再起動します。**

CAUTION **暗号化されたファイルは、TPM チップが消去された後アクセスすることはできません。**

ステップ 2:
マザーボードのドライバディスクから Infineon TPM ドライバをインストールします (**Infineon TPM Driver** の選択)。
ステップ 3:
マザーボードのドライバディスクから Ultra TPM ユーティリティをインストールします (**Ultra TPM** の選択)。

B. Ultra TPM を使用するための指示:

1. Ultra TPM を起動する前に、Infineon セキュリティプラットフォーム設定ツールに移動して TPM チップを初期化し、希望するファイルを暗号化します。(少なくとも PSD (パーソナルセキュアドライブ)を使用する必要があります)。PSD のセットアップ方法については、セキュリティプラットフォームのヘルプを参照してください)。
2. Ultra TPM ユーティリティは、インストールされた後にシステムトレイに表示されます。TPM キーを作成しそれを USB フラッシュドライブに保存するには、Ultra TPM アイコンを右クリックし **Initialize** を選択します 。図1 の画面が表示されます。USB フラッシュドライブを選択し **Enable Backup to BIOS** (注2) チェックボックスをクリックするか、少なくとも 2 つの USB フラッシュドライブを選択します。**OK** をクリックし、Infineon セキュリティプラットフォーム設定ツールで作成したユーザーパスワード (注 3) を入力します。**OK** をクリックして、USB フラッシュドライブまたは BIOS にキーを保存します。

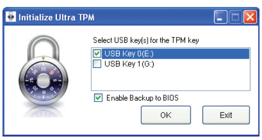
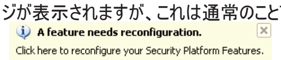


図 1

CAUTION TPMキーが作成されている間、コンピュータの電源をオフにしたり再起動したりしないでください。

NOTE 設定を完了した後、USBフラッシュドライブを削除しているとき、Infineon セキュリティプラットフォーム設定ツールにより次の警告メッセージが表示されますが、これは通常のことです。



3. TPM キーを別の USB フラッシュドライブに複製するには、Ultra TPM アイコンを右クリックし **Duplicate** を選択します 。図2 の画面が表示されます。ソース USB フラッシュドライブのドライブ文字を選択し、宛先 USB フラッシュドライブの文字を選択します。**OK** をクリックして完了します。

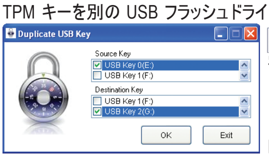


図 2

(注1) この機能は、地域によりポリシーが異なるためオプションです。
(注2) 複数のユーザーが BIOS に TMP キーを保存しているとき、BIOS のキーが TPM キーに取って代わります。
(注3) パスワードを 3 回間違って入力すると、Ultra TPM はロックされます。パスワードを再び入力できるようにするには、BIOS セットアップで **Security Chip Configuration** メニューにアクセスし、**Security Chip** を **Enabled/Activate** に設定します。
(注4) Ultra TPM ユーティリティをアンインストールする場合、アンインストールする前に TPM キーを含む USB フラッシュドライブをコンピュータに挿入してください。

4-6 Q-Share

Q-Shareは簡単で便利なデータ共有ツールです。LAN接続設定とQ-Shareを設定した後、同じネットワークのコンピュータでデータを共有し、インターネットリソースを最大限に活用することができます。

Q-Shareの使用法

マザーボードドライバディスクからQ-Shareをインストールしたら、スタート>すべてのプログラム>GIGABYTE>Q-Share.exeを順にポイントして、Q-Shareツールを起動します。システムトレイで**Q-Share**(Q-Share)  アイコンを検索し、このアイコンを右クリックしてデータ共有設定を行います。

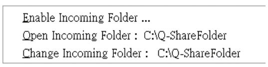


図1. 無効になったデータ共有

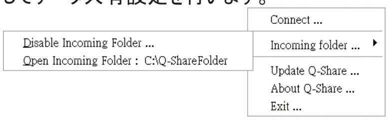


図2. 有効になったデータ共有

Options Descriptions

オプション	説明
Connect...	データ共有を有効にしたコンピュータを表示します。
Enable Incoming Folder...	データ共有を有効にする
Disable Incoming Folder...	データ共有を無効にする
Open Incoming Folder: C:\Q-ShareFolder	共有されたデータフォルダへのアクセス
Change Incoming Folder: C:\Q-ShareFolder	共有するデータフォルダを変更 (注)
Update Q-Share...	Q-Shareのオンライン更新
About Q-Share...	現在のQ-Shareバージョンを表示する
Exit...	Q-Shareの終了

(注) このオプションは、データ共有が有効になっていないときにのみ使用できます。

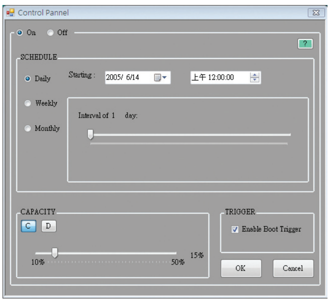
4-7 Time Repair

Microsoft Volume Shadowコピーサービステクノロジに基づき、時刻修復ではWindows Vistaオペレーティングシステムでシステムデータをすばやくバックアップして復元します。**修復は**NTFSファイルシステムをサポートし、PATAおよびSATAハードドライブにシステムデータを復元できます。

システム復元

画面の右または下部にあるナビゲーションバーを使用してシステム復元ポイントを選択し、異なる時間にバックアップされたシステムデータを表示します。ファイル/ディレクトリを選択し、**Copy**(**コピー**)ボタンをクリックしてファイル/ディレクトリを復元するか、**Restore**(**復元**)をクリックしてシステム全体を復元します。

詳細設定画面:



ボタン	機能
ON	システム復元ポイントを自動的に作成する
OFF	システム復元ポイントを自動的に作成しない
SCHEDULE	システム復元ポイントを作成する一定の間隔を設定する
CAPACITY	シャドウコピーを保存するために、使用されるハードドライブの容量のパーセンテージを設定する
TRIGGER	日に最初の起動時にシステム復元ポイントを作成する
?	時刻修復ヘルプファイルを表示する

NOTE

- 使用されるハードドライブは1 GB以上の容量と300 MB以上の空きスペースが必要です。
- 各ストレージボリュームは、64のシャドウコピーに対応しています。この制限に達したら、もっとも古いシャドウコピーが削除され復元することはできません。シャドウコピーは読み取り専用であるため、シャドウコピーのコンテンツを編集することはできません。

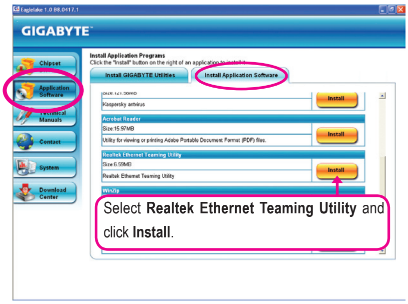
4-8 Teaming

このマザーボードで Teaming 機能を有効にしたデュアルLANにより、2つの単一接続が1つの接続として動作して伝送帯域幅を2倍にし、データ伝送をより効率的にし、遠くの画像の伝送品質を向上します。デュアルLANネットワークのフォールトトレランスでは、作業負荷を障害のあるポートから作業中のポートに伝送することにより、ネットワークのダウンタイムを防いでいます。

NOTE

- 伝送の速度は実際のネットワーク環境、または Teaming を有効にしたステータスの影響を受けます。
- チーミングまたはボンディング(IEEE 802.3ad リンクアグレゲーション)機能を有効にするには、接続ネットワークスイッチまたはルータデバイスがIEEE 802.3ad LACP基準をサポートしていることが必要です。詳細は、ネットワークスイッチまたはルータデバイスマニュアルを参照してください。

A. Enabling Teaming Functionality in Windows XP:

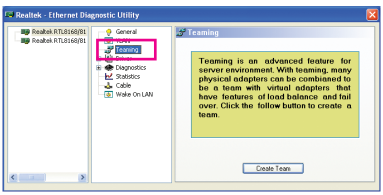


ステップ1:

マザーボード用ドライバディスクを挿入し、**Application Software, Install Application Software** を選択します。**Realtek Ethernet Teaming Utility** の下 **Install** をクリックして、インストールを行います。完了したら、システムを再起動します。

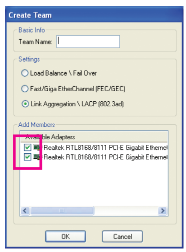
ステップ2:

システムが再起動すると、システムトレイに **Realtek Ethernet Diagnostic Utility** アイコンが表示されます。このアイコンをダブルクリックして、ユーティリティにアクセスしてください。



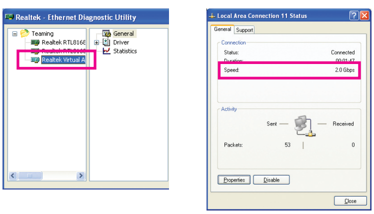
ステップ3:

Teamingを選択し、**Create Team**ボタンをクリックします。



ステップ4:

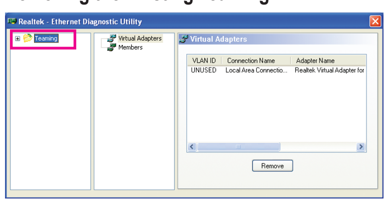
チームに、たとえば**Teaming**などの名前を付け、ハブの使用用に基づいて**Teaming**モードをセットアップします。使用可能な2つのアダプタに対してチェックボックスを選択し、**OK** をクリックします。



ステップ5:

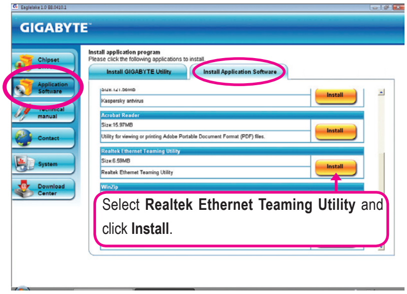
セットアップが完了すると、3番目の仮想ネットワークインターフェイスが表示されます。**Local Area Connection Status** スに移動すると、接続速度は2.0 Gbpsになります。

Removing the Existing Teaming:

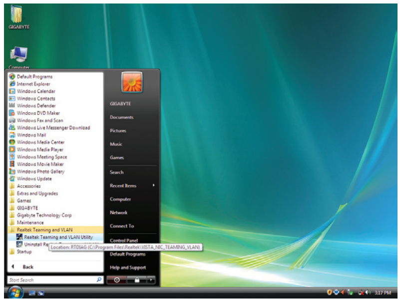


既存の**Teaming**を削除するには、作成したアイテムをクリックし、**Remove**ボタンをクリックします。

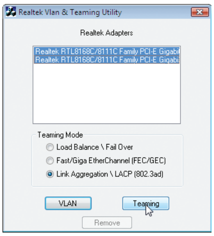
B. Windows Vista でTeaming機能を有効にする:



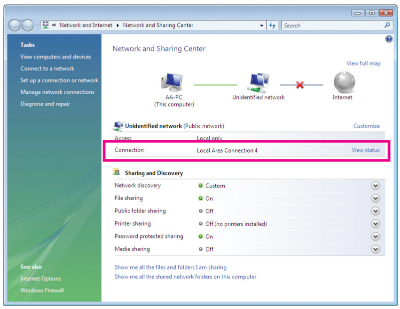
ステップ1:
マザーボード用ドライバディスクを挿入し、**Application Software, Install Application Software.**を選択します。**Realtek Ethernet Teaming Utility**の下で**Install**をクリックして、インストールを行います。完了したら、システムを再起動します。



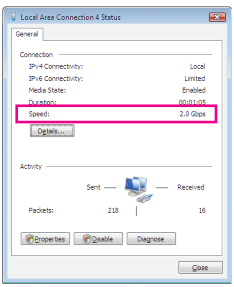
ステップ2:
Startアイコン をクリックします。**All Programs,Realtek Teaming and VLAN, Realtek Teaming and VLAN Utility**をポイントして、ユーティリティにアクセスします。



ステップ3:
2つのアダプタを選択し、ハブの仕様に基づいて**Teaming**モードをセットアップします。**Teaming**ボタンをクリックします。(セットアッププロセス中に2つのダイアログボックスが表示されたら、**OK**をクリックして続行します)。**Teaming**完了の**Create Virtual Adapter For Teaming Complete**ダイアログボックスが表示されたら、**OK**をクリックして完了します。

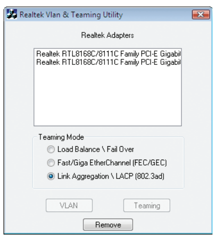


ステップ4:
Teamingが作成されると、**Network and Sharing Center**に1つだけ接続が表示されます。



ステップ5:
Network and Sharing Centerで**View status**をクリックすると、接続速度は2.0 Gbpsで表示されます。

既存のTeamingを削除する:



既存の**Teaming**を削除するには、**Realtek Vlan &Teaming**ユーティリティにアクセスし、**Remove**ボタンをクリックします。

第 5 章　　付録

5-1　SATA ハードドライブの設定

SATA ハードドライブを設定するには、以下のステップに従ってください:

A.　コンピュータに SATA ハードドライブをインストールします。
B.　BIOS セットアップで SATA コントローラモードを設定します。
C.　RAID BIOS で RAID アレイを設定します。(注 1)
D.　SATA RAID/AHCI ドライバを含むフロッピーディスクを作成します。(注 2)
E.　SATA RAID/AHCI ドライバとオペレーティングシステムをインストールします。(注 2)

始める前に

以下を準備してください:

- 少なくとも 2 台の SATA ハードドライブ (最適のパフォーマンスを発揮するために、同じモデルと容量のハードドライブを 2 台使用することをお勧めします)。RAID を作成したくない場合、準備するハードドライブは 1 台のみで結構です。
- フォーマット済み空のフロッピーディスク。
- Windows Vista/XP セットアップディスク。
- マザーボードドライバディスク。

5-1-1　Intel® ICH10R SATA コントローラの設定

A. コンピュータに SATA ハードドライブをインストールする

SATA 信号ケーブルの一方を SATA ハードドライブの後方に差し込み、もう一方をマザーボードの利用可能な SATA ポートに差し込みます。マザーボードに SATA コントローラが1つ以上ある場合は、「第1章」、「ハードウェアのインストール」を参照にして、SATA ポート用のSATAコントローラを確認します。例えば、このマザーボード上で、SATA2_0、SATA2_1、SATA2_2、SATA2_3、 SATA2_4 および SATA2_5 ポートはICH10R Southbridge がサポートしています。) 次に、電源コネクタを電源からハードドライブに接続します。

(注 1)　SATA コントローラに RAID アレイを作成しない場合、このステップをスキップしてください。
(注 2)　SATA コントローラが AHCI または RAID モードに設定されているときに要求されます。

B. BIOS セットアップで SATA コントローラモードを設定する

SATA コントローラコードがシステム BIOS セットアップで正しく設定されていることを確認してください

ステップ1：
RAID を作成するには、**Integrated Peripherals** メニューの下で **SATA RAID/AHCI Mode** を RAID に設定します (図 1)(既定値では **Disabled** になっています)。RAID を作成する必要がない場合、このアイテムを **Disabled** または **AHCI** に設定してください。

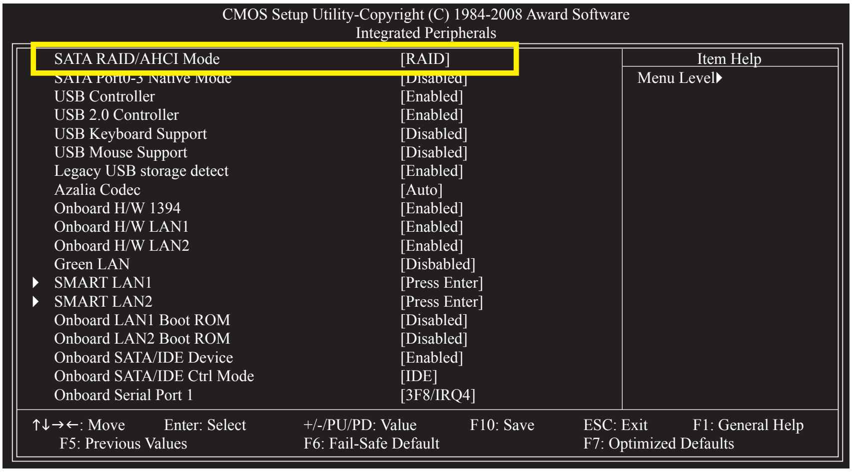


図 1

ステップ2：
変更を保存し BIOS セットアップを終了します。

NOTE このセクションで説明した BIOS セットアップメニューは、マザーボードの正確な設定によって異なることがあります。表示される実際の BIOS セットアップオプションは、お使いのマザーボードおよび BIOS バージョンによって異なります。

C. RAID BIOS で RAID アレイを設定する

RAID BIOS セットアップユーティリティに入って、RAID アレイを設定します。このステップをスキップして、Windows オペレーティングシステムのインストールに進み非 RAID 設定を行います。

ステップ1:

POST メモリテストが始まった後オペレーティングシステムが起動を開始する前に、「Press <Ctrl-I> to enter Configuration Utility」とうメッセージを見てください (図 2)。<Ctrl> + <I> を押して RAID 設定ユーティリティに入ります。

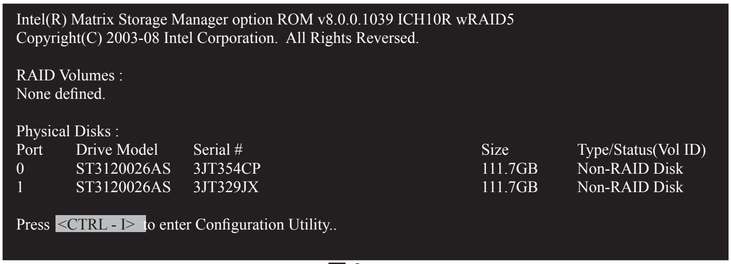


図 2

ステップ2:

<Ctrl> + <I> を押すと、**MAIN MENU** スクリーンが表示されます (図 3)。

Create RAID Volume（RAID ボリュームの作成）

RAID アレイを作成する場合、**MAIN MENU** で **Create RAID Volume** を選択し <Enter> を押します。

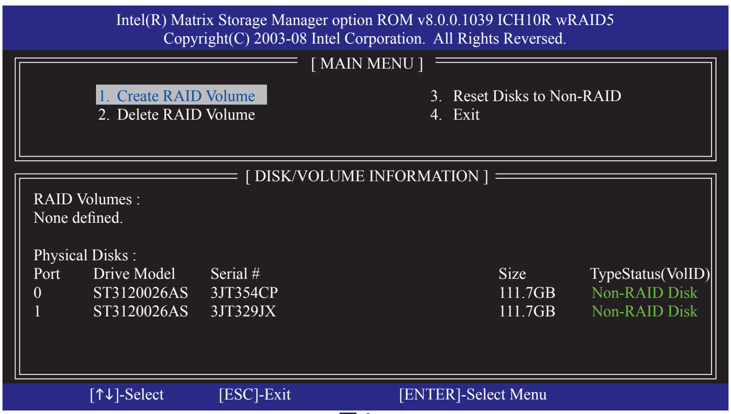


図 3

ステップ3:

CREATE VOLUME MENU スクリーンに入った後、**Name** アイテムの下で 1~16 文字 (文字に特殊文字を含めることはできません) のボリューム名を入力し、<Enter> を押します。次に、RAID レベルを選択します (図 4)。RAID 0, RAID 1, RAID 10 および RAID 5 の 4 つの RAID レベルがサポートされています (使用可能な選択は、取り付けられているハードドライブの数によって異なります)。<Enter> を押して続行します。

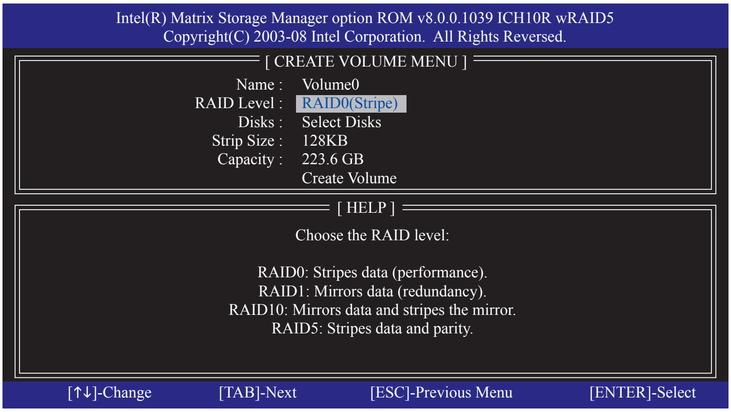


図 4

ステップ4:

Disks アイテムの下で、RAID アレイに含めるハードドライブを選択します。取り付けたドライブが 2 しかない場合、ドライブはアレイに自動的に割り当てられます。必要に応じて、ストライプブロックサイズ (図 5) を設定します。ストライプブロックサイズは 4 KB～128 KB まで 設定できます。ストライプブロックサイズを選択したら、<Enter> を押します。

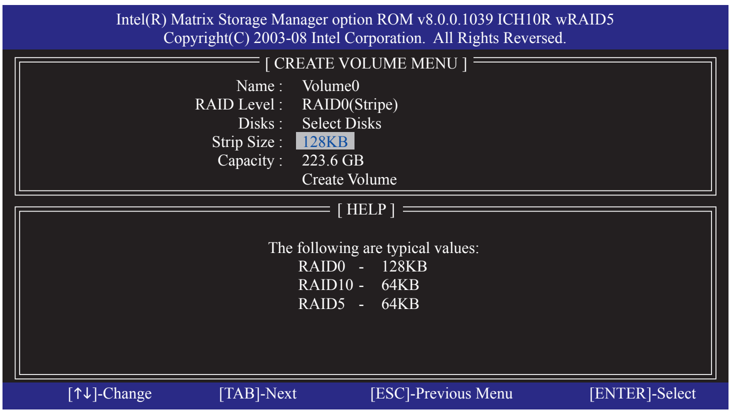


図 5

ステップ 5：
アレイの容量を入力し、<Enter> を押します。最後に、**Create Volume** で <Enter> を押し、RAID アレイの作成を開始します。ボリュームを作成するかどうかの確認を求められたら、<Y> を押して確認するか <N> を押してキャンセルします (図 6)。

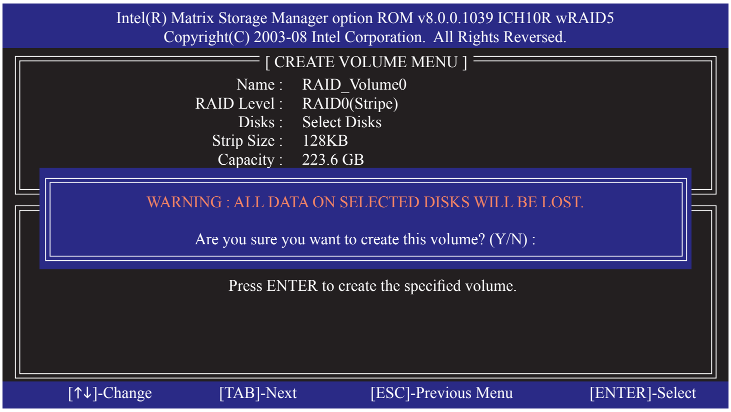


図 6

完了したら、**DISK/VOLUME INFORMATION** セクションに、RAID レベル、ストライプブロックサイズ、アレイ名、およびアレイ容量などを含め、RAID アレイに関する詳細な情報が表示されます (図 7)。

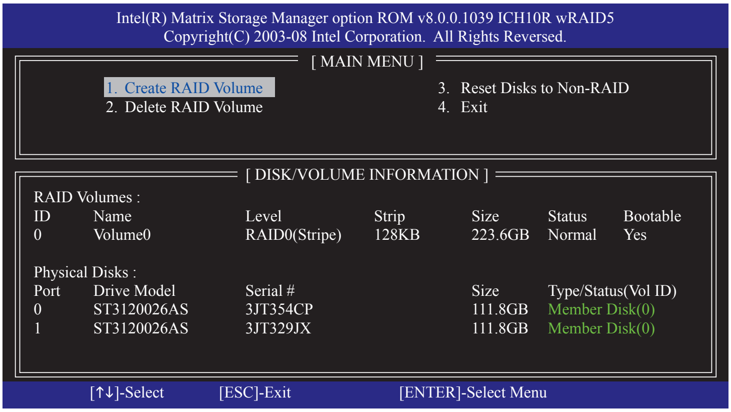


図 7

ICH10R RAID BIOS ユーティリティを終了するには、<Esc> を押すか **MAIN MENU** で **Exit** を選択します。

これで、SATA RAID/AHCI ドライブディスケットの作成および SATA RAID/ACHI ドライバとオペレーティングシステムのインストールに進むことができます。

Delete RAID Volume (RAID ボリュームの削除)

RAID アレイを削除するには、**MAIN MENU** で **Delete RAID** ボリュームを選択し、<Enter> を押します。**DELETE VOLUME MENU** セクションで、上または下矢印キーを使用して削除するアレイを選択し、<Delete> を押します。選択を確認するように求められたら (図 8)、<Y> を押して確認するか <N> を押して中断します。

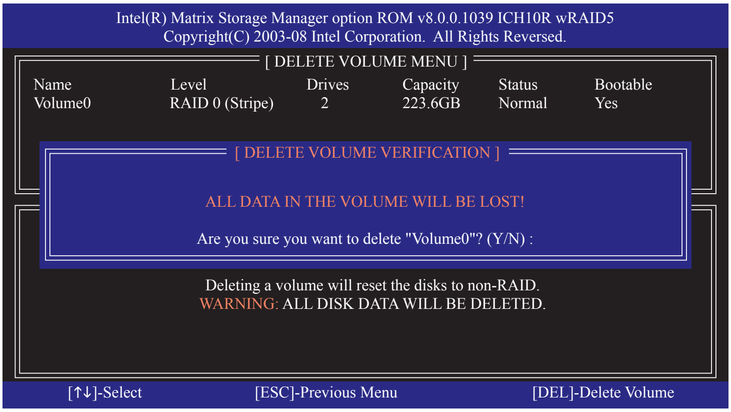


図 8

5-1-2　GIGABYTE SATA2 SATA コントローラの設定

A. コンピュータにSATA ハードドライブをインストールする

SATA 信号ケーブルの一方を SATA ハードドライブの後方に差し込み、もう一方をマザーボードの利用可能な SATA ポートに差し込みます。マザーボードに SATA コントローラが1つ以上ある場合は、「第1章」、「ハードウェアのインストール」を参照にして、SATA ポート用の SATA コントローラを確認します。(例えば、このマザーボード上で、GSATA2_0 および GSATA2_1 ポートは、GIGABYTE SATA2 がサポートしています。) 次に、電源コネクタを電源からハードドライブに接続します。

B. BIOSセットアップでSATAコントローラモードとデバイスブート順序の設定

BIOS セットアップで SATA コントローラモードが正しく設定され、デバイスブート順序を設定していることを確認します。

ステップ 1:
コンピュータの電源を入れ、POST 中に <Delete> を押して、BIOS セットアップを入力します。セットアップでは、**統合型周辺機器**に進み、**オンボード SATA/IDE** デバイスが有効になっていることを確認します。次に、**オンボード SATA/IDE コントロールモードを RAID/IDE** に設定します(図1)。 RAID を作成しない場合、必要に応じて、このアイテムは **IDE** または**AHCI** に設定します。

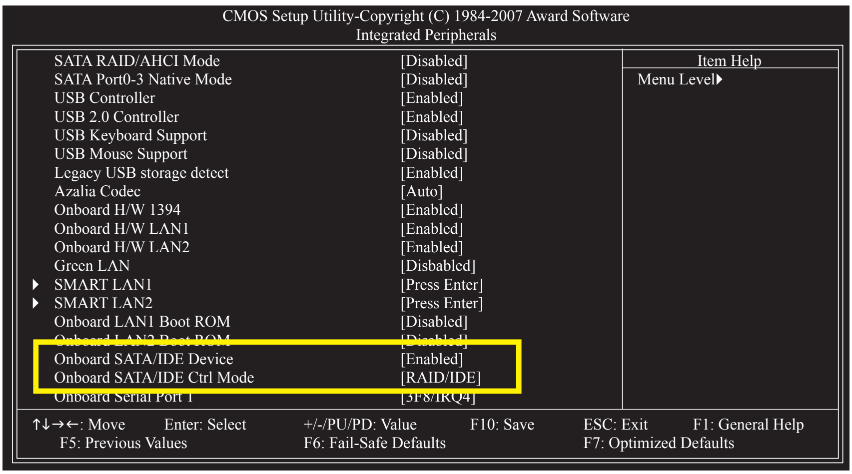


図 1

ステップ 2:
変更を保存して、BIOS セットアップを終了します。

本セクションに記載の BIOS セットアップメニューは、お使いのマザーボードの正確な設定によって異なることがあります。表示される実際の BIOS セットアップメニューオプションは、お使いのマザーボードおよび BIOS バージョンによって異なります。

C. **RAID BIOS の RAID アレイの設定**

RAID BIOS セットアップユーティリティを入力して、RAID アレイを設定します。 非 RAID 設定の場合は、このステップをスキップして、Windows オペレーティングシステムのインストールに進みます。非RAID設定の場合は、このステップをスキップして、Windowsオペレーティングシステムのインストールに進みます。

POSTメモリテストがはじまった後およびオペレーティングシステムブートがはじまる前に、「<Ctrl-G> を押して、RAIDセットアップユーティリティを入力してください。」(図2)のメッセージを探します。 <Ctrl> + <G>を押して、GIGABYTE SATA2 RAID BIOS ユーティリティを入力します。

```
GIGABYTE Technology Corp. PCIE-to-SATAII/IDE RAID Controller BIOS v1.06.78
Copyright (C) 2005 GIGABYTE Technology.                    http://www.gigabyte.com.tw

HDD0  :   ST3120026AS                                      120 GB     Non-RAID
HDD1  :   ST3120026AS                                      120 GB     Non-RAID

ODD0  :   DVDROM GO-D1600B

Press <Ctrl-G> to enter RAID Setup Utility ...
```

図 2

GIGABYTE SATA2 RAID BIOS ユーティリティのメイン画面では(図 3)、上下矢印キーを使って、**メインメニュー**ブロックの選択肢を強調表示します。実行するアイテムを強調表示して、<Enter>を押します。

```
GIGABYTE Technology Corp. PCIE-to-SATAII/IDE RAID Controller BIOS v1.06.78

[ Main Menu ]                  [ Hard Disk Drive List ]
 Create RAID Disk Drive            Model Name           Capacity    Type/Status
 Delete RAID Disk Drive         HDD0:  ST3120026AS      120 GB      Non-RAID
 Revert HDD to Non-RAID         HDD1:  ST3120026AS      120 GB      Non-RAID
 Solve Mirror Conflict
 Rebuild Mirror Drive
 Save And Exit Setup
 Exit Without Saving

[ RAID Disk Drive List ]

[←→TAB]-Switch Window    [↑↓]-Select ITEM    [ENTER]-Action    [ESC]-Exit
```

図 3

注: メイン画面では、**ハードディスクドライブリスト**のハードドライブを選択し、<Enter>を押して、選択したハードドライブについての詳細情報を確認します。

RAID アレイを作成する:

メイン画面では、[**RAID ディスクドライブを作成する**]アイテムの<Enter>を押します。 次に、[**新しい RAID を作成する**]画面が表示されます(図 4)。

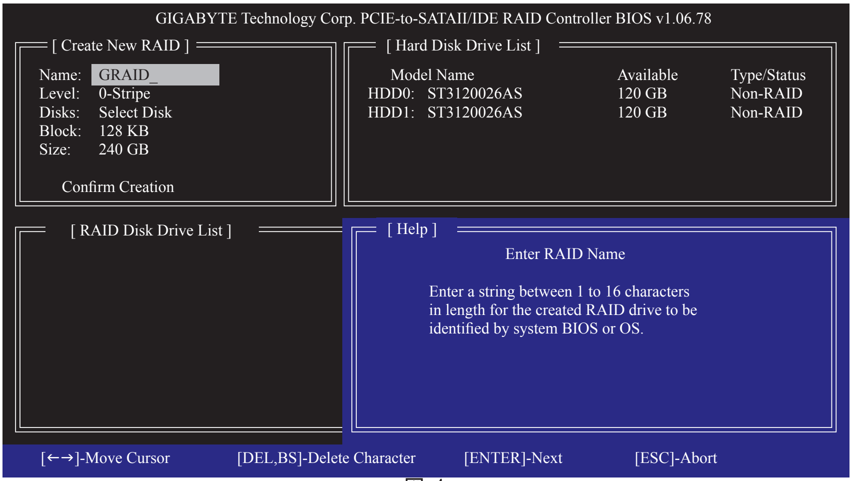


図 4

[**新しい RAID を作成する**]ブロックには、アレイ作成の設定に必要なアイテムすべてが表示されます(図 5)。

ステップ:

1. **アレイ名を入力する:** 名前アイテムに、1~16 文字以内のアレイ名(特殊文字は使用不可)を入力して、<Enter>を押します。
2. **RAID モードを選択する:レベル**アイテムで、上下矢印キーを使って、RAID 0 (ストライプ)、RAID 1 (ミラー)、または JBOD を選択します(図 5)。次に、<Enter> を押して、次のステップに進みます。

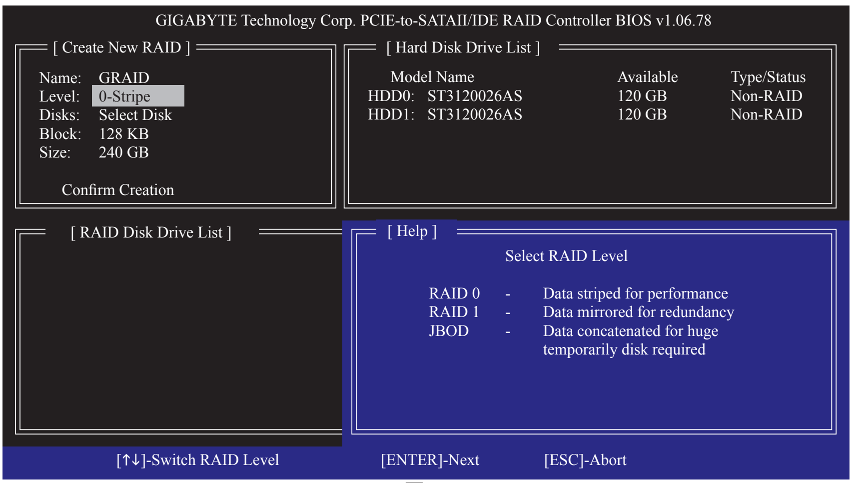


図 5

3. **アレイディスクを割り当てる：** RAID モードを選択後、RAID BIOS がインストールしたドライブを2つのハードドライブとして自動割当します。
4. **ロックサイズを設定する（RAID 0）のみ： ブロック**アイテムで、上下矢印キーを使って、4 KB から 128 KB の範囲から、ストライプブロックを選択します（図 6）。<Enter> を押します。

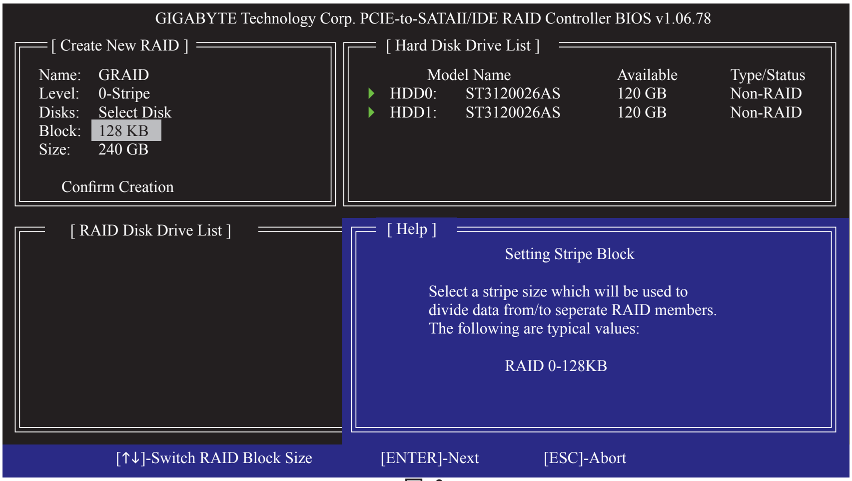


図 6

5. **アレイサイズを設定する： サイズ**アイテムで、アレイのサイズを入力して、<Enter>を押します。
6. **作成を確認する：** 上記アイテムすべてを設定後、選択バーが[**作成を確認する**]アイテムに自動的に進みます。<Enter>を押します。選択を確認するよう要求された場合（図7）、<Y>を押して確認するか、または<N>を押して中止します。

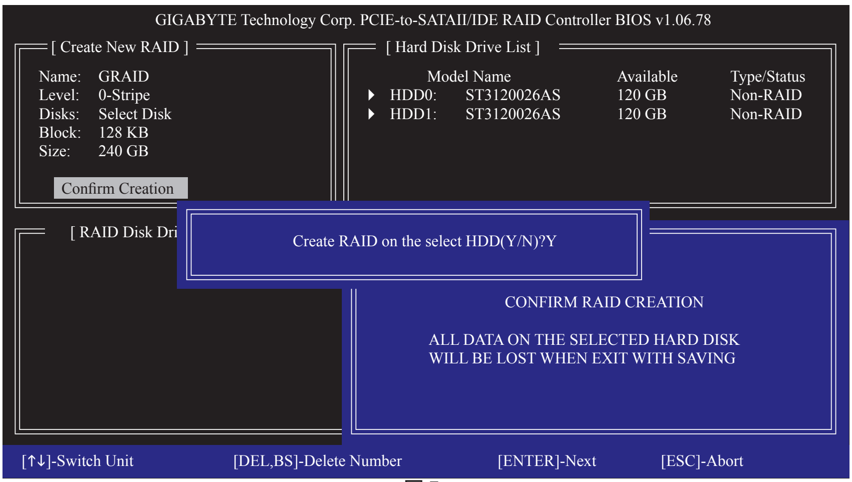


図 7

完了したら、**RAID ディスクドライブリスト**ブロックに新しい RAID アレイが表示されます(図 8)。.

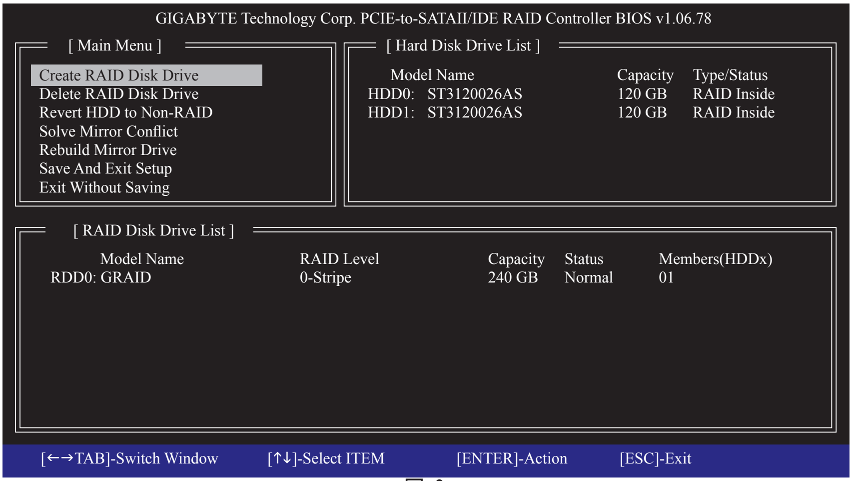


図 8

アレイについて詳細を確認するには、メインメニューで <Tab> キーを押して、選択バーを **RAID ディスクドライブリスト**ブロックに移動させます。アレイを選択して、<Enter> を押します。
アレイ情報を記載した小さなウインドウが画面中央に表示されます(図9)。

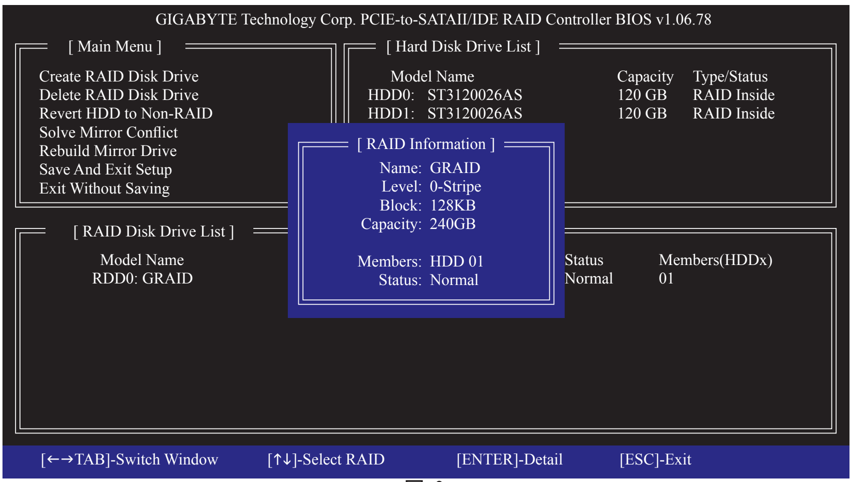


図 9

7. セットアップを保存して終了する:RAID アレイを設定後、メイン画面の[セットアップを保存して終了する]アイテムを選択して、RAID BIOS ユーティリティの終了前に設定を保存し、次に、<Y>を押します(図10)。

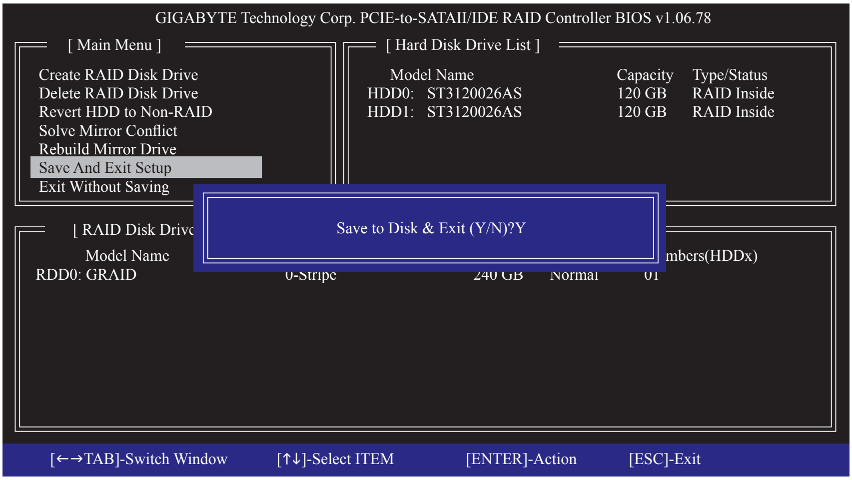


図 10

次に、SATA RAID/AHCI ドライバディスケットの作成、SATA RAID/AHCI ドライバおよびオペレーティングシステムのインストールに進むことができます。

RAID アレイを削除する:

アレイを削除するには、メインメニューの[**RAID ディスクドライブを削除する**]を選択し、<Enter> を押します。選択バーが **RAID ディスクドライブ**リストブロックに移動します。選択するアレイ上のスペースバーを押します。小さな三角形が表示され、選択したアレイをマークします。 <Delete> を押します。 選択を確認するよう要求された場合(図 11)、<Y> を押して確認するか、または<N>を押して取消します。

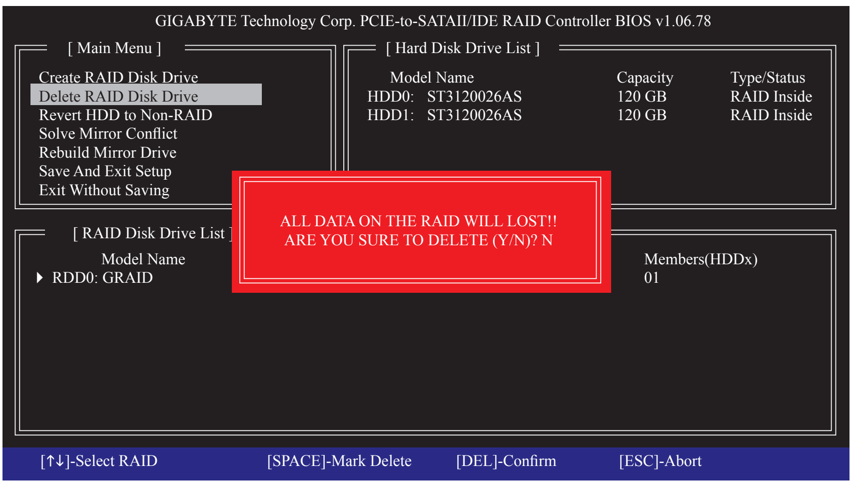


図 11

5-1-3　SATA RAID/AHCI ドライバディスケットを作成する （AHCI と RAID モードで必要）

RAID/AHCI モードに設定された SATA ハードドライブにオペレーティングシステムを正常にインストールするには、OS インストールの間に SATA コントローラドライバをインストールする必要があります。ドライバがインストールされていないと、セットアッププロセスの間ハードドライブを認識することができません。まず題意日、SATA コントローラ用のドライバをマザーボードのドライバディスクからフロッピーディスクにコピーします。Windows Vista の場合、まずマザーボードドライバディスクから USB フラッシュドライブにSATAコントローラドライバをコピーし、それを抽出する必要があります(次ページの指示を参照)。MS-DOS モードでドライバをコピーする方法については、以下の説明を参照してください(注)。CD-ROM をサポートする起動ディスクと、空のフォーマット済みフロッピーディスクを用意します。

ステップ1：用意した起動ディスクとマザーボードドライバをシステムに挿入します。起動ディスクから起動します。A:\> prompt で、光ドライブに変更します(例：D:\>)。D:\> prompt で、次の 2 つのコマンドを入力します。コマンドの後で <Enter> を押します (図 1)：

```
cd bootdrv
menu
```

ステップ 2：コントローラメニュー (図 2) が表示されたら、起動ディスクを取り出し空のフォーマット済みディスクを挿入します。メニューから対応する文字を押して、コントローラドライバを選択します。例えば、図2のメニュー：

- **Intel ICH10R SATA** コントローラについては、**7)** Windows 32 ビットオペレーティングシステム用の **Intel Matrix Storage Manager 32 bit**、または **8)** Windows 64 ビット用の **Intel Matrix Storage Manager 64 bit**
- GIGABYTE SATA2 SATA コントローラについては、**E)** Windows 32 ビットオペレーティングシステム用の **GIGABYTE SATA-RAID Driver 32Bit**、または**F)** Windows 64 ビット用の **GIGABYTE SATA-RAID Driver 64Bit**。システムはこのドライブファイルを自動的に圧縮し、フロッピーディスクに転送します。完了したら、<0> を押して終了します。

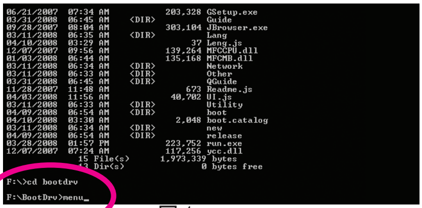


図 1

図 2

(注)　起動ディスクのないユーザーの場合：

代替システムを使用して、マザーボードドライバディスクを挿入します。光ドライブフォルダから、**BootDrv** フォルダで **MENU.exe** ファイルをダブルクリックします (図 3)。図 2 に似たコマンドプロンプトウィンドウが表示されます。

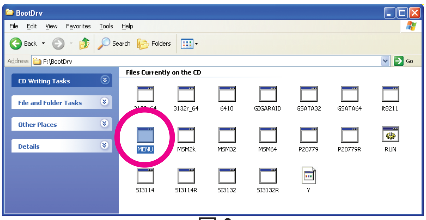


図 3

マザーボードドライバディスクから USB フラッシュドライブに、SATA RAID/AHCI ドライバをコピーします。

ステップ1:
代替システムで、SATA RAID/AHCI ドライバをマザーボードドライバディスクから USB フラッシュドライブにコピーします。たとえば、Intel ICH10R SATA コントローラに Windows Vista 32 ビットオペレーティングシステム(注)をインストールし、マザーボードドライバディスクの **BootDrv** フォルダにある **MSM32** ファイル (図4) を USB フラッシュドライブにコピーします。

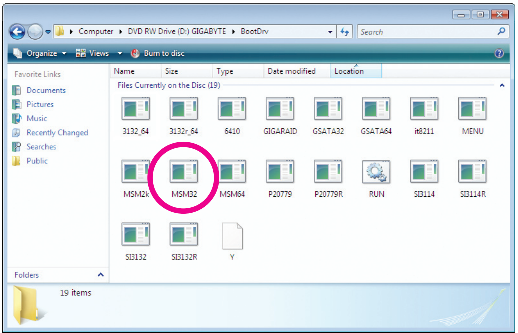


図 4

ステップ2:
USB フラッシュドライブの **MSM32** ファイルをダブルクリックします。図5 に似た画面が表示されたら、「抽出を続行しますか?」メッセージに対して「はい」と入力し、<Enter>を押してドライバの抽出を開始します。ドライバが抽出されたら、図 6 に似た画面が表示されます。

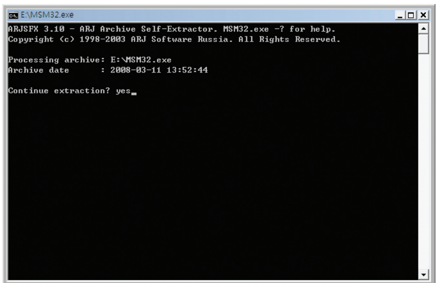


図 5

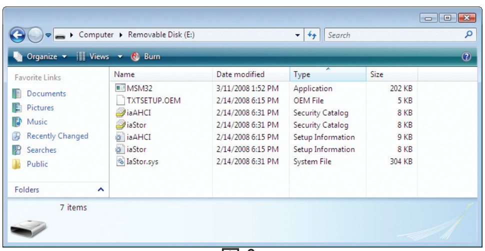


図 6

(注)　Windows Vista 64 ビットオペレーティングシステムをインストールするには、**MSM64** ファイルをコピーしてください。

5-1-4 SATA RAID/AHCI ドライバとオペレーティングシステムをインストールする

SATA RAID/AHCI ドライバディスケットを用意し要求された BIOS 設定を終えたら、いつでもハードドライブに Windows Vista/XP をインストールできます。次は Windows XP インストールの例です。

A. Windows XPのインストール

ステップ 1：
システムを再起動し Windows XP セットアップディスクから起動し、「Press F6 if you need to install a 3rd party SCSI or RAID driver」というメッセージが表示されたらすぐ <F6> を押します (図 1)。<F6> を押すと、ファイルがいくつかロードされ、次のスクリーンが表示されます。

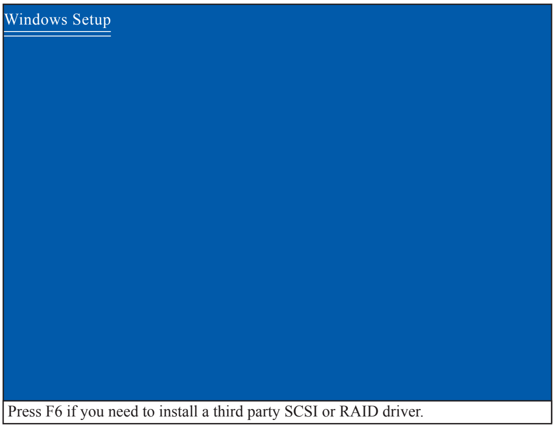


図 1

ステップ 2：
以下のようなスクリーンが表示されたら、SATA RAID/AHCI ドライバを含むフロッピーディスクを挿入し <S> を押します (図 2)。

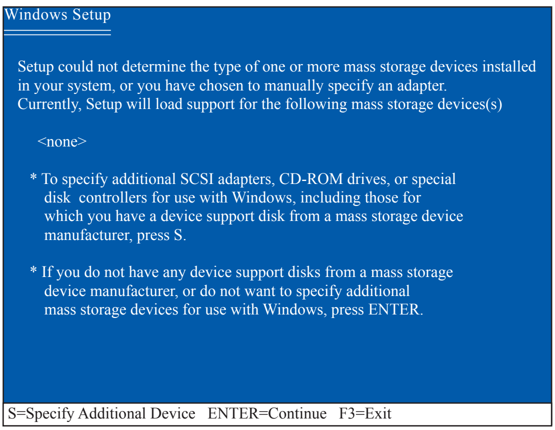


図 2

ステップ3:

Intel® ICH10R SATA コントローラについて：

セットアップがフロッピーディスクの Intel ICH10R SATA RAID/AHCI ドライバを正しく識別したら、以下の図 3 のようなコントローラメニューが表示されます。上または下矢印キーを使用して、表示されたアイテムを 1 つ選択し、<Enter> を押します。BIOS セットアップの**SATA RAID/AHCI Mode** アイテムを RAID モードに設定したら、**Intel(R) ICH8R/ICH9R/ICH10R SATA RAID Controller** を選択します。(AHCI モードの場合、**Intel(R) ICH10R SATA AHCI Controller** を選択します)。

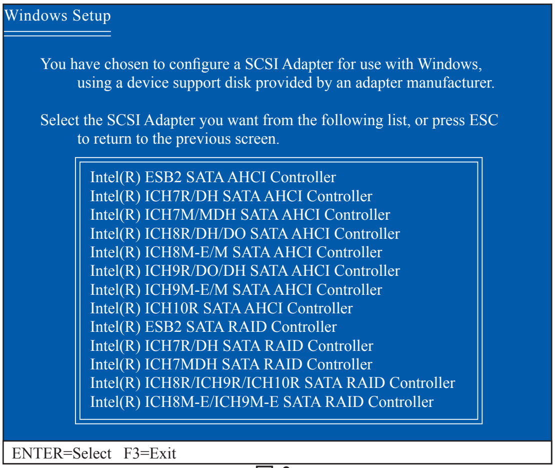


図 3

つまたは複数のファイルが見つかりませんというメッセージが表示されたら、フロッピーディスクをチェックするか、正しい SATA RAID/AHCI ドライバをマザーボードドライバディスクからもう一度コピーします。

以下のようなスクリーンが表示されたら、<Enter> を押してフロッピーディスクからドライバのインストールを続行します。ドライバインストールは、約 1 分で完了します。

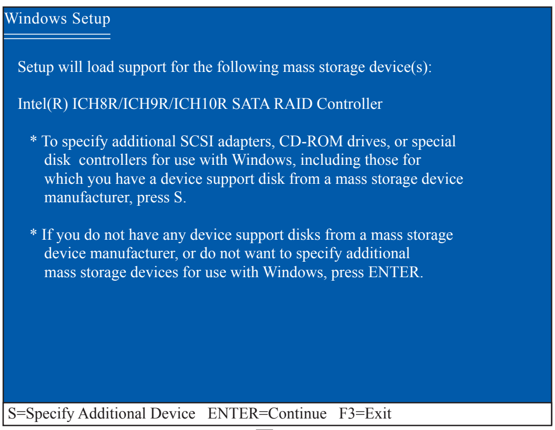


図 4

ステップ 3:
GIGABYTE SATA2 SATA コントローラについて：
セットアップがフロッピディスク内の GIGABYTE SATA2 SATA RAID/AHCI ドライバを正確に認識しない場合、下図 5 のようなコントローラメニューが表示されます。 矢印キーを使って、表示されたアイテムの 1 つを選択し、<Enter> を押します。 セットアップの **Onboard SATA/IDE Ctrl Mode** コントロールモードイテムを RAID または AHCI モードに設定する場合、**(Windows XP/2003) RAID/AHCI Driver for GIGABYTE GBB36X Controller** ドライバを選択します。

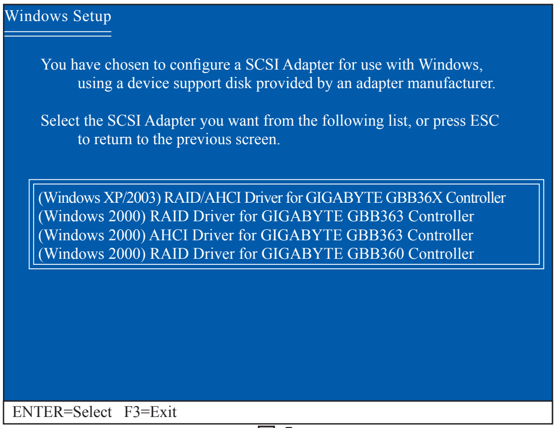


図 5

CAUTION つまたは複数のファイルが見つかりませんというメッセージが表示されたら、フロッピーディスクをチェックするか、正しい SATA RAID/AHCI ドライバをマザーボードドライバディスクからもう一度コピーします。

以下のようなスクリーンが表示されたら、<Enter> を押してフロッピーディスクからドライバのインストールを続行します。ドライバインストールは、約 1 分で完了します。

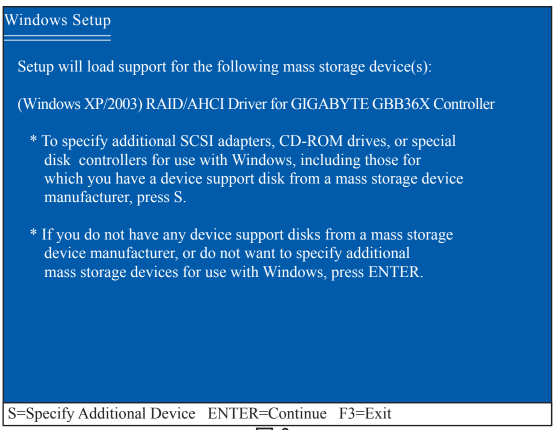


図 6

ステップ 4:

SATA コントローラドライバのインストールが完了したら、Windows XP インストールに進むことができます。

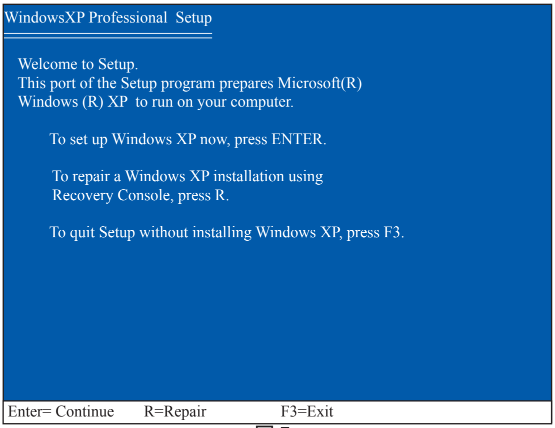


図 7

B. Windows Vista のインストール

(以下の手順は、RAIDアレイがシステムに1つしかないことを前提としています)。

Intel ICH10R SATA コントローラ

ステップ 1:

システムを再起動して Windows Vista セットアップディスクから起動し、標準のOS インストールステップを実行します。以下の画面と同じような画面が表示されたら、**Load Driver** (**ドライバのロード**)を選択します。(図 8).

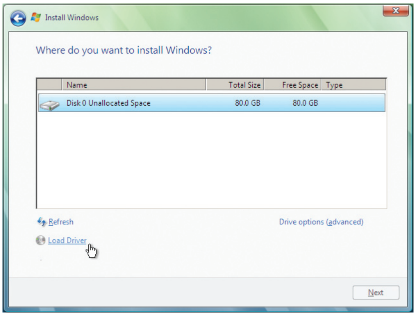


図 8

ステップ 2:

フロッピーディスクまたは USB フラッシュドライブなど、ドライバを保存する場所を指定します(図 9)。

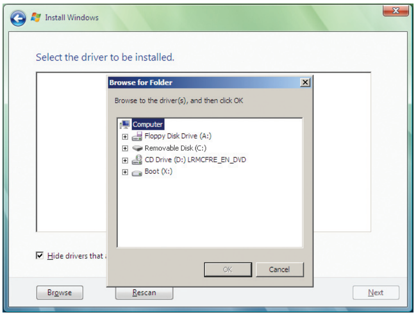


図 9

ステップ 3:

図 10 のような画面が表示されたら、**Intel(R) ICH8R/ICH9R/ICH10R SATA RAID Controller**(注) を選択し、**Next** (**次へ**)をクリックします。

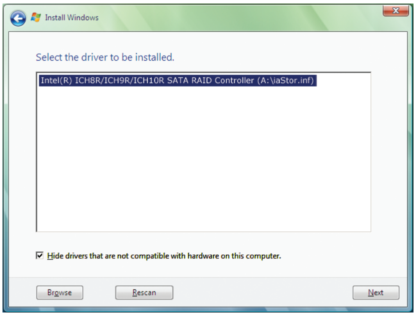


図 10

ステップ 4:

ドライバをロードした後、オペレーティングシステムをインストールする RAID/AHCI ドライブを選択し、**Next** (**次へ**)を押して OS のインストールを続行します(図 11)。

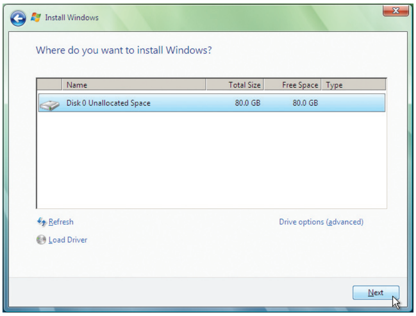


図 11

(注)　図 10 に表示されたアイテムは、SATA コントローラがAHCIモードに設定されているとき、**Intel(R) ICH10 SATA AHCI Controller** として表示されます。

GIGABYTE SATA2 コントローラ

ステップ 1:

システムを再起動して Windows Vista セットアップディスクから起動し、標準のOSインストールステップを実行します。下記のような画面(RAID/AHCIハードドライブがこの段階では検出されない)が表示される場合、**ドライバーの読み込み**を選択します(図12)。

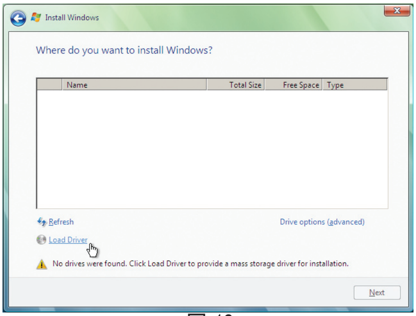


図 12

ステップ2:

フロッピディスク等、ドライバを保存する場所を指定します(図13)。

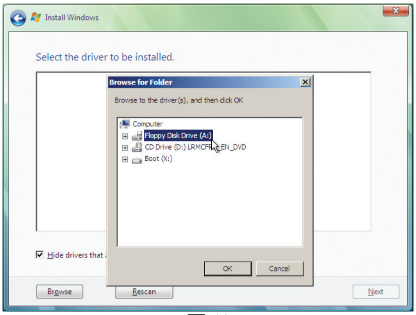


図 13

ステップ 3:
図 14 のような画面が表示される場合、**GIGABYTE GBB36X Controller** を選択し、[**次へ**]を押します。

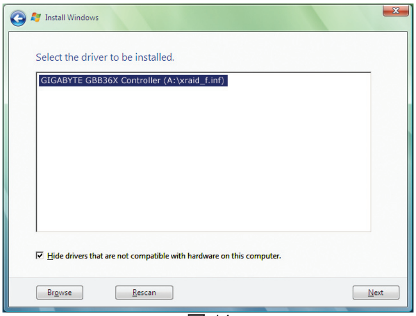


図 14

ステップ 4:
ドライバをロードした後、オペレーティングシステムをインストールする RAID/AHCI ドライブを選択し、**Next**(**次へ**)を押して OS のインストールを続行します(図 15)。

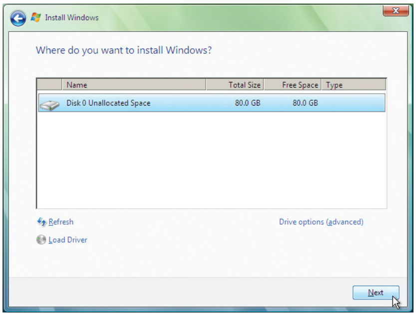


図 15

5-2 オーディオ入力および出力を設定

5-2-1 2 / 4 / 5.1 / 7.1 チャネルオーディオを設定する

マザーボードでは、背面パネルに 2/4/5.1/7.1 チャンネルオーディオをサポートするオーディオジャックが 6 つ装備されています。右の図は、デフォルトのオーディオジャック割り当てを示しています。
統合された HD (ハイディフィニション) オーディオにジャック再タスキング機能が搭載されているため、ユーザーはオーディオドライバを通して各ジャックの機能を変更することができます。たとえば、4 チャンネルオーディオ設定で、背面スピーカーがデフォルトの中央/サブウーファスピーカーアウトジャックに差し込まれると、中央/サブウーファスピーカーアウトジャックを背面スピーカーアウトに設定することができます。

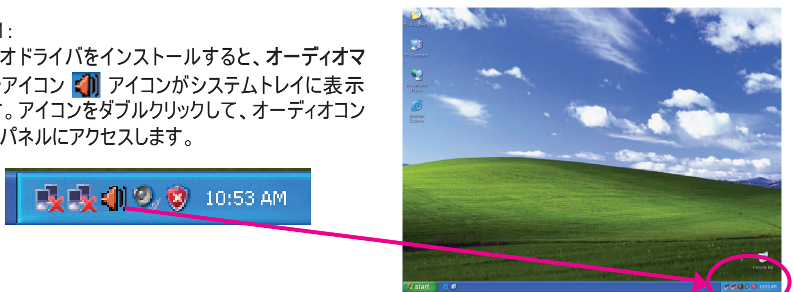
NOTE

- マイクを取り付けるには、マイクをマイクインまたはラインインジャックに接続し、マイクのジャック機能を手動で設定します。
- オーディオ信号は、正面および後方パネルオーディオ接続の両方に同時に流れます。後方パネルオーディオ（HD 正面パネルオーディオモジュールとして使用する場合にのみサポート）を消音する場合は、次ページの説明を参照してください。

ハイディフィニションオーディオ (HD Audio)
HD Audio には、48 KHz サンプリングレートをサポートする高品質デジタル対アナログコンバータ (DACs) が複数組み込まれています。HD Audio はマルチストリーミング機能を採用して、複数のオーディオストリーム (インおよびアウト) を同時に処理しています。たとえば、MP3 ミュージックを聴いたり、インターネットチャットを行ったり、インターネットで通話を行ったりといった操作を同時に実行できます。

A. スピーカーを設定する:
(以下の指示は、サンプルとして Windows XP オペレーティングシステムを使用します)。

ステップ1:
オーディオドライバをインストールすると、**オーディオマネージャ**アイコン アイコンがシステムトレイに表示されます。アイコンをダブルクリックして、オーディオコントロールパネルにアクセスします。



CAUTION

オーディオドライバをインストールする前に、「Microsoft UAA Bus driver for High Definition Audio」がマザーボードのドライバディスクからインストールされ、オペレーティングシステムが最新の Service Pack for Windows で更新されていることを確認してください。

(注) 2 / 4 / 5.1 / 7.1チャネルオーディオ設定:
マルチチャンネルスピーカー設定については、次を参照してください。
- 2 チャンネルオーディオ:ヘッドフォンまたはラインアウト。
- 4 チャンネルオーディオ:前面スピーカーアウトおよび背面スピーカーアウト。
- 5.1 チャンネルオーディオ:前面スピーカーアウト、背面スピーカーアウト、および中心/サブウーファスピーカーアウト。
- 7.1 チャンネルオーディオ:前面スピーカーアウト、背面スピーカーアウト、中心/サブウーファスピーカーアウト、および側面スピーカーアウト。

ステップ2：
Audio I/O(オーディオI/O) タブをクリックします。左のスピーカーリストで、セットアップするスピーカー設定のタイプに従い、**2CH Speaker**、**4CH Speaker**、**6CH Speaker**、または **8CH Speaker** を選択します。

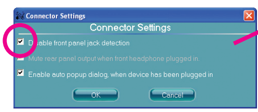
ステップ3：
オーディオデバイスをオーディオジャックに接続するたびに、**Connected device** (接続済みデバイス) ボックスが表示されます。接続するデバイスのタイプに従って、デバイスを選択します。次に、**OK** をクリックし設定を完了します。

B. サウンド効果を設定する：

Sound Effect (サウンドエフェクト) タブのオーディオ環境を設定することができます。

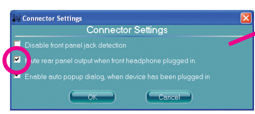
C. AC'97 正面パネルオーディオモジュールを有効にする：

AC'97 機能を有効にする、シャーシに正面パネルオーディオモジュールがある場合、**Audio I/O** タブのツールアイコンをクリックします。**Connector Settings** ボックスで、**Disable front panel jack detection** チェックボックスを選択します。[**OK**]をクリックして、完了します。



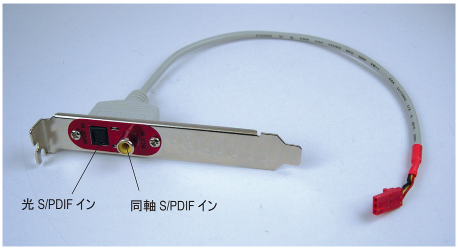
D. 後方パネルオーディオを消音する（HDオーディオのみ）：

Audio I/O タブのツールアイコンをクリックします。**Connector Settings** ボックスで、**Mute rear panel output when front headphone plugged in** チェックボックスを選択します。[**OK**]をクリックして、完了します。



5-2-2 S/PDIF インケーブルを取り付ける (オプション)

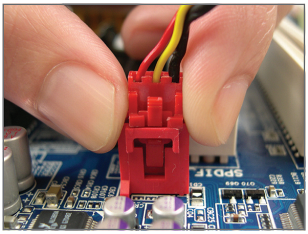
S/PDIF インケーブルには、S/PDIF イン機能が組み込まれています。



S/PDIF イン:

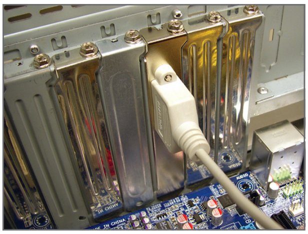
S/PDIF インジャックでは、デジタルオーディオ信号をコンピュータに入力してオーディオ処理を実行します。

A. S/PDIF インケーブルを取り付ける:



ステップ 1:

まず、ケーブルの端のコネクタをマザーボードの SPDIF_I ヘッダに接続します。

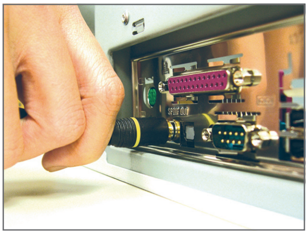


ステップ 2:

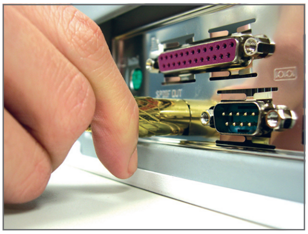
金属製ブラケットをねじでシャーシの背面パネルに固定します。

S/PDIF アウト：
アウトジャックはデコード用の外部デコーダにオーディオ信号を送信して、最高のオーディオ品質を実現します。

B. S/PDIF アウトケーブルを接続する



S/PDIF 同軸ケーブル



S/PDIF 光ケーブル

S/PDIF 同軸ケーブルまたは S/PDIF 光ケーブルのどちらかを外部デコーダに接続して、S/PDIF デジタルオーディオ信号を送信します。

C. S/PDIF アウトを設定する：

DIGITAL (デジタル) セクションでツールアイコンをクリックします。**S/PDIF In/Out Settings (S/PDIFイン/アウト設定)** ダイアログボックスで、出力サンプリングレートを選択し、出力ソースを選択します (または無効にします)。**OK** をクリックし設定を完了します。

(注) SPDIF Inおよび SPDIF Out コネクタの実際の場所は、モデルによって異なることがあります。

5-2-3 Dolby Home Theater 機能を有効にする

Dolby Home Theater 機能を有効にする前、2チャンネルステレオソースを再生しているとき、(前面スピーカーから)2チャンネル再生でしか出力できません。4-、5.1-、または7.1-チャンネルオーディオ効果を得るには、4-、5.1-、または7.1-チャンネルコンテンツを再生する必要があります。ドルビーホームシアター機能を有効にすると、2チャンネルステレオコンテンツはマルチチャンネルオーディオに変換され、仮想サラウンドサウンド環境を作成します (注)。

オーディオドライバをインストールすると、以下に示すように、オーディオコントロールパネルの中央下にドルビーホームシアターコントロールボタンが表示されます。

Dolby Home Theater コントロールボタン

1. : このボタンは、オンボードオーディオを詳細にコントロールします。
2. DOLBY HEADPHONE:
   このボタンをクリックすると、Dolby Headphone 機能の有効/無効が切り替わります。Dolby Headphone ヘッドフォンを有効にすることで、ヘッドフォンセットからサラウンドサウンドとして2チャンネルステレオコンテンツを聞くことができます。
3. DOLBY PRO LOGIC II:
   このボタンをクリックすると、Dolby Pro Logic II 機能の有効/無効が切り替わります。
   Dolby Pro Logic II を有効にすることにより、ステレオ構成によって、2チャンネルコンテンツを4-または5.1-チャンネルサラウンドサウンドで処理することができます。
4. DOLBY VIRTUAL SPEAKER:
   このボタンをクリックすると、Dolby Virtual Speaker 機能の有効/無効が切り替わります。Dolby Virtual Speaker ーを有効にすることで、2台のスピーカーからサラウンドサウンドとして2チャンネルステレオコンテンツを聞くことができます。
5. DOLBY DIGITAL LIVE:
   サラウンドサウンドシステムが外部デコーダを通して接続されている場合、オーディオコントロールパネルの **Audio I/O** タブをクリックしてください。左上リストの **Dolby Digital 5.1** をクリックするか、オーディオコントロールパネル中央下にある **DOLBY DIGITAL LIVE** ボタンをクリックします **DOLBY PRO LOGIC II**ボタンをクリックします。システムは、2 チャンネルコンテンツから 5.1 チャンネルサラウンドサウンド再生をシミュレートします。

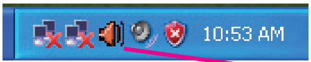
マザーボードドライバディスクから **Dolby GUI Software ソフトウェア**ドライバをインストールします。**Start** アイコンをクリックします 。すべての **All Programs**、**Dolby Control Center** をポイントし、ユーティリティにアクセスします。(次の図は、例としての7.1-スピーカー構成を示しています)。

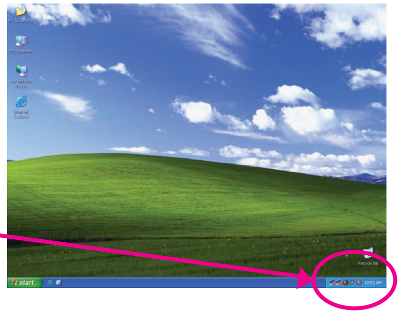
1. Dolby Pro Logic IIx : ドルビー **Dolby Pro Logic IIx** をクリックします。システムは、7.1-チャンネルサラウンドサウンド再生用に2-チャンネルオーディオを拡張します。
2. Natural Bass : **Natural Bass** をクリックして、スピーカーの低音効果を有効にします。

(注) Dolby Digital Live が有効になっているとき、デジタルオーディオ出力 (S/PDIF) のみが作動し、アナログスピーカーまたはヘッドフォンからサウンドを聞くことはできません。

5-2-4　マイク録音を設定する

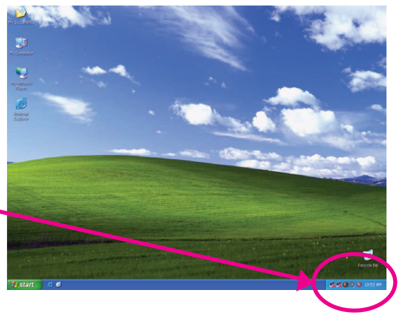
ステップ 1：
オーディオドライバをインストールすると、**Audio Manager (オーディオマネージャ)** アイコンがシステムトレイに表示されます。アイコンをダブルクリックして、オーディオコントロールパネルにアクセスします。



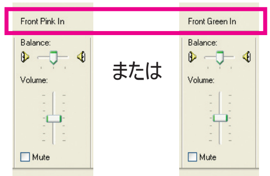


ステップ 2：
マイクを、背面パネルのマイクインジャック (ピンク) または前面パネルのラインインジャックに接続します。次に、マイクが機能するようにジャックを設定します。
注：前面パネルと背面パネルのマイク機能は、同時に使用することができません。

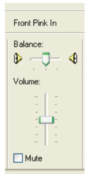
ステップ 3：
システムトレイで **Volume (ボリューム)** アイコンを探し、そのアイコンをクリックして音量コントロールパネルを開きます。



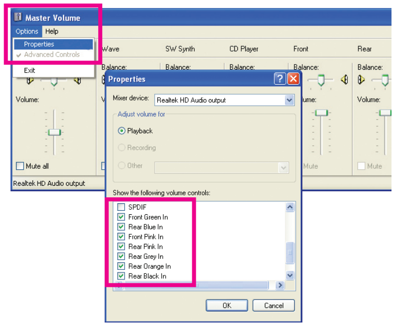
ステップ 4：
前面パネルのマイク機能を使用しているとき、録音プロセス中のサウンドを聞くには、**Master Volume** (**マスターボリューム**) の **Front Pink In** (**前面ピンクイン**) または **Front Green In** (**前面グリーンイン**) の下で **Mute** (**消音**) チェックボックスを選択しないでください。音量は、中レベルに設定することをお勧めします。



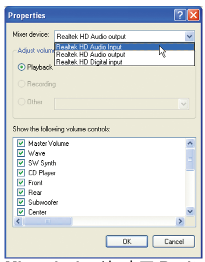
背面パネルのマイク機能を使用しているとき、または前面パネルで録音プロセス中のサウンドを聞くには、**Master Volume** の **Rear Pink In** の下で **Mute** チェックボックスを選択しないでください。音量は、中レベルに設定することをお勧めします。



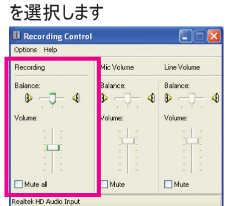
(注)
Master Volume で必要な音量コントロールオプションが見つからない場合、**Options** (**オプション**) メニューを表示し **Properties** (**プロパティ**) を選択します。表示する音量コントロールオプションを選択し、**OK** をクリックして完了します。



ステップ 5：
次に、**Master Volume** に入っている間に、**Options** を表示し **Properties** をクリックします。**Mixer device** (**マスターデバイス**) リストで、**Realtek HD Audio Input** (**Realtek HD オーディオ入力**) を選択します。次に、録音サウンドレベルを適切に設定します。録音サウンドを消音にしないでください。消音にすると、再生しても録音は聞こえません。



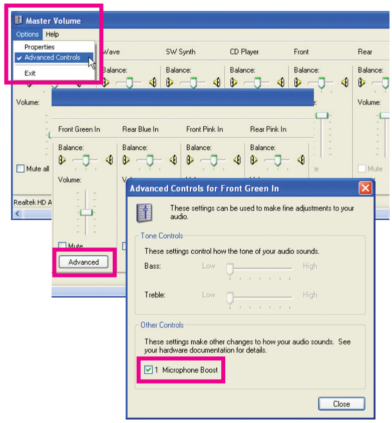
Mixer device リストで **Realtek HD Audio Input** を選択します



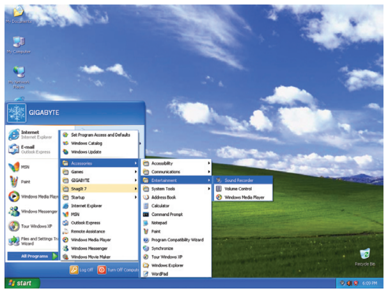
録音コントロール

(注)
オーディオ仕様に基づき、記録したサウンドを調整するには、**Recording** (**録音**)オプションを試用して記録したデバイスに対して記録したサウンドを設定します。

ステップ 6：
マイクでの録音および再生サウンドの音量を上げるには、**Master Volume** で **Options** を表示し **Advanced Controls** を選択します。音量コントロールオプションの下で **Advanced** ボタンをクリックします (たとえば、前面グリーンイン、前面ピンクイン)。**Other Controls** フィールドで、**1 Microphone Boost** チェックボックスを選択します。



ステップ 7：
完了したら、**Start** をクリックし、**Programs**、**Accessories**、**Entertainment** を順にポイントし、**Sound Recorder** をクリックしてサウンド録音を開始します。



5-2-5　サウンドレコーダを使用する

サウンドを録音する：
1. オーディオ入力デバイス (たとえば、マイク) をコンピュータに接続していることを確認します。
2. **File** メニューで、**New** を選択します。
3. サウンドファイルを録音するには、**Recording** ボタン をクリックします。
4. 録音を停止するには、**Stop** ボタン をクリックします。

完了時に、録音を保存するのを忘れないでください。

サウンドを再生する：
1. **File** メニューで、**Open** を選択します。
2. **Open** ダイアログボックスで、再生するサウンド (.wav) ファイルを選択します。
3. サウンドファイルを再生するには、**Play** ボタン をクリックします。
4. 再生を停止するには、**Stop** ボタン をクリックします。
5. **Fast Forward** ボタン を使用してファイルの始めに移動したり、**Fast Backward** ボタン を使用して最後に移動したりできます。

5-3 トラブルシューティング

5-3-1 良くある質問

マザーボードに関する FAQ の詳細をお読みになるには、GIGABYTEの Web サイトの Support\Motherboard\FAQ page (サポート\マザーボード\FAQ) にアクセスしてください。

Q: BIOS セットアッププログラムで、一部の BIOS オプションがないのは何故ですか?
A: いくつかのアドバンストオプションは BIOS セットアッププログラムの中に隠れています。POST 中に、<Delete> キーを押して BIOS セットアップに入ります。メインメニューで、<Ctrl>+<F1> を押してアドバンストオプションを表示します。

Q: なぜコンピュータのパワーを切った後でも、キーボードと光学マウスのライトが点灯しているのですか?
A: いくつかのマザーボードでは、コンピュータのパワーを切った後でも少量の電気でスタンバイ状態を保持しているので、点灯したままになっています。

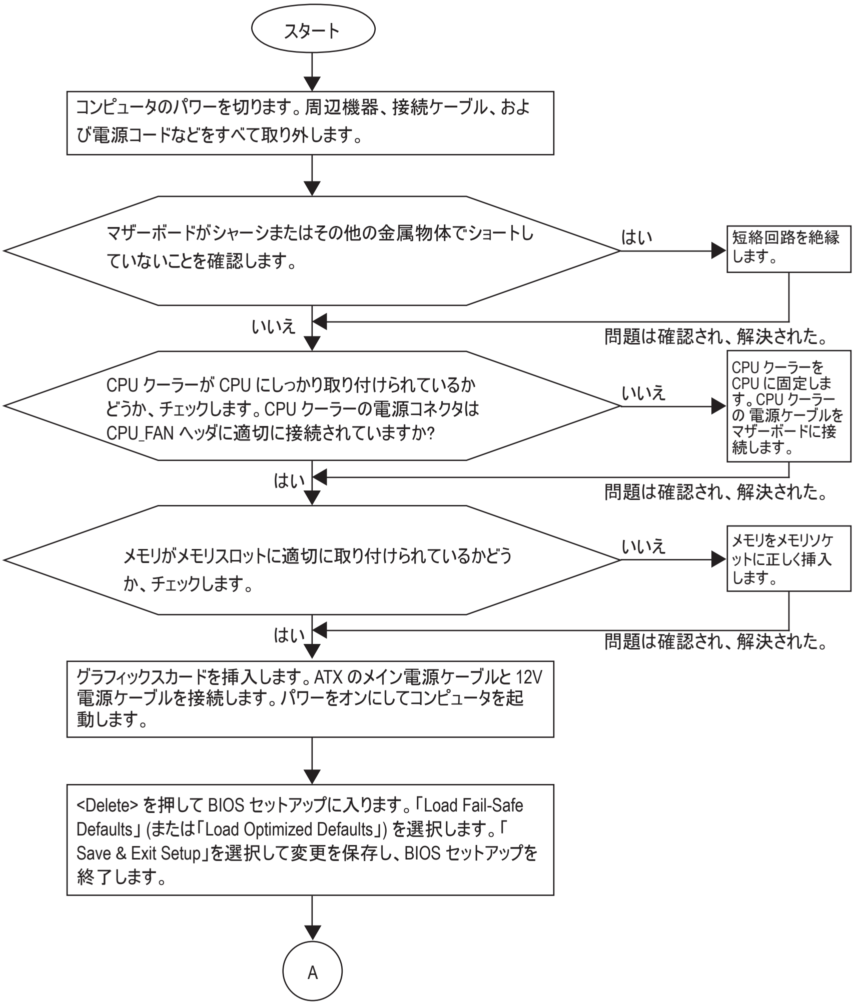
Q: CMOS 値をクリアするには?
A: マザーボードに CMOS クリアリングジャンパが付いている場合、第 1 章の CLR_CMOS ジャンパに関する説明を参照して CMOS 値をクリアしてください。ボードにこのジャンパが付いてない場合、第 1 章のマザーボードバッテリに関する説明を参照してください。バッテリホルダーからバッテリを一時的に取り外して、CMOS への電力の供給を停止し、それによって約 1 分後に CMOS 値をクリアすることができます。下記のステップを参照してください。
ステップ :
1. コンピュータのパワーをオフにし、パワーコードを抜きます。
2. バッテリホルダからバッテリをそっと取り外し、1 分待ちます。
(または、ドライバーのような金属物体を使用してバッテリホルダの正および負の端子に触れ、5 秒間ショートさせます)。
3. バッテリを交換します。
4. 電源コードを差し込み、コンピュータを再起動します。
5. <Delete> を押して BIOS セットアップに入ります。「Load Fail-Safe Defaults」 (または「Load Optimized Defaults」) を選択して、BIOS のデフォルト設定をロードします。
6. 変更を保存して BIOS セットアップを終了し (「Save & Exit Setup」を選択)、コンピュータを再起動します。

Q: なぜスピーカーの音量を最大にしても弱い音しか聞こえてこないのでしょうか?
A: スピーカーにアンプが内蔵されていることを確認してください。内蔵されていない場合、電源/アンプでスピーカーを試してください。

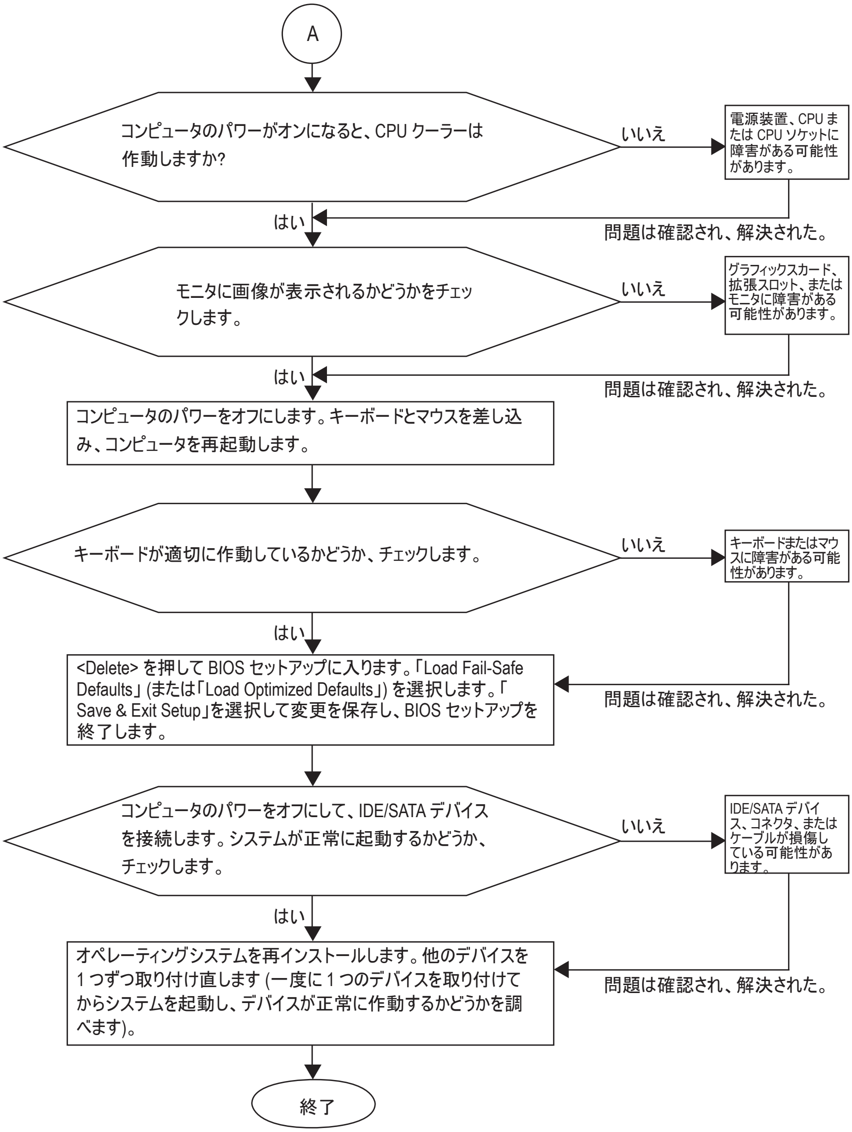
Q: POST 中にビープ音が鳴るのは、何を意味していますか?
A: 次の Award BIOS ビープ音コードの説明を参照すれば、考えられるコンピュータの問題を確認できます。(参照のみ)
1 短 : システム起動成功
2 短 : CMOS 設定エラー
1 長、1 短 : メモリまたはマザーボードエラー
1 長、2 短 : モニターまたはグラフィックスカードエラー
1 長、3 短 : キーボードエラー
1 長、9 短 : BIOS ROMエラー
連続のビープ(長) : グラフィックスカードが適切に挿入されていません
連続のビープ(短) : パワーエラー

5-3-2 トラブルシューティング手順

システム起動時に問題が発生した場合、以下のトラブルシューティング手順に従って問題を解決してください。



(続く)



NOTE

上の手順でも問題が解決しない場合、ご購入店または地域の代理店に相談してください。または、サポート¥技術サービスゾーンページにアクセスして、問題を送信してください。当社の顧客サービス担当者が、できるだけ速やかにご返答いたします。

5-4　規制準拠声明

規制通知

このドキュメントは当社の書面による許可なしにはコピーすることができません。また、その内容を第三者に提供したり不正な目的で使用することもできません。違反すると、起訴されることがあります。ここに含まれる情報は、印刷時点ですべての点において正確であったと信じています。しかし、GIGABYTE はこのテキストでの誤植や脱落に責任を負いません。また、このドキュメントの情報は将来予告なしに変更することがありますが、GIGABYTE で必ず変更するいうことではありません。

環境保全への関与

すべてのGIGABYTE マザーボードは高性能であるだけでなく、欧州連合の RoHS (特定有害物質使用制限指令)および WEEE (廃電気電子機器指令) 環境指令、および世界のほとんどの安全要件を満たしています。有害物質が環境に廃棄されないように、また天然資源の使用を最大限に高めるために、GIGABYTE では「使用期限の切れた」製品の材料を責任を持ってリサイクルしたり、再使用する方法について、次の情報を提供いたします。

有害物質の規制 (RoHS) 指令声明

GIGABYTE製品は有害物質 (Cd、Pb、Hg、Cr+6、PBDE、PBB) を追加することは目的としていません。また、これらの有害物質から守るものでもありません。部品とコンポーネントは RoHS 要件を満たすように、慎重に選択されています。さらに、GIGABYTE では国際的に禁止されている有毒化学物質を使用しない製品の開発にも引き続き努力を払っています。

廃電気電子機器 (WEEE) 指令への声明

GIGABYTEは2002/96/EC WEEE (廃電気電子機器)指令から解釈して、国内法に従っています。
WEEE指令は電気電子デバイスとそのコンポーネントの取扱、収集、リサイクルおよび廃棄を指定しています。指令に基づき、使用済み機器にはマークを付け、分別収集し、適切に廃棄する必要があります。

WEEE 記号声明

製品やそのパッケージに付けられた以下の記号は、本製品を他の廃棄物と一緒に処分してはいけないことを示しています。代わりに、ごみ収集センターに持ち込んで、処理、収集、リサイクルおよび廃棄する必要があります。廃棄時に廃棄機器の分別収集とリサイクルをすることで、天然資源が保全され、人間の健康と環境を保護するようにリサイクルされます。

廃棄機器のリサイクル場所の詳細については、地方自治体に、また環境に安全なリサイクルの詳細については、家庭廃棄物処理サービスまたは製品のご購入店にお問い合わせください。

- お使いの電気電子機器の寿命が切れた場合、地域のごみ収集センターに「持ち込んで」リサイクルしてください。
- 「寿命の切れた」製品のリサイクル、再使用についてさらにアドバイスが必要な場合、製品のユーザーマニュアルに一覧した顧客ケアに電話をお掛けください。適切な方法をお知らせいたします。

最後に、本製品の省エネ機能を理解して使用したり、本製品を配送したときに梱包していた内部と外部のパッケージ(輸送用コンテナを含む)をリサイクルしたり、使用済みバッテリを適切に廃棄またはリサイクルすることにより、他の環境に優しい行動を取るようにお奨めします。お客様の支援があれば、電気電子機器の生産に必要な天然資源の量を削減し、「寿命の切れた」製品の処分用のごみ廃棄場の使用を最小限に抑え、有害の危険性のある物質を環境に流入しないようにし適切に処分することにより生活の質を改善することができます。

中国の危険有害物質の規制表

次の表は、中国の危険有害物質の規制(中国RoHS)要件に準拠して供給されています：

关于符合中国《电子信息产品污染控制管理办法》的声明
Management Methods on Control of Pollution from Electronic Information Products
(China RoHS Declaration)

产品中有毒有害物质或元素的名称及含量
Hazardous Substances Table

部件名称(Parts)	有毒有害物质或元素(Hazardous Substances)					
	铅(Pb)	汞(Hg)	镉(Cd)	六价铬 (Cr(VI))	多溴联苯 (PBB)	多溴二苯醚 (PBDE)
PCB板 PCB	○	○	○	○	○	○
结构件及风扇 Mechanical parts and Fan	×	○	○	○	○	○
芯片及其他主动零件 Chip and other Active components	×	○	○	○	○	○
连接器 Connectors	×	○	○	○	○	○
被动电子元器件 Passive Components	×	○	○	○	○	○
线材 Cables	○	○	○	○	○	○
焊接金属 Soldering metal	○	○	○	○	○	○
助焊剂，散热膏，标签及其他耗材 Flux,Solder Paste,Label and other Consumable Materials	○	○	○	○	○	○

○:表示该有毒有害物质在该部件所有均质材料中的含量均在SJ/T11363-2006标准规定的限量要求以下。
Indicates that this hazardous substance contained in all homogenous materials of this part is below the limit requirement SJ/T 11363-2006

×:表示该有毒有害物质至少在该部件的某一均质材料中的含量超出SJ/T11363-2006标准规定的限量要求。
Indicates that this hazardous substance contained in at least one of the homogenous materials of this part is above the limit requirement in SJ/T 11363-2006

对销售之日的所受售产品，本表显示我公司供应链的电子信息产品可能包含这些物质。注意：在所售产品中可能会也可能不会含有所有所列的部件。
This table shows where these substances may be found in the supply chain of our electronic information products, as of the date of the sale of the enclosed products, Note that some of the component types listed above may or may not be a part of the enclosed product.

連絡先

- **GIGA-BYTE TECHNOLOGY CO., LTD.**

Address: No.6, Bau Chiang Road, Hsin-Tien,
Taipei 231, Taiwan
TEL: +886-2-8912-4888
FAX: +886-2-8912-4003
Tech. and Non-Tech. Support (Sales/Marketing) :
http://ggts.gigabyte.com.tw
WEB address (English): http://www.gigabyte.com.tw
WEB address (Chinese): http://www.gigabyte.tw

- **G.B.T. INC. - U.S.A.**

TEL: +1-626-854-9338
FAX: +1-626-854-9339
Tech. Support:
http://rma.gigabyte-usa.com
Web address: http://www.gigabyte.us

- **G.B.T. INC (USA) - Mexico**

Tel: +1-626-854-9338 x 215 (Soporte de habla hispano)
FAX: +1-626-854-9339
Correo: soporte@gigabyte-usa.com
Tech. Support:
http://rma.gigabyte-usa.com
Web address: http://latam.giga-byte.com/

- **GIGA-BYTE SINGAPORE PTE. LTD. - Singapore**

WEB address : http://www.gigabyte.sg

- **Thailand**

WEB address : http://th.giga-byte.com

- **Vietnam**

WEB address : http://www.gigabyte.vn

- **NINGBO G.B.T. TECH. TRADING CO., LTD. - China**

WEB address : http://www.gigabyte.cn

Shanghai
TEL: +86-21-63410999
FAX: +86-21-63410100

Beijing
TEL: +86-10-62102838
FAX: +86-10-62102848

Wuhan
TEL: +86-27-87851312
FAX: +86-27-87851330

GuangZhou
TEL: +86-20-87540700
FAX: +86-20-87544306

Chengdu
TEL: +86-28-85236930
FAX: +86-28-85256822

Xian
TEL: +86-29-85531943
FAX: +86-29-85510930

Shenyang
TEL: +86-24-83992901
FAX: +86-24-83992909

- **GIGABYTE TECHNOLOGY (INDIA) LIMITED - India**

WEB address : http://www.gigabyte.in

- **Saudi Arabia**

WEB address : http://www.gigabyte.com.sa

- **GIGABYTE TECHNOLOGY PTY. LTD. - Australia**

WEB address : http://www.gigabyte.com.au

- **G.B.T. TECHNOLOGY TRADING GMBH - Germany**

WEB address : http://www.gigabyte.de

- **G.B.T. TECH. CO., LTD. - U.K.**

WEB address : http://www.giga-byte.co.uk

- **GIGA-BYTE TECHNOLOGY B.V. - The Netherlands**

WEB address : http://www.giga-byte.nl

- **GIGABYTE TECHNOLOGY FRANCE - France**

WEB address : http://www.gigabyte.fr

- **Sweden**

WEB address : http://www.giga-byte.se

- **Italy**

WEB address : http://www.giga-byte.it

- **Spain**

WEB address : http://www.giga-byte.es

- **Greece**

WEB address : http://www.giga-byte.gr

- **Czech Republic**

WEB address : http://www.gigabyte.cz

- **Hungary**

WEB address : http://www.giga-byte.hu

- **Turkey**

WEB address : http://www.gigabyte.com.tr

- **Russia**

WEB address : http://www.gigabyte.ru

- **Poland**

WEB address : http://www.gigabyte.pl

- **Ukraine**

WEB address : http://www.gigabyte.ua

- **Romania**

WEB address : http://www.gigabyte.com.ro

- **Serbia**

WEB address : http://www.gigabyte.co.yu

- **Kazakhstan**

WEB address : http://www.giga-byte.kz

GIGABYTE web サイトにアクセスし、web サイトの右下の言語リストで言語を選択してください。

- **GIGABYTE Global Service System**

技術的または技術的でない (販売/マーケティング)質問を送信するには:
http : //ggts.gigabyte.com.tw にリンクしてから、言語を選択し、システムに入ります。